ISSN 1346-6976

石 川 県 立 看 護 大 学

年 報

第 19 巻

平成 30 年度

石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

巻頭言

平成 30 年度は、これまで数年がかりで検討してきた看護学部の改訂カリキュラムの大詰めを迎え、次年度からこのカリキュラムを動かす準備を整えました。

改訂学部カリキュラムは、地域包括ケア時代に向けた看護人材養成の布石とする考えのもとに検討され、系統的な教育提供となるよう、科目内容の精査と単位数・配当年次等の改訂を行ったものです。併せて統合実習科目を看護教員全員体制で提供する内容に刷新し、学生に対する教育効果の改善を目指しています。助産師養成課程開設においては、教育備品や教員定員増等の支援を石川県からいただき、順調に学生も確保でき、スムースな出発が実現できました。この課程の入学者は 8 割が本学学部からの直接的な進学者であったことから、波及効果として助産師養成課程に限定しない学部からの直接的な大学院進学が奨励され始めたところです。

その他の学内改革として、3 つのアクションプランと 3 つの方針を打ち出しました。それぞれ①「図書館の充実アクションプラン」、②「広報の見直しアクションプラン」、③「基礎科学教育の拡充」、及び①「求める教員像・教員組織の編成方針」、②「教育の内部質保証に関する方針」、③「グローカル人材育成プラン」です。

アクションプランは 2023 年度完成を目標に置き、計画的に予算をつけます。「基礎科学教育の拡充」は看護系以外の教育の充実に関する検討を行います。①、②の方針は近年大学の方針を明文化することが求められている事柄についての本学の方針を示したものです。③の「グローカル人材育成プラン」は従来から本学が力を入れてきたグローバル教育（学生の海外研修）とローカル教育（地域の生活と健康とのつながりを深く知る石川県下における地域ベースの教育）の合体効果を狙う教育をあらためて明文化したものです。

平成 30 年度はこのような内容で本学の歴史に新たな 1 ページを加えましたが、加えて、今後の 10 年間に向けて、本学が目指す新たなステージの方向性が顕在化してきた年でもあったと思われます。

一方、大学をめぐる社会情勢は、学力の 3 要素を評価する大学入試改革の大詰めを迎えています。本学では、石川県内の高等学校との意見交換を重視し、集合型および訪問型の方法で高校と関係を深め、入試改革に参考になる考えの収集と本学の求める人材の周知を図りました。また高校の先生の指摘を受けてホームページを見直し、高大接続を意識したページ作りを行いました。

このような多忙な年でしたが、本来の教育研究や地域貢献とも真摯に向き合いました。この年報は、この 1 年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果等が、正直にほぼ網羅的に掲載されています。

皆様、是非 http://www.ishikawa-nu.ac.jp/ にもアクセスしてみて下さい。本学に対する忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学　学長　石垣和子

第 19 回入学式
（平成 30 年 4 月 4 日）

夏のオープンキャンパス
（平成 30 年 7 月 14 日）

第 14 回夏期アメリカ看護研修
（平成 30 年 8 月 31 日～ 9 月 13 日）

タイ国立チェンマイ大学看護研修
（平成 30 年 8 月 25 日～ 9 月 9 日）

JICA　日系研修
（平成 30 年 6 月 29 日～ 7 月 9 日）

JICA　青年研修
（平成 30 年 11 月 29 日～ 12 月 11 日）

管理者研修
（平成 30 年 9 月 21 日）

認知症看護認定看護師教育課程　修了式
（平成 31 年 2 月 13 日）

第 15 回卒業式
（平成 31 年 3 月 16 日）

目　次

巻頭言
1.　学事…… 1
1.1　平成 30 年度学事暦 …… 1
1.2　大学組織図…… 2
1.2.1　大学組織図 …… 2
1.2.2　常設委員会構成 …… 3
1.3　オープンキャンパス…… 5
1.3.1　夏のオープンキャンパス …… 5
1.3.2　秋のオープンキャンパス …… 5
1.4　懇話会…… 6

2.　教員・職員…… 8
2.1　教員紹介…… 8
2.2　特任教員等紹介…… 12
2.3　教員組織構成…… 12
2.3.1　所属領域・講座と職位構成 …… 12
2.3.2　職位別年齢構成 …… 13
2.3.3　大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員 …… 13
2.3.4　博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成 …… 13
2.3.5　博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成 …… 13
2.4　職員紹介…… 14

3.　中期計画…… 15
3.1　第 2 期中期計画（平成 29 年度～ 34 年度）における平成 30 年度計画と実績 …… 15
3.1.1　平成 30 年度計画の概略…… 15
3.1.2　平成 30 年度実績の概略…… 16

4.　看護学部看護学科…… 20
4.1　理念・目標…… 20
4.1.1　教育理念 …… 20
4.1.2　教育目標 …… 20
4.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）…… 20
4.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）…… 21
4.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）…… 21
4.2　学部学生の入学・在学・卒業の状況…… 22
4.3　教育・履修体制…… 25
4.4　委員会活動…… 26
4.4.1　常設委員会 …… 26
4.4.1.1　教務委員会…… 26
4.4.1.2　学生委員会…… 28

4.4.1.2.1　学生相談専門部会 …… 28
4.4.1.2.2　進路支援専門部会 …… 29
4.4.1.3　研究推進委員会…… 31
4.4.1.4　学内研究助成審査委員会…… 32
4.4.1.5　石川看護雑誌編集委員会…… 32
4.4.1.6　情報システム委員会（含むセキュリティ）…… 33
4.4.1.7　広報委員会…… 34
4.4.1.8　入学試験委員会…… 36
4.4.1.8.1　入試実施部会 …… 37
4.4.1.8.2　入試評価部会 …… 37
4.4.1.9　自己点検・評価委員会…… 38
4.4.1.9.1　教員評価部会 …… 39
4.4.1.9.2　年報編集部会 …… 39
4.4.1.10　FD 委員会 …… 39
4.4.1.11　ハラスメント委員会 …… 41
4.4.1.12　コンプライアンス委員会 …… 41
4.4.1.13　倫理委員会 …… 42
4.4.1.14　衛生委員会 …… 43
4.4.2　特設委員会 …… 44
4.4.2.1　大学改革委員会…… 44
4.4.2.1.1　カリキュラム改定班 …… 44
4.4.2.1.2　大学院・専攻科検討班 …… 44
4.5　平成 30 年度　卒業研究論文題目一覧 …… 46

5.　大学院・看護学研究科…… 51
5.1　理念・目標…… 51
5.1.1　博士前期課程（修士）…… 51
5.1.1.1　教育理念…… 51
5.1.1.2　教育目標…… 51
5.1.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）…… 52
5.1.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）…… 52
5.1.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）…… 52
5.1.2　博士後期課程（博士）…… 53
5.1.2.1　教育理念…… 53
5.1.2.2　教育目標…… 53
5.1.2.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）…… 53
5.1.2.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）…… 54
5.1.2.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）…… 54
5.2　大学院生の入学・在学・修了の状況…… 55
5.3　大学院教務学生委員会…… 57
5.4　大学改革委員会　大学院・専攻科検討班…… 58
5.5　平成 30 年度　修士論文題目一覧 …… 59

5.6　平成 30 年度　博士論文題目一覧 …… 59

6.　教員の業績…… 60
6.1　書籍…… 60
6.1.1　書籍（著書）…… 60
6.2　学術論文…… 61
6.2.1　査読有 …… 61
6.2.2　査読無 …… 64
6.3　その他の原稿…… 64
6.4　学会発表…… 65
6.5　社会活動・地域貢献…… 72
6.6　その他（受賞等）…… 85
6.7　研究助成金…… 85
6.7.1　科学研究費助成事業（日本学術振興会）…… 85
6.7.1.1　科学研究費補助金…… 85
6.7.1.2　学術研究助成基金助成金…… 85
6.7.2　学内研究助成費 …… 87
6.7.3　その他助成金等 …… 88

7.　国際交流…… 89
7.1　国際交流委員会…… 89
7.2　夏期アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」）…… 93
7.3　平成 30 年度タイ国立チェンマイ大学看護研修 …… 95

8.　地域創生…… 98
8.1　地域創生委員会…… 98
8.2　能登キャンパス構想推進事業…… 99
8.2.1　能登キャンパス構想事業班 …… 99
8.3　地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）…… 100
8.3.1　COC プラス事業班 …… 100

9.　附属図書館…… 101
9.1　図書館運営委員会…… 101
9.2　今年度の主な活動概況…… 102
9.2.1　図書館事業の実施 …… 102
9.3　資料整備状況…… 103
9.3.1　分野別蔵書構成 …… 103
9.3.2　医学分類蔵書構成 …… 103
9.3.3　看護系資料分類別構成 …… 103
9.4　利用統計…… 104
9.4.1　開館日数・入館者数 …… 104
9.4.2　館外利用者数及び冊数 …… 104

9.4.3　他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数 …… 104
9.4.4　他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数 …… 104
9.4.5　館内設置コピー機による複写件数・枚数 …… 105
9.4.6　相互貸借貸出冊数 …… 105
9.4.7　相互貸借借受冊数 …… 105
9.4.8　データベースアクセス状況 …… 105
9.5　利用者サービス …… 106
9.5.1　学内向図書館サービス …… 106
9.5.2　学外向図書館サービス …… 106
9.5.3　学内で利用できるデータベース …… 107
9.6　職員研修 …… 107
9.6.1　附属図書館職員の研修 …… 107

10.　附属地域ケア総合センター …… 108
10.1　地域ケア総合センター運営委員会 …… 108
10.1.1　人材育成部会 …… 108
10.1.2　地域活動部会 …… 109
10.1.3　国際貢献部会 …… 109

11.　附属看護キャリア支援センター …… 110
11.1　看護キャリア支援センター運営委員会 …… 110
11.2　認知症看護認定看護師教育課程 …… 111
11.2.1 受講生の受講・修了状況 …… 111
11.2.2　入学試験・入試説明会の実施 …… 111
11.2.3　認知症看護認定看護師教育課程入試委員会 …… 111
11.2.4　認知症看護認定看護師教育課程教員会 …… 112
11.3　認定看護管理者教育課程 …… 112
11.3.1　受講生の受講・修了状況 …… 112
11.3.2　認定看護管理者教育運営委員会 …… 112
11.4　石川県委託事業の開催 …… 112
11.4.1　石川県看護教員現任研修事業 …… 112
11.4.2　管理者経営研修 …… 113
11.5　感染管理認定看護師フォローアップ研修 …… 113

12.　大学として取り組んでいる連携事業 …… 114
12.1　超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 …… 114
12.1.1　がんプロ企画委員会 …… 114

13.　大学施設の開放 …… 117

編集後記 …… 118

1. 学事

1.1　平成30年度学事暦

平成30年

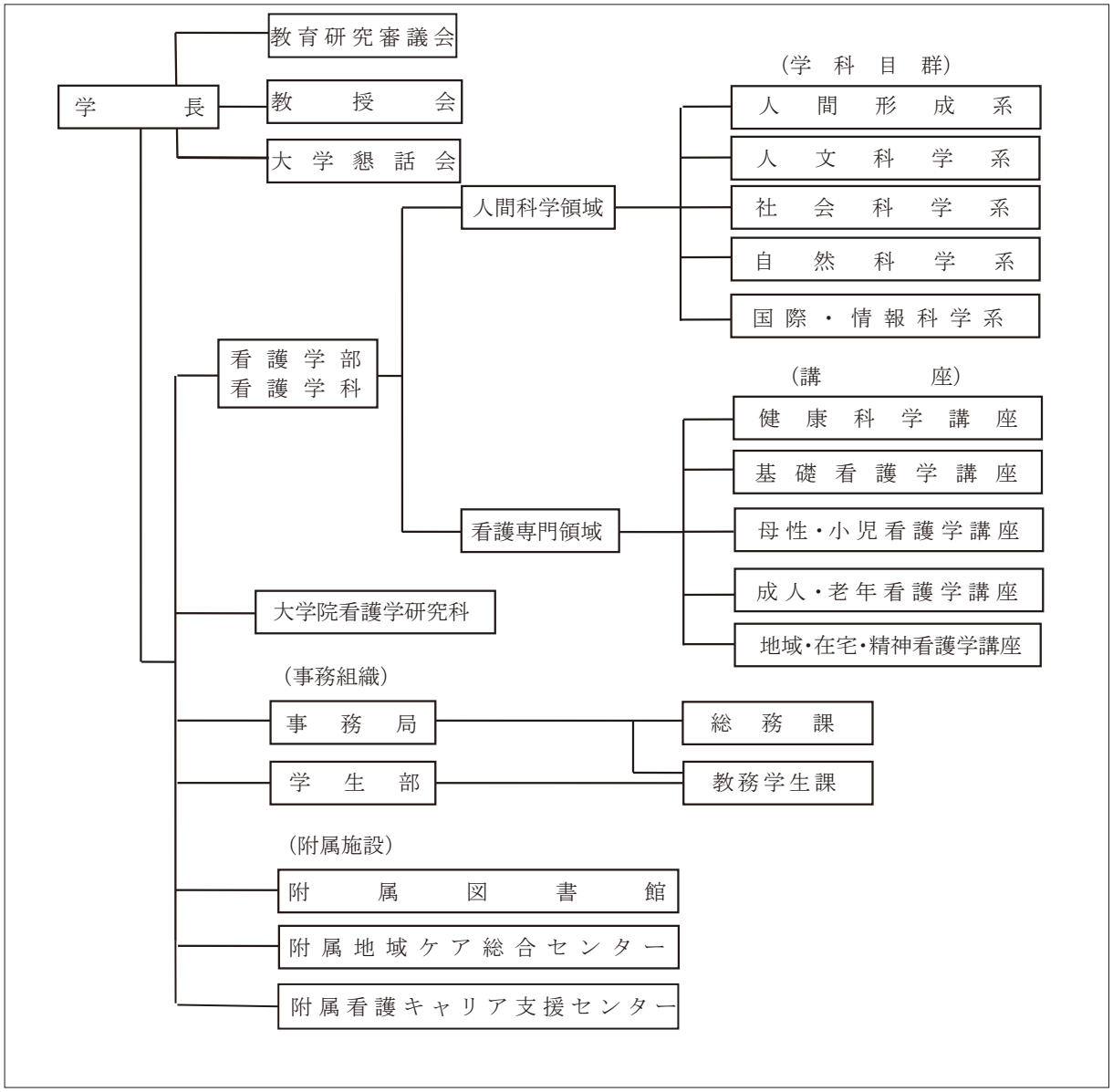
4月 4日（水）	入学式
4月 5日（木）～ 4月 6日（金）	ガイダンス
	学生健康診断
4月 9日（月）	授業開始
4月 5日（木）～ 4月11日（水）	前期履修登録受付
5月12日（土）	入学試験（大学院博士前期課程（学内選抜））
5月29日（火）	開学記念日・開学記念講演会
7月14日（土）	夏のオープンキャンパス
7月30日（月）～ 8月 8日（水）	前期補講・試験
8月 9日（木）～ 9月30日（日）	夏季休業
9月22日（土）	入学試験（大学院博士前期課程・後期課程）
10月 1日（月）	後期授業開始
9月20日（木）～10月 4日（木）	後期履修登録受付
10月27日（土）～10月28日（日）	大学祭　27日（土）秋のオープンキャンパス
11月17日（土）	入学試験（推薦入試・社会人入試）
12月25日（火）～ 1月 4日（金）	冬季休業

平成31年

1月19日（土）～ 1月20日（日）	大学入試センター試験
1月26日（土）	入学試験（大学院博士前期課程（第2次募集））
2月 8日（金）～ 2月20日（水）	後期補講・試験
2月25日（月）	入学試験（一般入試前期日程）
3月12日（火）	入学試験（一般入試後期日程）
3月16日（土）	卒業式・学位授与式
2月21日（木）～ 3月31日（日）	春季休業

1.2　大学組織図

1.2.1　大学組織図



1.2.2　常設委員会構成

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
教務委員会*	学長の指名	小講座から各1名（助教以上）ただし、基礎･成人からは各2名	26
学生委員会*	学生部長	大講座から各1名以上（助教以上）＋各学年担任から1名	28
学生相談専門部会	学生部長	4名（助教以上）＋学生部長	28
進路支援専門部会	学生部長の指名	看護の小講座から1名（講師以上）	29
図書館運営委員会	附属図書館長	大講座から各1名（講師以上）	101
石川看護雑誌編集委員会*	図書館長の指名	5名	32
研究推進委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	31
学内研究助成審査委員会	学長の指名	5名（教授のみ）	32
情報システム委員会	学長の指名	5名	33
地域ケア総合センター運営委員会*	附属地域ケア総合センター長	小講座から1名（講師以上）	108
人材育成部会		3名	108
地域活動部会		3名	109
国際貢献部会		3名	109
看護キャリア支援センター運営委員会*	附属看護キャリア支援センター長	センターの教員3名 その他学長が指名する者5名	110
認知症看護教員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、公益社団法人石川県看護協会の役員1名、医療機関の看護管理者2名、その他学長が指名する者2名	112
認知症看護入試委員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、教育経験を有する認知症看護認定看護師3名、その他学長が指名する者1名	111
認定看護管理者教育運営委員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員2名､医療機関の看護管理者4名、その他学長が指名する者1名	112
国際交流委員会	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）＋委員長指名3名	89
広報委員会*	学長の指名	役職者＋HPへの文章登載の役割を担う者	34
入学試験委員会	学長	大講座から各1名(准教授以上)	36
入試実施部会	入試委員長の指名	大講座から各1名以上（助手以上）	37
入試評価部会	入試委員長の指名	3名（講師以上）	37
問題編集部会（非公表）	学長の指名	3名	

*委員会運営を助ける助手・助教1 ～ 2名が学長指名で追加される。

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
自己点検・評価委員会*	学長	役職者、学長指名4名	38
教員評価部会	学長の指名	3名	39
年報編集部会	学長の指名	3名	39
FD委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	39
ハラスメント委員会	学長	5名	41
コンプライアンス委員会	研究科長	5名	41
大学院教務学生委員会	研究科長	5名	57
倫理委員会	研究科長	学内7名＋学外2名	42
がんプロ企画委員会	学長の指名	学長指名	114
衛生委員会	衛生管理者の資格を有する教員	理事長指名＋過半数代表者推薦	43

*委員会運営を助ける助手・助教1 ～ 2名が学長指名で追加される。

1.3　オープンキャンパス

1.3.1　夏のオープンキャンパス

1．日　時：平成30年7月14日（土）　10時00分～14時00分
2．参加者：386名
3．概　要：
　1）大学説明会
　　・オリエンテーション
　　・本学の概要説明
　　・入試説明
　2）模擬授業　濵教授「女性の健康づくりについて～幅広い視点から考えよう～」
　3）保護者セミナー
　　・カリキュラム、国家試験、進学・就職について
　　・学費・奨学金、アパート情報について
　4）学生によるキャンパスライフの紹介
　　・看護学実習、アメリカ看護研修について
　　・サークル・課外活動について
　5）在学生・教職員による相談・交流コーナー
　6）施設見学・看護学実習体験

夏のオープンキャンパス2018では、県内外から高校生、専門学校生、社会人および保護者ら386名の参加があった。

本学の学生広報委員や学生ボランティア、教職員らがキャンパス見学や看護学実習体験、相談・交流コーナー、保護者セミナーなどの各企画を担当し、参加者との交流を行った。

このオープンキャンパスが、参加者にとって本学への理解や関心を深める機会となり、一人でも多く本学への進学を志してもらえることを期待する。

1.3.2　秋のオープンキャンパス

1．日　時：平成30年10月27日（土）　9時30分～12時00分
2．参加者：96名
3．概　要：
　1）大学案内
　　・学長からのメッセージ
　2）学生によるキャンパスライフの紹介
　3）入試準備セミナー　村井嘉子教授、川島和代教授、武山雅志教授
　4）在学生・教職員による相談・交流コーナー

秋のオープンキャンパス2018では、県内外から高校生、保護者や社会人ら96名の参加があった。

学長からのメッセージに始まり、学生から講義や実習、夏期アメリカ看護研修を含めたキャンパスライフの紹介、また教員からは入試準備セミナーで小論文と面接について具体的なポイントを伝えた。

参加者のほとんどが今年度の受験対象者であり、入学試験に対する心構えや、大学生活や将来の職業観等について考える上で、参考になったことを期待する。

大学祭（看大祭）が同日開催であったことも、大学の雰囲気を知ることに繋がった。

1.4　懇話会

石川県立看護大学懇話会

県内の看護関係の団体、県民の代表者等から意見を聴取し、地域に密着した大学としての運営に資するため、石川県立看護大学に懇話会を設置する。

1. 開催日時：　平成31年2月26日（火）17時00分～
2. 開催場所：　石川県立看護大学管理棟2階小会議室
3. 学外出席者：

(9名)	石川県医師会長	安田　健二
	石川県看護協会長	吉野　幸枝
	石川県立中央病院長	岡田　俊英
	石川県立中央病院看護部長	長　　真美恵
	金沢医療センター看護部長	青木　きみ代
	金沢大学医薬保健研究域保健学系教授	稲垣　美智子
	会議通訳、翻訳者	早川　芳子
	石川県高等学校長協会長 金沢泉丘高等学校長	宮﨑　栄治
	かほく市長	油野　和一郎

学内出席者：　学長、研究科長、学生部長、図書館長、看護キャリア支援センター長、地域ケア総合センター長、学長補佐(2名)、事務局長、総務課長、教務学生課長

4. 主な内容：
   (1)看護大学の現況について
   ・組織、教職員数、入学定員、卒業後の資格、入試の状況等について
   (2)学生の進路状況について
   ・学部の状況、大学院の状況について
   (3)学部教育・大学院教育・生涯教育について
   ・大学院修士･博士課程の研究、キャリア支援センター概要等について
   (4)地域貢献及び国際貢献について
   ・地域ケア総合センターの事業等について
   (5)意見交換
   ・キャリア教育、地域連携、高大接続・入試改革、看護大学への要望等について

2　教員・職員

2.1　教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	准教授	垣花　渉
	社会科学系群	社会学	講師	三部倫子
	人文科学系群	心理学	教授	武山雅志
	自然科学系群	人間工学	教授	小林宏光
	国際・情報科学系群	情報科学	教授	松原　勇
		英語	准教授	加藤　穣
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	長谷川　昇
			教授	今井美和
			講師	市丸　徹
		保健・治療学	教授	多久和　典子
			教授	大木秀一
	基礎看護学講座	基礎看護学	教授	丸岡直子
			教授	中田弘子
			准教授	木森佳子
			准教授	林　静子
			助教	田村幸恵
			助教	田淵知世
			助手	三輪早苗
			助手	瀬戸清華
	母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	濵　耕子
			教授	亀田幸枝
			准教授	米田昌代
			講師	曽山小織
			助教	桶作　梢
			助手	河合美佳
		小児看護学	教授	西村真実子
			講師	金谷雅代

研　　究　　課　　題
参加型健康教育が心身の健康に及ぼす影響、初年次教育の実践的研究
LGBTによる家族形成の研究、医療者とLGBTの相互行為の研究
新日本版MMPIにおける基礎研究、看護学生のコミュニケーションに関する研究、被災地学生ボランティア活動に関する研究
心拍変動（Heart rate variability）および唾液バイオマーカーの分布特性その応用研究
在宅ケア（特に脳卒中既往者）の疫学統計、THP（トータル・ヘルス・プロモーション）の疫学統計、情報処理教育方法の改善研究
医学・看護英語に関する研究、英語圏の医療制度に関する研究、医療倫理に関する研究
低栄養防止、認知機能・身体機能の重症化予防の推進、機能性食品による更年期症状緩和効果、ロコモティブシンドローム予防のための根拠に基づいた実践
若年女性の子宮頸がん予防行動に関する研究
生殖機能の調節に関する研究
生理活性脂質メディエーターの生理学・病態生理学的意義の解明、現代のメディカルプロフェショナル育成：新しい教育メソッドの構築、疾患の病態生理に立脚した生活習慣病の予防指導、分子と細胞の機能理解の看護学への応用
ライフコース行動遺伝疫学研究、多胎児家庭に関する包括的な研究、当事者参加型の地域実践研究
在宅療養移行支援（退院支援）に関する研究、看護管理に関する研究、転倒リスクマネジメントに関する研究
看護技術に関する研究、補完代替療法に関する研究、看護用具のデザイン・開発に関する研究
看護技術に関する基礎研究と開発、創傷リスクアセスメント、予防・創傷治癒促進の技術についての研究、フィジカルアセスメント技術に関する研究
看護師の視覚による観察に関する研究、看護技術による生理的反応に関する研究
看護学実習における教員と指導者の連携についての研究、基礎看護教育に関する研究、心不全患者への看護に関する研究
外国人住民における健康課題の研究、多文化共生のための保健医療サービスの研究、退院調整に関する研究
看護技術に関する研究、基礎看護教育に関する研究
神経難病患者のケアに関する研究、在宅療養者と家族介護者に関する研究
夫婦の親役割適応に関する研究、周産期の健康とQOL評価、女性向け補整下着の開発評価に関わる研究
出産前教育の効果や測定用具に関する研究、助産師教育に関する研究
流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究
周産期の看護に関する研究、子育て支援に関する研究、生殖補助医療の看護に関する研究
母乳育児支援に関する研究、AYA世代の女性がんサバイバーの性と生殖に関する研究
周産期看護に関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、育児不安･育児困難・虐待に悩む母親への支援に関する研究、子育て支援に関する研究
育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究、子どもへのデスエデュケーション･グリーフケアに関する研究

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
看護専門領域	母性・小児看護学講座	小児看護学	助教	千原裕香
			助手	山田ちづる
	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	牧野智恵
			教授	村井嘉子
			准教授	北山幸枝
			助教	松本智里
			助教	南堀直之
			助教	今方裕子
			助教	大西陽子
			助教	瀧澤理穂
		老年看護学	教授	川島和代
			講師	中道淳子
			助教	磯光江
			助手	渡辺達也
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	石垣和子
			准教授	阿部智恵子
			准教授	塚田久恵
			准教授	織田初江
			助教	曽根志穂
			助教	金子紀子
		在宅看護学	教授	林一美
			准教授	桜井志保美
			助教	子吉知恵美
			助教	山﨑智可
		精神看護学	准教授	谷本千恵
			講師	川村みどり
			講師	清水暢子
			助教	大江真吾
附属看護キャリア支援センター			准教授	石川倫子
			講師(専任教員)	多幡明美
			助教(専任教員)	堅田三和子

研　　究　　課　　題
子育て支援に関する研究、次世代育成教育に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
子育て支援に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究、妊娠先行型結婚をする母親の育児不安に関する研究
がん患者の「生きる意味」への支援、がん治療中および終末期がん患者への支援方法に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究、クリティカルケア看護におけるキュアとケアの融合を基盤とした看護実践に関する研究
皮膚・創傷の管理および看護技術に関する研究、栄養不良状態下における創傷発生時皮膚の組織学的検討
股関節疾患患者の歩容に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究
がん化学療法看護に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究
子どもをもつがん患者への支援に関する研究
高齢者施設等の看護と介護の連携に関する研究、看護技術の開発と適用に関する研究、看護理論の実践における検証（優れた実践の理論的検証）
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究
認知症を有する高齢透析患者に関する研究
視機能に関する研究、介護予防に関する研究
保健師活動に関する研究、僻地における看護に関する研究、家族看護に関する研究、異文化看護に関する研究
地域と暮らしと健康に関する研究
保健事業の評価に関する研究、保健事業とヘルスリテラシーに関する研究、介護予防に関する研究
地域看護・公衆衛生看護活動の評価に関する研究、行動変容・地域ケアシステム・介護予防・地域包括支援に関する研究、保健指導能力の育成・評価に関する研究
乳幼児をもつ母親の育児支援に関する研究、難病疾患の在宅療養支援に関する研究、地域における防災・減災活動に関する研究
地域特性を踏まえた子育て支援に関する研究、保健活動に関する研究
慢性疾患をもつ療養者と家族の看護に関する研究、要介護者と家族介護者の在宅ケアに関する研究
家族介護者の健康支援に関する研究、医療的ケア児の養育者に対する育児支援
障害児とその保護者への支援方法の構築に関する研究、重症心身障害児のレスパイト施設の看護師の介護者への援助方法に関する研究、子育て期にある在宅がん終末期療養者に対する訪問看護師による支援
精神科訪問看護に関する研究、地域における専門職間の連携に関する研究
精神障がい者の地域移行･定着支援に関する研究、精神科病院におけるインシデントに関する研究、精神障がい者の園芸プログラムに関する研究
長期入院を経験した精神障害者に関する研究、精神科看護の教育に関する研究
認知機能障害への介入とその効果測定、精神疾患患者における地域移行支援推進のための研究、認知機能低下予防に関する研究、農福連携に関する研究
自閉症スペクトラム障害患者・患児への支援に関する研究
看護師のキャリア支援に関する研究、看護教育に関する研究、在宅療養移行支援に関する研究

2.2　特任教員等紹介

職　　位	氏　　名	担　　当	任　　期
特任教授	浅　見　　洋	アカデミックアドバイザー	平成30年4月 1日～ 平成31年3月31日
特任教授	高 山　成 子	老年看護学	平成30年4月 1日～ 平成30年9月30日
特任講師	竹　田　昌　代	附属地域ケア総合センター	平成30年4月 1日～ 平成31年3月31日
特任講師	出 口 ま り 子	附属看護キャリア支援センター	平成30年4月 1日～ 平成31年3月31日
特任助手	濱鍛治　青水	北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン	平成30年5月14日～ 平成31年3月31日
臨時助教	寺井　梨恵子	基礎看護学	平成30年4月 1日～ 平成31年3月31日

2.3　教員組織構成（平成31年3月現在）

2.3.1　所属領域・講座と職位構成

単位（人）

学部・センター	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学領域		6(1)	6(1)	3(0)	2(0)	1(1)		
看護専門領域	健康科学	5(2)	5(2)	4(2)		1(0)		
	基礎看護学	8(8)	6(6)	2(2)	2(2)	0(0)	2(2)	2(2)
	母性・小児看護学	10(10)	8(8)	3(3)	1(1)	2(2)	2(2)	2(2)
	成人・老年看護学	12(10)	11(10)	3(3)	1(1)	1(1)	6(5)	1(0)
	地域・在宅・精神看護学	14(13)	14(13)	2(2)	5(5)	2(2)	5(4)	
附属看護キャリア支援センター		3(3)	3(3)		1(1)	1(1)	1(1)	
計		58(47)	53(43)	17(12)	12(10)	8(7)	16(14)	5(4)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.2　職位別年齢構成

単位（人）

職位	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
教　授	17 (12)			1	5	10	1
准教授	12 (10)			3	6	3	
講　師	8 (7)		1	3	4		
助　教	16 (14)		8	7	1		
教　員	53 (43)		9	14	16	13	1
助　手	5 (4)	1	3	1			
計	58 (47)	1	12	15	16	13	1

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.3　大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位（人）

課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	27(17)	16(16)	11(1)
博士後期課程	16(16)	10(10)	6(6)

（ ）の数字は内数であり教授の数を示す

2.3.4　博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位（人）

職位	計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	16 (12)	1	4	10	1
研究指導補助教員	11 (8)	2	5	4	
計	27 (20)	3	9	14	1

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2.3.5　博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位（人）

職位	計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	10 (10)	1	2	6	1
研究指導補助教員	6 (2)		2	4	
計	16 (12)	1	4	10	1

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2.4　職員（平成31年3月現在）

事務局長	出村邦夫

＜総　務　課＞

総務課長	田畠義仁
主幹兼係長	澤本保子
専門員	白山節子
主任主事	小林一生
主任主事	宮川泰生
主任主事	杉本聡子
主任主事	平村孝祐
非常勤嘱託	中嶋晴樹
非常勤嘱託	岸　恭子
事務員	干場伸子

＜教務学生課＞

教務学生課長	寺訳義人
専門員	納橋雅代
専門員	松本礼司
主事	北村尭之
非常勤嘱託	野川ゆみ
事務員	岡田浩美

＜附属地域ケア総合センター＞

センター長	(兼)武山　雅志

＜附属看護キャリア支援センター＞

センター長	(兼)林　一美
非常勤嘱託	寺井　みゆき

＜附属図書館＞

館長	(兼)西村真実子
非常勤嘱託(司書)	山村　徹
非常勤嘱託(司書)	山田美花
非常勤嘱託(司書)	浅井千鶴代

3. 中期計画

3.1　第2期中期計画（平成29年度～34年度）における平成30年度計画と実績

3.1.1　平成30年度計画の概略（石川県公立大学法人　平成30年度計画　概要版より）

計画策定の基本的考え方

■平成３０年度は第２期中期計画（６年間）の２年目であり、中期計画の３つの柱「大学教育機能の強化」「地域連携・地域貢献機能の強化」「ガバナンス機能の強化」に基づき、引き続き教育研究機能の改善に向けた課題検討を行うとともに、改善策の一部実行を行う。

重点取組項目		看護大学 内容
Ⅰ.大学教育機能の強化 － 社会ニーズに応じた教育の提供 － 学生の学びの質向上	①学部教育の充実	・医療現場の多様化・高度化に対応するため、医療機関等へのアンケート調査や臨床教授等との看護教育懇談会等を通して臨床現場の意見を収集し、学部教育の改善に向けたカリキュラムの改定を検討する。
	②大学院教育の充実	・大学院において、新たに助産師養成課程を開設する等、高度実践看護師の養成を行うとともに、CNS（専門看護師）教育を充実させるための検討を行う。
	③学生の能動的学修の推進	・学生の主体性、課題解決能力を高めるため、地域におけるボランティア活動や異学年交流等を促進するとともに、アクティブ・ラーニング型の授業を積極的に実施する。
Ⅱ.地域連携・地域貢献機能の強化	④産学官連携の推進	・地域ケア総合センターの機能を活かし、かほく市・能登町等と連携した健康増進活動及び地域住民を対象とした公開講座等を行うことで地域の健康・福祉の向上に努めるとともに、新たに奥能登地域に在住の看護職者を対象とした在宅看護に関するスキルアップ研修を開催することで看護の質向上を図る。
	⑤学生の地元定着促進	・県内他大学とともに地方創生推進事業（COC+）を推進し、石川県の産業や文化等に関する映像教材を使った「地域指向型教育」を実施するとともに、県内で看護職として活躍する卒業生との交流会の開催等を通して学生の地元定着に努める。
	⑥社会人教育の充実	・看護キャリア支援センターにおいて、現職看護職者のキャリア形成支援を行うため、認定看護管理者教育課程（サードレベル）及び認知症看護認定看護師教育課程を実施する。
Ⅲ.ガバナンス機能の強化等	⑦ガバナンス体制の構築	・理事長及び学長のリーダーシップの下で戦略的に大学をマネジメントできる組織体制を構築し、大学改革を推進するとともに、中期計画の着実な推進及び教育等の継続的な改善に資する大学IRを試行し、大学の将来を見据えた教育研究の方向性及び実行計画を検討する。
	⑧大学間連携の推進	・看護大学と県立大学の共同研究を推進し、合同研究発表会を開催するとともに、両大学合同のFD（ファカルティ・ディベロップメント）研修を開催する等、教育交流も推進する。
	⑨広報活動の充実	・大学間の学生獲得競争など大学を取り巻く環境変化を見据え、前年度に策定した広報戦略に基づき、効果的に大学の魅力をPRできるよう新たな広報媒体の活用やコンテンツの刷新を含めて広報の充実を図る。

3.1.2　平成30年度実績の概略

（石川県公立大学法人　平成30年度業務実績報告書の概要より抜粋）

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1　教育課程の充実

（1）カリキュラムの改定

・社会のニーズに対応したカリキュラム改定を実施
①看護学実習内容の変更・充実
②大学で学ぶ基本的能力強化を目的とした科目の追加
③教授内容の重複整理による科目の統廃合
④科目毎の単位と時間数のバラつきの均一化
⑤学生が理解しやすい科目名表記に統一　など

（2）助産師養成課程の開設

・実習施設との連携調整を密に行い、実習機会を確保

（3）大学院進学の喚起

・大学院教育懇談会の開催時期の変更
・学部生に対する大学院についてのオリエンテーションの実施

2　教育実施体制の充実

（1）教育資材の改善

・実習・実験環境の充実に向けて教育研究用備品を整備
・無線ＬＡＮ（Wi-Fi）の語学演習室等への設置拡充

（2）自学自習の環境整備の推進

・「データベースによる文献レビュー研修会」を1年生から実施
・電子図書の5ヵ年整備計画を策定

3　学生への支援

（1）学生の学修や生活上の相談体制の充実

・匿名による相談が可能な「SOUDAN BOX」を学内に新設

（2）早期にキャリアイメージを形成できるよう支援

・卒業生を招き、聴講及び意見交換の機会を提供

4　研究の推進

（1）地域課題解決の貢献

・健康増進に関する研究プロジェクトとして、冬場の運動不足解消を目的とした「か歩く健康ウォーキング事業」を実施

（2）研究体制の改善

・委員会組織を少人数化し、教員の研究時間を確保

５　地域貢献及び国際貢献の推進

（１）地域連携事業の充実

・かほく市いきいきステーションを活用した新たな地域公開講座を計画
・猿鬼歩こう走ろう健康大会で健康キャンペーンを実施（能登町）
・限界集落での住民の健康チェックを実施（津幡町）
・学生ボランティア団体が、かほく市子育て支援センターでの託児ボランティア活動などを定期的に実施

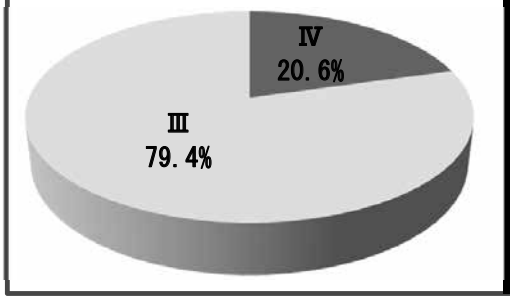
（２）認定看護師の養成

・認定看護師教育のニーズ調査を実施
・次年度に感染管理認定看護師教育課程の開設を決定
・認定看護師のフォローアップ研修や実践報告会の開催を通じて認定看護師のネットワーク構築を支援

（３）国際交流事業の推進

・タイ及び韓国研修の充実によるグローカル人材の育成体制を強化
・ワシントン大学からの招聘教員と協働した英会話セッション等の実施

項目別評価の状況



項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
教育	5	19	0	0	24
研究	0	3	0	0	3
地域貢献	1	3	0	0	4
グローバル化	1	2	0	0	3
計	7	27	0	0	34

※Ⅳ･･･年度計画を上回って実施している。　Ⅲ･･･年度計画を順調に実施している。
Ⅱ･･･年度計画を十分には実施していない。　Ⅰ･･･年度計画を実施していない。

業務運営の改善・効率化に関する目標

1　ガバナンス体制の強化による大学改革の推進
・グローカル人材育成プランの策定
・広報改革や基礎科学教育、図書館機能の充実に向けて５ヵ年計画を策定

2　両大学間連携の推進
・合同ＦＤ研修会及び合同研究発表会の開催
・両大学の共同研究の促進

3　事務組織等の整備と効率化
・ウェブ出願の導入に向けた検討の実施

4　教育研究組織体制の改善
・教員編成方針を取りまとめて公表
・人間科学領域及び健康科学領域の科目群担当制に向けた検討を開始

財務内容の改善に関する目標

1　志願者の増加に向けた取り組み
・前年度の高校訪問調査結果を踏まえたＰＲ資料の作成
・個別高校訪問の際に使用するチラシの作成
・大学の特色やキャンパスライフを発信する受験生応援サイトを整備
・広報媒体の統一的リニューアルに向けた業者の一元化

2　維持管理経費の節減
・電力会社の省エネコンサル等を活用した電気料金の節減
・施設管理等の業務委託契約において、内容を精査のうえ長期契約を締結

自己点検評価及び情報提供に関する目標

1　大学への評価を活用した取組み
・教育の内部質保証に関する大学の方針について明文化し、学内に周知
・自己点検評価サイクルに活用する在学生・卒業生調査を充実

その他業務運営に関する目標

1　施設設備の計画的な更新

・長期修繕計画に基づいて空調設備を更新
・備品整備計画に基づいて教育研究用備品を更新
・学生情報システム等の情報システム機器を更新

4. 看護学部看護学科

4.1 理念・目標

4.1.1 教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する。

4.1.2 教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成
   人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。
2. 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成
   看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。
3. 調整・管理能力を有する人材の育成
   保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。
4. 国際社会でも活躍できる人材の育成
   国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。
5. 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成
   社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

看護とは、「様々な健康レベルの人々が、その人らしく生活できるよう援助する仕事」です。そのためには、専門的な知識・技術はもちろん、命を大切にする心や人間としての豊かさが求められます。

本学では以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を広く求めます。

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎学力を身につけている。
2. 人間や生命に関心をもち、保健・医療・福祉分野で活躍・貢献したいという目的意識を持っている。
3. 周囲の人と協力して物事を進めることができる。
4. 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表現できる。
5. 自己学習・自己啓発を継続する意欲がある。

4.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

本学では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技術などを修得できるように、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を体系的に編成しています。教育内容、教育方法、教育評価について以下のように定めています。

〈教育内容〉

学生が大学での学修に適応するための科目を初年次に配置する。加えて、人間科学・健康科学・看護学の科目間の連携を図り、それらを統合して学べるように科目を配置する。

看護専門領域に「健康･疾病･障害の理解」「看護の基本」「看護援助の方法」「看護の実践」「看護の発展」の科目を配置する。また、人間の成長、発達、健康の維持増進から終末に至る健康問題を科学的に評価し、生活・療養の場に応じた看護の必要性を学べるように設定する。

さらに、様々な状況に対応できる能力、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力、将来を切り開いていく能力を統合・発展させるための科目を段階的に学べるように設定する

〈教育方法〉

幅広く総合的に看護を学ぶことができるよう、積極的に人々の生活の場に出向いたり、アクティブ・ラーニング、異学年交流等を活用した講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。

個々の学習深度や能力に応じた指導を行うため、個別学習やレポート課題を課し、フィードバックを行う。

学生のより積極的な学習ニーズに応えるため、外部の客観的評価試験や外部の開講科目（放送大学、シティカレッジ等）を活用する。

学年進行に沿って、学修を統合的に積み重ねることができるように履修指導を行う。

〈教育評価〉

各科目の学習目標の達成度を評価し、その基準は授業計画に示す。加えて、本学の履修規程･学則に基づいて総合的に評価する。

4.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

教育理念を基に本学の教育課程に沿って研鑽に努め、指定する卒業単位を修得することで、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成します。

1. 看護の基盤となる豊かな人間性や倫理観と教養を身につけている。
2. 看護職として専門分野における学問内容の知識・技術を修得している。
3. 人間の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、的確な判断ができる。
4. 人々の健康維持と増進、予防、また健康障害から回復過程等、全ての健康段階を連続的に捉え、生活に根ざした支援の必要性を理解できる。
5. リーダーシップを身につけ、自ら多職種と連携・協働することができる。
6. 国際化及び社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

4.2　学部学生の入学・在学・卒業の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

単位（人）

入学定員	収容定員
80	330

②試験実施日

	実施日
推薦入試・社会人入試	平成30年11月17日（土）
一般入試前期日程試験	平成31年 2月25日（月）
一般入試後期日程試験	平成31年 3月12日（火）

③受験状況等

単位（人、倍）

	募集定員 A	志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数 C	受験倍率 C/A	合格者数 D	実質倍率 C/D	入学者数
推薦入試	30	50	1.7	50	1.7	30	1.7	30(27)
社会人入試	若干名	4	—	4	—	1	4.0	0
一般入試前期	40	72	1.8	70	1.8	43	1.6	42(39)
一般入試後期	10	88	9.8	30	3.0	11	2.7	10(10)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況（平成31年3月1日現在）

単位（人）

学　　年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	6	5	5	6(1)	22(1)
	女性	77	79	77	90(6)	323(6)
	計	83	84	82	96(7)	345(7)

（ ）の数字は内数であり編入学者の数を示す

(3) 卒業の状況

①卒業者数　第16期生

単位（人）

区　分	計	入学年度別卒業者数		
		平成26年度以前 入　学　者	平成27年度 入　学　者	平成29年度 編入学者
卒業者数	86(82)	5(5)	74(71)	7(6)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況　第16期生　（平成31年3月31日現在）

単位（人）

区　分		県内		県外		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
就　職	看護師	49	57.0%	20	23.3%	69　(66)	80.2%
	国公立病院（独立行政法人を含む）	38	44.2%	9	10.5%	47　(44)	54.7%
	上記以外の病院	11	12.8%	11	12.8%	22　(22)	25.6%
	保健師	3	3.5%	4	4.7%	7　(6)	8.1%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0　(0)	0.0%
	計	52	60.5%	24	27.9%	76　(72)	88.4%
進　学	大学院博士前期課程	4	4.7%	1	1.2%	5　(5)	5.8%
	養護教諭特別別科	1	1.2%	0	0.0%	1　(1)	1.2%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0　(0)	0.0%
	計	5	5.8%	1	1.2%	6　(6)	7.0%
未　定		4	4.7%	0	0.0%	4　(4)	4.7%
合　計		61	70.9%	25	29.1%	86　(82)	100.0%

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す。 割合は、総数86人を100%としたもの

③主な就職先　第16期生　（平成31年3月31日現在）

県　　内	県　　外
石川県立中央病院	富山県立中央病院
金沢大学附属病院	国立病院機構富山病院
金沢赤十字病院	新潟県立病院
公立松任石川中央病院	静岡県立静岡がんセンター
国立病院機構金沢医療センター	信州大学医学部附属病院
公立穴水総合病院	東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
ＪＣＨＯ金沢病院	三井記念病院
恵寿総合病院	東京医科歯科大学医学部附属病院
国立病院機構医王病院	板橋中央総合病院
石川県予防医学協会	東京大学医学部附属病院
加賀市医療センター	NTT東日本関東病院
浅ノ川総合病院	埼玉医科大学附属病院
石川県済生会金沢病院	順天堂大学医学部附属浦安病院
志賀町	京都民医連中央病院
内灘町	神戸大学医学部附属病院
石川県成人病予防センター	兵庫医科大学病院
	オレンジケアホームクリニック
	みさと健和病院
	東住吉森本病院
	福井県
	あわら市
	高山市
	北陸予防医学協会

4.3　教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めるとともに、看護識者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群		人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
	国際・情報科学系群	英語	国際的な視野から健康や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる思考力と語学力を教授する。また、高度情報社会に対応できる基礎力と看護情報の統計処理能力を教授する。
		情報科学	
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護識者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		老年看護学	
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体）とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。
		在宅看護学	
		精神看護学	

4.4　委員会活動

4.4.1　常設委員会

4.4.1.1　教務委員会

委 員 長：中田 弘子 教授
委員補助：長谷川教授、濵教授、垣花准教授、塚田准教授、谷本准教授、田村助教、
　　千原助教、大西助教、磯助教、子吉助教
事 務 局：寺訳教務学生課長、北村主事
活動内容：

1. カリキュラム改訂について

厚生労働省の地域医療構想・医療計画の方針、文部科学省の大学教育改革に向けた指針を受けるとともに、近年の入学生の特性への対応と現行の過密な時間割進行等の是正を目的として、2016（平成28）年度からカリキュラム改訂班により、カリキュラムの見直がなされてきた。2019（平成31年度）年度からの変更を目指し、2018（平成30）年7月に文部科学省へ承認申請し、10月に教育課程変更が承認された。

人間科学領域では、高大連携・接続を考慮した初年次教育として、学生の大学での学修への適応と自学自習の姿勢の自覚を促すことを目的としたアカデミックリテラシー（AL）等の科目を新設した。ALは1年前期のフィールド実習と並行して配置し、アカデミック・スキルの修得を目指すものである。また、看護専門領域の科目では統合実習の目的、内容、履修時期を見直し、変更した統合実習は2020（平成32）年度より前倒しで実施する。そのため、先修要件の見直しを行うとともに、教務委員会と統合実習科目担当者とが連携し、実習施設の交渉も含めた準備を継続している。また、学部生が新年度から変更となるカリキュラムを円滑かつ適切に履修できるようガイダンスを計画した。

2. フィールド実習と評価の可視化の取り組み

フィールド実習は、「学都いしかわ・課題解決型グローカル人材育成システム」の一部に位置づけられており、グローカルな視野を持った看護職等の育成をねらいとして、能登町等での地域連携型実習が継続された。新年度からはALが開設されるが、2018（平成30）年度までは「情報リテラシー」の中でAL講義・演習で学んだスキルを活用し、アクティブラーニングを促進するための授業づくりを行った。同時にフィールド実習のパフォーマンス評価について検討した。フィールド実習は、フィールドワークを通した地域で暮らす人々の生活と仕事、文化や環境の理解をねらいとして、豊かに思考する能力を育成する授業科目である。そのため、知識・技能の断片的な評価ではなく、パフォーマンスを質的に評価する方法としてルーブリックを作成した。次年度の導入に向けて、担当教員への周知等の準備を継続している。

3. 臨床教授等との連携強化

各実習施設から臨床教授等の推薦を受け、教授会での称号の付与に対する提起を継続した。また、臨床教授等（臨地実習指導者）と大学教員との連携強化と双方の教育力向上を目指した

意見交換会（ワールド・カフェ）を2019（平成31）年2月5日に開催し、55名（臨床教授等30名、本学教員25名）の参加がみられた。事前アンケートにより、交流テーマを「学生のアセスメント能力を高める指導方法」、「学びを深めるカンファレンスの方法」に絞り、実習指導上の課題や実践例について活発な意見交換がなされた。アンケート結果では、リラックスした話しやすい雰囲気であった等の意見が多く聞かれ、概ね好評であった。ワールド・カフェは少人数制であることから参加者の制限をせざるを得なかったが、今後は交流会の形式および対象者の選定や統合力を深化させる方法について検討していく。

4. 学修内容や研究成果等の発表を通した課題解決とプレゼン能力の向上

学びと活動のまとめや自己評価、成果発表を通したプレゼン能力の向上を目指して、フィールド実習報告会（6月19日）、HHC成果発表会（4月6日， 6月19日）、看護の基本および看護援助の方法の分野等での講義・演習でのグループ発表、段階別看護学実習の学修のまとめ（10月）、卒業研究発表会（12月26日）等を段階的に実施した。卒業研究では、学生が多分野の研究成果の討議に参加できるよう発表会場数を減らす等、発表会形式を調整することにより、各領域・講座の発表への参加者数が増加した。

5. 看護学実習の円滑な遂行

主に3年次での看護学実習の検討を行った。特に2018年の豪雪を経て、学生の安全性を確保するための気象情報（警報）発表時の連絡・報告の在り方を検討し、リスクマネージメントマニュアルの修正と教員および学生への周知を行った。また、ヒヤリハット報告をまとめ、再発防止に向けた対応策の検討を継続している。

6. 総合的な成績評価

授業評価の成績は、学習達成度が60点以上の者に4～1点までの成績でのGPを付け、国際的に通用するGPAを算出した。学生個人の最新の成績、学年全体の学修状況を客観的に評価し、教育評価および授業の改善につなげるための検討を継続している。

7. 履修指導とガイダンス

2019年度カリキュラムの改訂に伴いシラバスおよび便覧を整備した。これまでのガイダンスにおいて、口頭により説明がなされていた成績の異議申し立て、成績の公開について新たに掲載するとともに、ガイダンスに向けた準備を行った。

8. その他

石川県看護教育機関連絡協議会の2018(平成30)年度総会および事業計画を学生委員会との連携により実施した。加盟校の教員間による教育上の情報交換と教育能力の向上を目的とした意見交換会を8月6日に開催し、県内11校38名が参加した。テーマは「看護学実習でつまずく学生支援の実際」等であったが、アンケート結果では他校での取り組みの実際を共有するとともに、教育方法を見直す好機となった等の意見が多く、概ね好評であった。データは参加校で共有し、今後の事業を含めた活動に繋げた。

4.4.1.2　学生委員会

委 員 長：多久和 典子　教授（学生部長）

委　　員：桜井准教授、林（静）准教授、加藤准教授、中道講師、清水講師、松本助教、桶作助教

事 務 局：寺訳教務学生課長、納橋専門員、北村主事

活動内容：

1. 例年通り、新入生オリエンテーションと各学年の新年度ガイダンスを実施した。
2. 開学記念日の行事を企画・実施した。第一部（サークル表彰・感謝状贈呈式）、第二部（優れた看護実践者による講演会）に引き続き、第三部では、各界で活躍する卒業生を招いて全体交流会を実施した。
3. 前期に初年次学修支援セミナー、および3年生を対象とした隣地実習へ向けてのセミナーを開催し、4年生から有意義なアドバイスを受ける異学年交流の機会とした。また、3月には進路支援を目的として3年生と卒業生の座談会を開催した。
4. 例年通り、学生による大学祭の準備・開催の支援を行った。
5. 学生便覧2019に収載されている「学生生活の基本」の項について、自立心をもって行動する大学生に相応しい内容となるよう大改訂を行った。特に、【生活の基本】として、「心身の健康を第一とし、その上で学業・課外活動に励む」ことを明記した。また、緊急時には、第一に身の安全を確保することを明記の上、連絡先電話番号を掲載した。
6. 平成30年度卒業式において、成績優秀者1名、グローカルヤングリーダーの称号取得者2名（うち1名は成績優秀者と同一）、および、ボランティア活動で顕著な功績のあった学生を対象として学長表彰を行った。
7. 学修環境の整備・学習方法の改善へのとりくみ：例年どおり自治会と学長・学生部長・大学事務局との懇話会を行い、学生からの要望に応えて体格の大きな学生用の机・椅子3セットと食堂の電子レンジを配備した。また、繰り返し学習による知識の定着をはかるため、現在一部の科目で行われている試験答案の返却を全ての科目で実施してほしいとの学生からの要望を受け取り、3月の教員全体会議において伝達した。
8. 年度末に在校生を対象としてアンケート調査を行った。従来の項目に加え多岐にわたる設問を設けた。回答結果を来年度の学生支援に生かせるように検討する。

4.4.1.2.1　学生相談専門部会

部 会 長：多久和 典子　教授（学生部長）

部 会 員：多久和教授、磯助教、桶作助教、南堀助教

事 務 局：寺訳教務学生課長、野川嘱託

活動内容：

1. 従来通り、月1回の相談部会を開催し、学生に関する情報共有、学生対象のアンケートについてのディスカッション等を行った。
2. 学生からの相談の敷居を低くするため、赤い郵便箱の「SOUDAN BOX」を学内3か所に設置した。メールによる相談も受け付ける体制を整え、学生に周知した。実際に相談案件があり、全教員で共有・対応をはかった。

3. 学修支援の必要な学生や療養の必要な学生について、部会員・担任教員・関係部署教員の協働により支援を行った。また、本人・保護者とともに主治医と面談し、助言を仰いだ。
4. 学生委員会・学生相談部会主催の教職員研修会「学修支援を考える～学生の特性に着目して～」を平成31年度4月に開催すべく準備を行った。

4.4.1.2.2　進路支援専門部会

部 会 長：桜井 志保美　准教授
部 会 員：木森准教授、北山准教授、阿部准教授、曽山講師、金谷講師、中道講師、
　　川村講師
活動内容：
1. 進路支援：

前年度の就職進学率は98.8％で、希望する全員の就職進学が内定していた。今年度も、前年度同様に、就職進学のための個別支援、看護職としての職業像を育てるための集団支援を実施した。石川県立大学で行われる公務員試験対策講座に、受講を希望する3年生が参加した。

次年度は、今年度と同様の活動を継続する。また、次年度は開学記念行事が予定されていないため、独自に全学年を対象に学生セミナーとして開催予定である。

1）アドバイザー教員による個別支援

前年度までの成果を踏まえて、4年生に対する支援として、8名のアドバイザー教員による担当制で行った。主たる支援内容は、進路決定への助言や情報提供、履歴書の書き方や面接への助言等の就職・進学等への助言・指導である。結果、卒業までに全員の就職先や進学先が決定した。

2）同窓会の協力を得てセミナー開催

（1）開学記念日・全体集会

看護職としての職業像を描けること、看護職として長く働き続けられることを目的に、開催した。

日時：平成30年5月29日　13：00～15：00
対象：全学生
場所：講堂
内容：「自分を大切にしながら学び・働くには」
講師：田中陽子（14期生・看護師）　松鶴公仁子（8期生・助産師）
　　新田大貴（13期生・看護師）　星川亜由美（13期生・養護教諭）
　　堀田真弓（3期生・保健師）

（2）座談会

学生が自分で進路を選択し、自己実現に向けて取り組む参考にするために、卒業生11名・進路の決定した4年生21名を招いて直接相談できる機会を設けた。

日程：平成31年3月14日　13：15～15：00
対象：3年生
場所：食堂

3）公務員試験対策講座

教務学生課が窓口になり、県立大学で行われる公務員試験対策講座に、3年生3名が実習期間と重ならない講座の一部分について受講した。

4）求人情報の集約

教務学生課職員と部会員が、求人に来学した医療機関等の対応を実施した。就職情報に関する資料は、進路支援コーナーに設置した。

2．国家試験対策：

前年度の国家試験合格率を踏まえ、前期に部会員が、業者主催の教員向け国家試験対策講座を受講し、今年度の計画を組み立てに活かした。特に今年度は、看護師必修問題、保健師国家試験の対策を強化した。結果、看護師国家試験合格率97.5％（全国平均94.7％）、保健師国家試験合格率84.7％（全国平均88.1％）であった。

次年度は、3年生から対策を実施した学生が国家試験に臨むため、早期からの取り組みの評価を実施する。引き続き、3年生からの支援、看護師必修問題、保健師国家試験対策は、重点課題として取り組む。

1）4年生への支援

(1) 個別支援

アドバイザー教員が担当学生各10名の学内の模擬試験結果等を基に、得点の伸び率等を確認しながら個別指導を行った。秋卒業した1名には、卒業後も4年生と同様の支援を継続した。

(2) 模擬試験への支援

模擬試験担当学生が、模試年間計画（費用：全額自己負担）を立案できるように支援した。特に、保健師模擬試験計画においては、1回目に基本的知識についての確認できる問題、2回目には保健師の活動現場を踏まえた状況設定問題になるように業者選択について助言した。

次年度は、必修問題対策を強化するため、毎回の看護師模擬試験について、不正解であった必修問題のやり直しを行う。2月の特別強化必修問題チャレンジは、最後の模試結果だけでなく、その前の模試結果も成績不良者も、対象とする。

(3) 補講

補講担当学生が学生の希望を集約し、希望に応える内容で補講を実施した。

【看護師国家試験対策】

8月　「人体・疾病の成り立ち」、「薬理学」

12月「基礎看護学」「母性看護学」「小児看護学」「成人看護学」

「老年看護学」「在宅看護学」「精神看護学」

【保健師国家試験対策】

地域看護学講座の教員の協力を得て実施した。

8月～10月　「地域看護学概論全般」、「疫学」、「感染症」、「社会保障」、

「母子保健活動」、「精神保健活動」

12月「国試直前問題チェック」
1月　「疫学（主に計算問題)」
加えて、12月～2月まで　主に頻出問題を中心に“チャレンジ問題”の作問及び添削を行い、自己学習が捗るよう支援した。

2）3年生への支援
国家試験受験に向けて、学年担任と協力し模試導入した。
7月　低学年模試（解剖）（費用は自己負担）
学習方法を修得させるため、成績不良者には、不正解であった問題のうち10問を選び、ノートにまとめ直して提出させた。
2月　学内国家試験予想問題試験
次年度も引き続き、低学年模試を実施する。

4.4.1.3　研究推進委員会

委 員 長：長谷川 昇　教授
委　　員：濵教授、桜井准教授、石川准教授、三部講師
事 務 局：白山専門員
活動内容：
1．研究推進に係る会の開催
1）ウェルカムセッション
開　催　日　時　：平成30年8月6日(月)　13：30 ～ 13：50　参加者：32名
場　　所　：管理棟3階　大会議室
内容および講師　：「出産前教育の効果と測定用具に関する研究」
亀田幸枝教授（母性看護学）

2）研究サポート集会
対　象　者　：教員
開　催　日　時　：平成30年9月12日(水)　17：30 ～ 18：00　参加者：24名
場　　所　：教育研究棟2階　中講義室1
内容および講師　：「科研費申請に関する事務的伝達事項」
平村主事（事務局総務課）

3）平成29年度学内研究助成成果報告会の開催
ポスター発表形式で実施した。15課題の発表がなされた。
開　催　日　時　：平成30年8月3日(金)　13：30 ～15：30　参加者：45名
場　　所　：管理棟1階　地域ケア総合センター研修室

4）石川県立大学との合同研究発表会の開催
両大学の学術交流を目的とした研究発表会を実施した。また同時にFD研修会も開催された。

開　催　日　時　：平成30年8月6日(月)　14：00〜16：50　参加者：29名（本学関係者）
場　　所　：本学管理棟2階　大会議室
演 題 ・ 講 師　：
「椿茶の骨粗鬆症予防に関する研究」長谷川昇教授、西本壮吾准教授
「石川県型農福連携（石川ラム）畜産型事業の開発と評価」清水暢子講師、浅野桂吾助教
「複合型アプローチによる農山村地域の持続性評価」塚田久恵准教授、山下良平准教授
「主体的に学ぶ力を育てる授業法の開発」 垣花渉准教授、小椋賢治教授
本年度は、「平成29年度石川県立看護大学と石川県立大学との共同研究助成」に採択された研究の発表会とした。

2. 大学全体の研究業績評価

平成30年度外部資金獲得件数（9月現在）は、基盤研究（B）が2件、研究活動スタート支援1件、基盤研究（C）が9件、挑戦的研究（萌芽）が1件、若手研究が5件であった。また、平成31年度科研費申請数は、38件で、平成30年度の32件と比較して増加していた。

また、平成30年度は、科学研究費申請書のブラッシュアップを目的とした、申請書作成支援を行った。2名の希望者があり、申請者、査読者とも匿名で行った。

4.4.1.4　学内研究助成審査委員会

委 員 長：長谷川 昇　教授
委　　員：中田教授、亀田教授、西村教授（附属図書館長）、牧野教授
事 務 局：白山専門員
活動内容：

本委員会は、学内研究助成全般のあり方の検討と実際の学内研究助成に関する申請書類の審査、報告書の評価、予算案の提案を主たる活動とする。

平成30年度は3回の委員会を開催し、研究成果公表の申請がある場合は随時審査を実施した。

平成30年4月に平成30年度学内研究助成（研究プロジェクト）の2次募集を行い、平成30年4月の委員会で6件の課題を採択した。平成30年12月に、平成31年度学内研究助成の申請件数の増加を目的として、新たに2年申請を採用することを検討した。平成31年1月には平成31年度学内研究助成（研究プロジェクト）の1次募集を行い、3月の委員会で13件の課題（うち、7件が2年申請）の採択と、31年度に開催される学会に対する学会開催助成1件の申請を採択した。1次募集の採択件数は、昨年度の7件と比較して約2倍に増加した。30年度は、その他に、研究成果公表助成10件（海外渡航費助成6件、学術論文等掲載費助成4件）を採択した。

4.4.1.5　石川看護雑誌編集委員会

委 員 長：今井 美和　教授
委　　員：西村教授、牧野教授、中田教授、亀田教授、松原教授
委員補助：子吉助教、今方助教
活動内容：

「石川看護雑誌」第16巻の編集を行った。第16巻には原著論文6編、資料5編の計11編の論文が掲載された。

4.4.1.6　情報システム委員会(含むセキュリティ)

委 員 長：谷本 千恵　准教授
委　　員：小林教授、織田准教授、市丸講師、曽山講師
事 務 局：澤本主幹兼係長（平村主任主事）
開催頻度：随時
活動内容：

1. 学内の情報セキュリティ体制の整備と情報管理の適正化を図るとともに、情報システム利用に関する研修会を実施するなど、学生及び職員の情報リテラシーの向上を図る。本学情報システムの管理･運営、および本学における情報環境の改善を担当している。

2. 前年度（平成29年度）

　全教職員を対象に情報セキュリティ研修ならびに情報システムに関する事項の周知を行った。日常的に教職員や学生の情報セキュリティ対策の意識を高める目的で「石川県公立大学法人情報セキュリティポリシー（平成24年1月）」等に基づいて標語の作成を検討した。石川県公立大学法人情報ネットワークシステム保守委託業務の作業実績報告会議に出席し、法人本部・両大学・業者との間で情報共有・連携を行った。

3. 今年度(平成30年度)

1）情報セキュリティに関する研修の実施

(1) 新任教職員対象　4月2日（月）（於新任教職員オリエンテーション）
　情報セキュリティの要点について説明した(小林委員)。

(2) 全教職員対象　8月3日(金)（於教員全体会議）
　「情報セキュリティ問題とその対応（澤本主幹兼係長)」「石川県公立大学法人情報セキュリティポリシーの概要（委員長)」「最近の情報セキュリティに関するニュース(大学の関わる失敗例など)（市丸委員)」について説明した。

2）情報システムの管理・運営、情報環境の改善

(1) 新任教職員に対する情報システムの説明　4月2日(於新任教職員オリエンテーション)
　学内ネットワークシステムの概要とメール設定の方法について説明した(平村主任主事)。

(2) 石川県公立大学法人情報ネットワークシステム保守委託業務の作業実績報告会議への出席（委員長、平村主任主事）
　開　　催　　日　：4月26日(木)、7月17日（火)、10月24日（水)、1月31日(木)
　開　催　場　所　：石川県立大学
　石川県立大学と合同で石川県公立大学法人情報ネットワークシステム保守委託業務の作業実績報告を受け、その際に法人本部・両大学・業者の間で意見交換を行った。

(3) 情報システム機器の更新に伴う調整
　8～9月に情報システム機器の更新（情報処理室、語学演習室、研究室・事務局、附属図書館のパソコン、プリンター、一部ソフトウェア等）が実施された。更新作業が適切に行われるよう法人本部の担当者と情報共有・連携した。全教職員に対しては教

員全体会議(8月3日)においてシステム更新の日程等について説明し（澤本主幹兼係長)、随時メールで必要事項を周知した（平村主任主事)。

4. 次年度(平成31年度)

教務委員会と連携しながら全学生を対象として個人情報の取り扱いや研究倫理における情報管理について指導を行う。新任職員および全職員を対象として情報セキュリティについての研修会を実施する。情報資産管理システムを更新し、ソフトウェア・ライセンスおよび情報機器の適正な管理に努める。

4.4.1.7　広報委員会

委 員 長：木森 佳子　准教授
委　　員：武山教授（附属地域ケア総合センター長)、多久和教授（学生部長)、
林（一）教授（附属看護キャリア支援センター長)、米田准教授（国際交流委員長)、
西村教授（附属図書館長)、川島教授（研究科長)、小林教授、出村事務局長
委員補助：子吉助教、瀧澤助教、河合助手
事 務 局：宮川主任主事
活動内容：

1.委員会開催

年7回開催、広報戦略について大学教職員、学生広報委員による提案を活かした広報活動を検討した。

2. オープンキャンパス

1）第19回　平成30年度　オープンキャンパス2018の企画立案・準備・実施

夏：開催日時　平成30年 7月14日（土）10：00〜14:00　　参加者386名

看護系の実習室、スキルラボ、講義室の紹介を企画した。それぞれの領域・講座において例年とは異なる新企画を工夫して授業風景を紹介した。

相談コーナーは例年同様、学生主体で企画した。

秋：開催日時　平成30年10月27日（土）10：00〜12:00　　参加者96名

例年同様、大学紹介と入試準備セミナーを実施した。

2）第20回　平成31年度（2019年）　オープンキャンパスの検討

日程　夏　令和元年7月13日（土)、秋　10月19日（土）午前　開催予定

3. キャンパスネット　IPNU（大学新聞）

1）第34巻　2018.10の企画立案・編集・発行

メインテーマは『夏のオープンキャンパス』を取り上げた。連載企画である入学式、開学記念行事、附属機関（附属図書館、地域ケア総合センター、看護キャリア支援センター）の紹介、トピックスとして在校生と卒業生の現在の様子、プロジェクトとして北信がんプロ、石川県立大学との合同事業、インターンシップ事業を紹介した。

2）第35巻　2019. 3の企画立案・編集・発行

特集『大学院博士前期課程助産看護学分野』を取り上げた。開講して1年がたち、学部

生と大学院生のQ&Aスタイルで取材した。トピックは在校生と卒業生の海外での学びや活躍を中心に紹介した。短期的な連載企画として2019年11月30日、12月1日に金沢市で開催される第39回日本看護科学学会学術集会（大会長：石垣学長）を紹介した。

4. ホームページの充実

1）ホームページの運用･･･昨年に継続して各委員会や事業担当者の中でHP担当を定め、随時、事業内容をHPアップに努めた。

2）トップページの写真をスライドショースタイルに変更・・・1－2か月を目途にスライドショーの写真を更新していった。主に学生の活動を掲載した。

3）学生サイトの写真をスライドショースタイルに変更・・学生サイトのタイトルを『My Color』に変更し、前年度の「My Color」の趣旨を引き継ぐこととした。

4）大学紹介・学生生活紹介用の動画掲載・・・2分程度の動画を学生サイトに掲載した。

5. 広報媒体リニューアル企画

大学ホームページ、大学新聞（CANPUS NET)、大学案内を時代に応じた情報発信に更新、また記事や写真を有効活用するための企業選定、企業とのミーティングを行った。またリニューアル後も連続的に改善されるようアクションプランとして5年計画を立案した。モニタリング、広告業者とのミーティングにより持続的に魅力ある発信の基盤を作成した。

6. 大学案内（学部・大学院）

1）2019（学部・大学院）の企画立案・編集・発行　学部生の写真を新規に撮影した。

2）2020（学部・大学院）の企画立案・編集

7. 大学コンソーシアム石川

1）情報発信部会

・第1回　平成30年　5月21日（月）委員長出席

・第2回　平成30年　7月20日（金）書面付議

・第3回　平成30年　10月22－29日　書面付議

・第4回　平成30年　12月3日―12月10日　書面付議

・第5回　平成31年　2月1日（金）委員長出席

2）事業内容

(1)広報事業：「大学コンソーシアム石川概要」、「石川の大学ガイドブック」等、発行協力

(2)石川県高大連携セミナー事業

(3)出張オープンキャンパス事業　実績は県内3校、県外2校

(4)学都石川情報発信事業

県外進学説明会

高校訪問　本学は受験生や在学生のいる高校訪問　群馬県、栃木県、埼玉県の7校

8. 学生広報委員活動のサポート

1）オープンキャンパス　　学生の意見を取り入れた運営に取り組む、アンケート実施

2）石川県の大学のガイドブック（イシカレ）

9．高校訪問時に活用するPRチラシ

『地域包括ケア時代に看護を学ぶなら石川県立看護大学』を用い高校訪問を実施した教職員の意見を取り入れ修正、コンパクトにした。また高校の出身学生に特化したPRチラシを作成した。

10．その他

学都屋台食談・・県内大学役職者と学生との会合に学長と学生3名が参加した。

京福バス中吊り広告・・石川県立大学と共に掲載した。

PROM PAGE(入試直前激励号)・・入試委員会の依頼を受けて学生の記事を掲載した。

平成30年度広報委員会活動総括

既存する大学の広報媒体を時代に沿い、魅力ある情報発信に更新するための基盤を作成した。ホームページと大学新聞は今年度一部改善を試行した。今年度を含め5年間の活動計画となる。これで更新時だけでなく持続的に評価、改善していくことが期待される。企業や学生ともミーティングやヒアリングを行い、ステークホルダーにわかりやすく、関心を寄せてもらえる内容と表現で発信していきたい。学生広報委員と卒業生にいかに協力してもらえるかが課題である。

4.4.1.8　入学試験委員会

委 員 長：石垣 和子（教授（学長））

委　　員：武山教授、小林教授、村井教授、川島教授、林（一）教授、塚田准教授、出村事務局長

事 務 局：松本専門員

活動内容：

1．前年度の実情および問題点・課題等

①問題編集部会長の負担軽減

②高大接続改革の情報収集への注力

③平成30年度から大学院学内選抜入学試験が追加されるため、安全・確実な入試と実施負担のバランスに配慮した入試実施体制の検討

④キャリア支援センター事業の入試の安全・確実な実施体制の検討

2．今年度の目標

1）大学院学内選抜及びキャリア支援センター入試を加えた各入学試験の一連の事務作業を確実・円滑に実施

2）作問体制の改善

3）県内及び近隣県における看護系大学の増加を見込んだ、受験生の確保

4）高大接続改革に関する高校からの意見収集

5）本学の2年後の入試方針の公表

6）その他の入試委員会が担当する作業を確実に行う。課題を発見し、その解決につなげる。

3. 今年度の活動内容･その評価

1）各入学試験の一連の事務作業は入試実施部会の計画の基に円滑・確実に実施できた。

2）大学院の入試は研究科長が当日責任者となる方法で行い、人員をスリム化して確実に行うことができた。

3）助産学生の選抜は5月に実施したが、時期が早すぎたので次年度は是正すること。

4）キャリア事業の入試については、3名の教員を派遣することで入試が行えた。

5）看護学部受験者の合否判定下見は、問題編集部会長・事務局長・入学試験委員長で行い、教授会・研究科委員会に諮り、入学生を確保できた。

6）一般入試前期日程の受験者が大幅に減少した。推薦入試応募者、ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽの来場者も減少傾向にあり、近隣に看護系大学が新設されたことの影響と考えられた。

7）前年度に続き、試験区域の境界を1か所にする方法で行い、支障はなかった。

8）作問体制は、入試委員長⇔問題編集部会長⇔作問委員長⇔作問者という間接的なやり取りでは意図が伝わりにくく、ケースバイケースで入試委員長が作問委員長と意見交換した。

9）入試評価部会は、センター入試科目に地学を入れることの是非に関する資料を作成し、地学を含める必要はないという結論を得た。

10）高大接続改革に向けて高校の進路指導教員との意見交換会を開催した。回を重ね、馴染んできた。（2018年8月、能登の高校、加賀の高校の2日制）

11）その他の入試委員会が担当する作業を確実に行う。課題を発見し、その解決につなげる。

4. 次年度以降に向けた課題・発展

1）入試委員長⇔問題編集部会長⇔作問委員長⇔作問者による作問体制を検討しなおす必要がある。

2）入試改革においては引き続き、詳細を決定する必要があり、さらにその2年後の2段階目の入試改革への対応が必要である。

3）看護学部受験者増に向けた対策を早急に考える必要がある。

4.4.1.8.1　入試実施部会

部 会 長：非公開

部 会 員：非公開

活動内容：

1. 看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
2. 研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
3. 大学入試センター試験の会場準備・実施体制およびそれに付随する業務

4.4.1.8.2　入試評価部会

部 会 長：非公開

部 会 員：非公開

活動内容：

以下について検討した。

1.2015年度入学者の選抜方法等と入学後の成績との関係に関すること
2.2011年度～2015年度入学者の国家試験結果と入学後の成績に関すること
3.入試体制に関すること（全国看護系公立大学への入試実施体制に関する調査を実施）

4.4.1.9　自己点検・評価委員会

委 員 長：石垣 和子（教授（学長））
委　　員：武山教授(地域ケア総合センター長)、垣花准教授(FD委員長)、多久和教授(学生部長)、丸岡教授（学長補佐)、中田教授（教務委員長)、西村教授(附属図書館長)、牧野教授（学長補佐)、村井教授（教員評価部会長)、北山准教授（年報部会長)、川島教授（研究科長)、林教授（附属看護キャリア支援センター長)、浅見特任教授（アカデミックアドバイサー)、出村事務局長
委員長補助：金子助教、大江助教、瀬戸助手
事 務 局：平村主任主事
委員会開催頻度：隔月開催　計6回開催
活動内容：
1. 前年度の実情及び問題点･課題
①認証評価受審の準備（H31年度の大学基準協会による評価を受審）
②学生による授業・学生支援等の評価の活用
③教育の質保証の方針の策定と質保証に活かす調査の実施
④職位ごとの教育力、研究力の標準化の検討の開始
⑤教員の複数年評価方法及びそのフィードバック方法の検討の継続

2. 今年度の目標
1）認証評価受審のための準備。
2）学生による授業・学生支援等の評価の調査の再実施（前年度の調査の回収率が悪かったため）
3）教員の複数年評価の検討継続と職位に応じた教員力量の判断基準の作成開始。
4）例年通りの年報の作成。

3. 今年度の活動内容･その評価
1）委員会体制について：教務委員長、アカデミックアドバイサーが加わった。
2）「教育の内部質保証」が大学基準協会の審査の基準2に繰り上がったことを受け、この年度の委員会テーマを整理しなおし、①「認証評価の受審」、②「教員個人評価システムの構築」、③「教育の内部質保証のシステム化＝全体＝」、④「同左＝教育の質保証＝」、⑤「同左＝教育の順序性＝」、⑥「成績の質保証」、⑦「年報作成」、⑧「IRの探求」の8つに定めた。
3）教育の質保証方針について：本学は方針が未決定であったため、第3回委員会より検討を開始し、第4回委員会にて方針を決定した。さらに、2017年度末に行った在学生・卒業生による教育評価調査結果の振り返りを行い、項目や調査方法（回収率の改善）に修正を加えて2019年2月に全在学生（クラスアワー時に実施)、卒後1,3,5年目の卒業生（同窓会

の協力の基での郵送法）に調査をかけ、それぞれ89.4%、20.0%の回収率であった。

4）成績の質保証については複数回審議し、他の委員会（教授会、教育研究審議会）とも連携して検討したが意見が集約できず、次年度に継続することになった。

5）認証評価の受診：認証評価WGが推進役となり、2019年2月から3月に主な原稿収集、内容点検が終わった。資料準備作業などは次年度4月の作業となった。

6）年度ごとの教員評価は順調に行われた。次年度に複数年評価の検討を行う予定となった。

7）年報は予定通り発行された。

8）IRにおいては法人と連携が必要になり、今年度は検討を保留とした。

9）FD委員会からの提案により、数年使用している講義終了後に行う個別授業評価アンケート項目の見直しについて検討した。教員全体会議とも連携し、検討を継続している。

4. 次年度以降に向けた課題

①認証評価の受診に向けた準備の完成

②教育の質保証のための調査の分析と改善点の検討

③成績の質保証、教育の順序性検討の継続

④教員評価方法の検討（複数年評価）

⑤職位ごとの教育力、研究力の標準化の検討

⑥本学独自のIRの探求と法人と連携したIRの探求

4.4.1.9.1　教員評価部会

部 会 長：村井 嘉子　教授

部 会 員：今井教授、濵教授

活動内容：

前年度に引き続き、教員活動評価の複数年評価を採用している公立大学の情報収集を行い、それを土台に本学の教員活動複数年評価を採用する内容（案）を検討した。次年度に複数年評価に関する事項を確定し、全学的に教員活動複数年評価について周知する予定である。

4.4.1.9.2　年報編集部会

部 会 長：北山 幸枝　准教授

部 会 員：松原教授、林（静）准教授、川村講師

事 務 局：平村主任主事

活動内容：

平成29年度の年報　第18巻を発行した。また、平成30年度年報の編集作業を迅速化するため、昨年改定した教員研究活動記録の記入にあたっての留意事項を確認し、委員会報告等のフォーマットをわかりやすく表示して周知した。

4.4.1.10　FD委員会

委 員 長：垣花 渉　准教授

委　　員：阿部准教授、北山准教授、市丸講師、川村講師

事 務 局：松本専門員

活動内容：

1．FD研修会

1)学内FD研修会

(1) 新任教職員オリエンテーション

4月2日と9日に、H30年度新任教職員9名に対して、本学の教育・研究・地域貢献のシステムに関する研修会をおこなった。研修の内容について、満足度は88％であった。

(2) 第1回FD研修会

8月18日に、石川県看護教員現任研修と共同で、武庫川女子大学の神原一之准教授を招き、「パフォーマンス評価の本質的な理解」をテーマにおこなった。本学から10名の参加があった。神原准教授がルーブリックの適切な活用方法を講義し、パフォーマンス評価に関する意見交換を行った。研修会アンケートでは、教育活動をふり返る機会について、100％が「ふり返る機会になった」、今後の教育活動の参考について、90％が「参考にできる」という回答であった。

(3) 第2回FD研修会

2月15日に、京都大学大学院の石井英真准教授を招き、「パフォーマンス評価とルーブリック」をテーマにおこなった。本学から43名の参加があった。石井准教授がパフォーマンス評価を行うためのルーブリックの活用方法を講義した。研修会アンケートでは、講義内容の満足度は100％であった。今後の教育活動に活かせるかについて、76％が「活かせる」という回答であった。

2)学外FD研修会

(1) 第1回FD合同研修会

8月6日に、本学と県立大学主催FD合同研修会を「学生の主体的な学びを促す授業の工夫」をテーマにおこなった。本学からは22名の参加があった。県立大学の澤田忠幸教授が学生の主体的な学びを促す教授法について紹介した。併せて、両大学の教員が合同でグループワークを行い、授業改善に関する意見交換を行った。研修会アンケートでは、テーマについて94％が「満足・やや満足」、教育への活用について、86％が「活用できる」という回答であった。

2．授業評価の実施

1)授業評価票の分析

授業評価票の各質問項目に対して、低く評価（1または2）した学生の割合を調べた。次に、「講義・演習」科目(1～4年次のすべてを含む)と「実習・実験」科目(1～4年次のすべてを含む)に分け、それぞれ平均値を算出し、H28 年度およびH29 年度の結果と比較した。低く評価した学生の割合は「講義・演習」科目で4％前後、「実習・実験」科目で2％弱であり、過去2年の結果と類似した。また、「講義・演習」科目で低く評価した学生の割合は、前期に比べて後期の方がわずかに増える傾向であった。

2)授業評価票の改善

低く評価した学生の意見は、授業改善の重要な情報源となる可能性がある。そのために、後期の授業科目を対象に、低く評価する場合にはその理由をマークシートの空欄に書くよう、授業評価票に明記するとともに、学生へ口頭で依頼した。

3. 他大学の先進事例の調査

1)高大接続教育の情報収集

2月22日に、金沢工業大学が主催した高大連携教育改革シンポジウム「学習者中心の教育への転換」を聴講した。高校と大学の工学教育をPBLで繋ぎ、大学は高校へPBLの研修や助言をおこない、高校は大学へPBLの成果を測るルーブリックの開発に協力する体制を構築した。アウトカムの達成度を測定する試みがなされた。

4.4.1.11　ハラスメント委員会

委 員 長：石垣 和子（教授（学長））

委　　員：長谷川教授、中田教授、牧野教授、阿部准教授、出村事務局長

相 談 員：武山教授、亀田教授、阿部准教授、清水講師

委員会開催：0回(必要に応じて開催)

活動内容：

1. 前年度の実情及び問題点･課題

1事例に関する複数からハラスメント(教員→学生)相談が平成29年度にあったことを受け、予防的に全体に向けて注意を喚起するチラシ作成を検討したが、検討に終わった。継続した検討が必要。

2. 今年度の目標

ハラスメント案件が発生した場合には適切に対処する。

ハラスメントを予防するような職場環境を醸成する。

3. 今年度の活動内容･その評価

1）ハラスメント案件はなく、委員会は開催しなかった。

2）全学に向けたハラスメント予防の働きかけとして、実習指導においてハラスメントが生じやすいことに鑑み、若手研究者向けに「実習指導の第一歩：学生の特性を知り、やる気と自信を育てる方法を考えよう」と題した学長裁量研修会（3月20日、講師は石川県立大学の澤田忠幸教授）を行った。

3）チラシ作成は内容の熟考が必要と判断し、委員長判断にて保留にした。

4. 次年度以降に向けた課題

① 教育者から学生へのハラスメント予防のため、ハラスメント予防とは意識させない形での教員に対する研修会の継続

② 顕在化しなくても教員間、教員と事務との間、その他のハラスメントの存在が懸念されるため、匿名のハラスメント調査などの実施

③ 職場環境改善の検討を継続

4.4.1.12　コンプライアンス委員会

委 員 長：川島 和代　教授（研究科長）

委　　員：松原教授、多久和教授、三部講師、出村事務局長
事 務 局：納橋専門員
活動内容：

倫理委員会との連携の重要性に鑑み、研究倫理委員会とコンプライアンス委員会共催により平成31年2月21日（木）に研修会を開催した（参加者：教員及び大学院生計56名）。研究不正の事例（旅費等）を本学のコンプライアンス教育実施担当者から報告いただき適正な研究費の執行に向けての啓発活動を行った。

平成29年4月よりCITI Japanから事業を継続したAPRIN（Association for the Promotion of Research Integrity:一般財団法人公正研究推進協会）に本学は法人本部を通じて引き続き機関登録しており、新任教員の受講を確認するとともに大学院生に受講を奨励し、さらなる研究倫理の推進を確認した。本年度末までには教員の受講率は100%である。また、大学院生には十分浸透していない可能性が予測され、次年度以降は授業等で推奨する予定である。

4.4.1.13　倫理委員会

委 員 長：川島 和代　教授（研究科長）
委　　員：小林教授、多久和教授（学生部長）、丸岡教授（学長補佐）、濵教授、西村教授、谷本准教授、三部講師、外部委員
事 務 局：杉本主任主事
活動内容：

1. 委員会開催状況
   1) 平成30年度も学長が委嘱した8名の外部委員の参加を得て、計9回の委員会を行った（1回の委員会に2名の外部委員が出席）。倫理審査案件のなかった10月と2月は委員会を開催しなかった。
   2) 平成29年度の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の一部改正により本学の倫理審査の修正事項を踏襲しながら平成30年度委員会運営を行った。
   3) 倫理委員会の開催日（迅速審査・通常審査）を公開し、毎月申請日を事務局よりメール配信したところ、円滑な運営ができたと考える。
   4) 大学院生の「倫理審査結果通知書」を受け取るのは指導教員ではなく、院生自身にという委員の提案を受けて審議し、変更案を学内に通知した。卒業研究は指導教員に返却するのは同様である。

2. 倫理審査案件について
   1) 平成30年度の通常申請数は、教員16件、大学院博士前期課程院生 6件、博士後期課程院生 4件、卒業論文22件、迅速審査11件で合計 59件であった。H29年度は67件）。審査の結果は、通常審査において承認24%（昨年20%）、条件付き承認74%（昨年73%）、変更の勧告2%（昨年5%）、不承認0%（昨年0%）、非該当0%（昨年2%）であった。
   2) 条件付承認は、修正された申請の再審査で、100%が承認となった。
   3) 倫理審査で修正提案があった内容には、以下の案件があった。
      ①対応表等の形式は定式のものであり、添付は不要ではないか、申請書類は必要なものを除き、できるだけ簡素化を図ることとなった。

②新しく開発した飲料や健康食品（サプリメント）等の試供をともなう研究については、本学の審査会だけではその知識と研究方法の理解に限界がある、他の分野の研究者にコンサルテーション必要ではないかとの意見が挙がった。

③倫理審査結果通知書のメールでのやりとりには、セキュリテイの観点から必ずパスワードを付すこととなった。

3. 研修会の開催について

1）平成31年2月21日（木）5限にコンプライアンス委員会と合同研修会を開催した。本年度は、二部構成とし、コンプライアンス研修の後、「人を対象とした研究における利益相反とCOI開示」に関するテーマを取り上げた。講師は弁護士米田弘幸氏を招いて利益相反に関する基本的な知識を共有した。院生にも公開して広く学内に周知を図った。参加者総数は56名であった。

2）出席できなかった教員・大学院生には聴講できるよう、講師の許可を得て録画した研修会内容をPドライブに搭載し1ヶ月間視聴可能とした。

4.4.1.14　衛生委員会

委 員 長：今井 美和　教授

委　　員：金子助教、瀧澤助教、出村事務局長、野川嘱託、中川産業医

事 務 局：平村主任主事

活動内容：

1. 職場巡視

校舎の設備や衛生状態について職場を3回巡視した［6月11日（月）、12月10日（月）、3月18日（月）］。なお、巡視前にこれらに関する情報を職員からメールにて収集した。

2. 定期健康診断

受診状況を調査し、「職員保健だより（春号）（冬号）」やメールにて職員に受診勧奨をした。

3. ストレスチェック、長時間労働

法人の指示に従い、7月にストレスチェックを実施し、職員に受検勧奨をした。また、新任教職員オリエンテーション［4月2日（月）］にて新任、転任職員にリーフレット「自分の時間外労働について考えよう　働き過ぎて疲れていませんか？」（衛生委員会作成）を配布した。

4. 消防避難訓練

防火管理者の管理のもとで消防避難訓練（地震対応訓練を含む）を7月18日（水）に実施した。学生及び職員約228名が参加した。

5. 敷地内全面禁煙

禁煙宣言から2年経った6月29日（金）にメールにて職員に再度周知した。

6. 環境マネジメント

他大学の取り組みも参考にして、「職員保健だより（冬号）」にて、節電、エコマーク商品等の購入、紙媒体の電子化などを啓発した。

7.「職員保健だより（春号）（冬号）」の発行

春号では、定期健康診断の受診勧奨、長時間労働などによるストレスのセルフケアなど、冬号でも、定期健康診断の受診勧奨、ストレスチェック時代のメンタルヘルスに加えて、職場

巡視結果と対応、環境マネジメントについて掲載し、職員に配布した。

4.4.2　特設委員会

4.4.2.1　大学改革委員会

委 員 長：丸岡 直子　教授（学長補佐）
委　　員：牧野教授（学長補佐）、村井教授、出村事務局長
活動内容：

1. 前年度までに検討してきた「教員組織編成方針」および「求める教員像」について、教育研究審議会で審議・決定し、平成30年8月の教員全体会議で周知するとともに、大学のホームページに掲載した。

2. 教員組織編成に関しては、2019年度施行の新カリキュラムが地域医療構想に対応したカリキュラムへの変更には至らなかったこと、看護師等養成所指定規則の改定の骨子が2019年度には公表される見込みであること、さらには看護キャリア支援センターに配置していた専任教員枠（1名）が生じたことなどから、具体的な教員組織編成の検討を開始することができなかった。今後は、学内外の看護学教育のニーズ、医療や医療政策の動向、看護学教育の動向を注視しながら検討を再開する必要がある。

4.4.2.1.1　カリキュラム改定班

班　　長：村井 嘉子　教授
班　　員：石垣教授、小林教授、今井教授、丸岡教授、中田教授、桜井准教授
事 務 局：北村、寺訳教務学生課長
活動内容：

平成28からカリキュラムについて議論を継続し、平成30年7月19日文部科学省へ看護学校等変更承認申請書提出し10月末に、変更申請許可を受けた（看護学校等変更承認申請書参照）。

時間割構築、学修が遅れている学生（過年度生）への対応等、平成31年度よりスタートできるように計画的に検討を行った。

4.4.2.1.2　大学院・専攻科検討班

班　　長：林　一美　教授（附属看護キャリア支援センター長）
班　　員：石垣教授、川島教授、塚田准教授、桜井准教授、石川准教授、谷本准教授（途中から大江助教）
事 務 局：納橋専門員
活動内容：

1. 大学院でのプライマリーNP教育課程における教育内容の検討

本学大学院NP（ナースプラクティショナー）プライマリ・ケア看護の教育内容の検討をおこなった。4月に教員全体会議において、班の取り組み進捗を報告した。能登北部医療圏における訪問看護師の看護実践に関する実態調査を石川看護雑誌（2019年第16巻）にまとめて

報告した。これをもとに、教育内容の構築を図る予定である。

4.5　平成30年度　卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
人間科学領域 （15人）	泉屋　昂平	高齢者の歩くことを意識させた生活が1年後の体力や体型に及ぼす影響
	岩佐　　栞	フィンランドのネウボラから学ぶ子育て支援に関する文献検討 ―子育て世代包括支援センターの全国展開にむけて―
	押田　知子	看護学生の看護師イメージ、セルフエフィカシーの学年差と両者の関連について
	喜多　美友	訪問看護でのICTを用いた多職種連携についての文献検討 ―訪問看護師の視点からの利点と課題の分析―
	辻口ひかり	沈黙時間と友人関係のあり方が沈黙の捉え方に及ぼす影響の学年差について
	中濱　琴美	思春期に性別違和を抱く子どもに対する養護教諭の支援のあり方
	中山　杏菜	路面性状の違いによるウォーキングでの膝への衝撃加速度の変化
	西　　菜緒	路面状態の違いによる心拍数の変動
	橋浦　理子	高齢者の全身持久力に及ぼす身体特性や生理機能の影響
	堀田　　優	有酸素能力の向上を図る運動強度が高齢者の自律神経活動や疲労感に及ぼす影響
	前川　満星	トランスジェンダーの多様性を踏まえた医療機関における対応について
	松村　茅紗	エンゼルケアにおける家族看護のあり方
	村中　有沙	日本における医療観光の現状と課題に関する文献検討
	銘形　　愛	女子学生の笑いに対する態度とコミュニケーションスキルとの関連
	石田　真由	路面の性状の違いによる、運動時の身体への影響の変化 ―腰衝撃加速度、歩行対称性・定常性の考察―
健康科学領域 （10人）	井川　侑香	性周期に伴う嗜好性の変化 ―エネルギー貯蔵の推移の視点から―
	木戸　千晶	看護大生の生活習慣・セルフケアの認識と実態
	木村　茅乃	女子大学生の子宮頸がんとその予防に関する知識と態度について文献検討―非医療系と医療系女子大生を比較して―
	小杉沙規子	椿茶の更年期症状予防に関する研究

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
健康科学領域 （10人）	米田　妃那	医療系女子大学生の子宮頸がんとその予防に関する知識と態度についての文献検討
	内藤　香菜	女子大学生を対象とした子宮頸がん予防啓発活動についての文献検討
	中田　里菜	臨地実習において看護学生が感じるストレス要因と生活リズムの変化
	三好　奈奈	能登北部地域の独居高齢者が感じる日常生活上の不安要素とその支援についての研究
	薮野　琴音	月経周期に伴う嗜好性の変化についての研究 ―月経周期の長さの視点から―
	髙野　千鶴	椿茶の健康増進効果に関する研究
看護専門領域 基礎看護学（8人）	泉　　彩香	患者・家族の間に生じる退院後の療養生活への意向のズレに対する看護師のかかわり―1人前レベルの看護師を対象として―
	小川　朱音	看護師の心臓の超音波検査技術習得過程 ―下大静脈径計測に要する時間―
	島田　優子	地域在住の高齢者個人における懐かしい音楽が脳活動に及ぼす影響 ―近赤外分光法による評価―
	髙木　舞乃	地域在住の高齢者個人の懐かしい音楽が脳活動に及ぼす影響 ―多面的感情尺度による評価―
	新田明日香	車椅子移乗時における被介助者の自力移乗とスライディングボード使用時の動作比較
	宮田　朋海	患者・家族の間に生じる退院後の療養生活への意向のズレに対する看護師のかかわり―ベテラン看護師を対象として―
	大野　大貴	看護職者による心臓超音波検査項目の正確性評価
	岡島　里佳	気象変化が身体に与える影響に関する研究の動向
看護専門領域 母性看護学（9人）	石倉静里香	実子を手放すことを考えている生みの母親への支援に関する文献検討
	石塚　沙綾	出生前診断で胎児異常を診断された母親への看護についての文献研究
	河村　里穂	産後1ヶ月間の母親のニーズ・相談内容と支援の現状についての文献検討
	北本　菜摘	小学生とその保護者の性意識と家庭での性教育に関する文献研究 ―看護専門職の役割―
	砂田　愛実	出産前教室の緊急帝王切開に関する内容についての文献検討
	竹田　理沙	助産師外来の課題に対する取り組みの現状と現在の課題とニーズに関する文献研究 ―2011年以前と以後を比較して―

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 母性看護学（9人）	塚田　歩惟	母親が母乳育児を継続するための父親への支援についての文献検討
	山﨑　愛満	形態別出産準備教室の効果に関する文献検討
	山下　真由	女子看護学生における月経異常が原因の受診行動に関する研究
看護専門領域 小児看護学（6人）	江縁はるな	乳幼児を持つ母親への地震災害後の慢性期・復興期のこころの支援に関する文献検討
	霞流　　恋	治療・処置時における小児の主体的行動を引き出す母親や看護師の関わりに関する文献検討
	多田　朱里	場の機能を活用した不登校児への支援についての文献検討
	西村　祐香	親になる前の時期における子どもに対する感情についての文献検討 ―否定的感情に注目して―
	宮本　菜央	入院患児に付き添う母への支援のあり方と今後の課題
	山岸明日香	長期入院をした患児に対しての退院調整に関する文献検討
看護専門領域 成人看護学（7人）	池上　果穂	脳卒中後遺症患者家族(介護者)が抱く感情の変化に関する文献的考察 ―患者の症状が安定した時期から在宅療養1年までの期間―
	武智　志帆	救急医療における外国人患者への看護実践の実態とその課題の文献的考察
	藤野　　華	外来化学療法患者のセルフケア状況をアセスメントする視点 ―皮膚障害の副作用に焦点をあてて―
	堀田美由紀	在宅における腹膜透析患者とその家族が感じる困難や看護支援について
	南　　佑夏	ICUにおいて緊急入院した患者の家族が求める支援と看護の実際
	宮原　　歩	がん患者が抱くスピリチュアルペインとその支援について ―手記を分析して―
	大西　菜摘	成人・中年期の外来透析患者が抱える自己管理上のストレスに対する看護支援
看護専門領域 老年看護学（5人）	北西　　彩	認知症高齢者のレクリエーション中の自己決定の実態
	桑名由希子	自己決定の機会を取り入れたレクリエーションが認知機能に及ぼす効果
	住田　悠慈	誤嚥性肺炎に罹患した高齢者の施設移行に伴う連携の実態
	渡辺　絢子	認知症高齢者のレクリエーション中の自己決定を支える介入方法の検討

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 老年看護学（5人）	村中美由紀	「看護覚え書」から寝たきり高齢者への看護を学ぶ ―換気と保温、陽光に焦点を当てて―
看護専門領域 地域看護学（9人）	井上　　香	在日中国人留学生の健康意識・行動の特徴 ―食生活を中心とした考察―
	奥　　彩香	がん患者の希望に関する研究 ―闘病記より―
	角　まどか	雪害時における妊婦の不安とその対処
	里見　愛夏	「こどもの日」の社説から読みとく子どもの特徴 ―平成30年間の分析から―
	平井　菜緒	在日中国人留学生の健康意識・行動の特徴 ―メンタルヘルスを中心とした考察―
	若林　彩乃	ALS患者とその家族の人工呼吸器装着の有無における意思決定過程の支援について―患者と家族の意思決定の過程と相互の関係から―
	大島　那菜	父親の育児に対する認識と母親の育児不安との関連について
	立田真梨子	在日中国人留学生の健康意識・行動の特徴 ―運動を中心とした考察―
	松村　伊悟	30歳代までに禁煙に成功した男性就労者の行動変容の要因について
看護専門領域 在宅看護学（6人）	髙橋　志穂	リラクゼーションの観点からみる手浴の適切な時間の検討 ―唾液アミラーゼ活性値を用いたストレス評価―
	西田恵里香	リラクゼーションの観点から見る手浴の適切な時間の検討 ―自律神経活動による評価―
	水上　七海	リラクゼーションの観点からみる手浴の適切な時間の検討 ―POMS2短縮版を用いた主観的評価―
	小林　千織	精神科訪問看護師が実施した精神障がい者に対する退院から社会参加までの訪問看護プロセス
	菅野　裕美	看護師間に生じるコミュニケーションエラーの要因に関する文献検討
	吉村　梨玖	精神患者の訪問看護拒否の対処に関する文献検討

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 精神看護学（9人）	斉藤　亜弥	精神科における入院長期化を防止するために担う看護師の役割についての文献検討
	出戸　夏穂	成人期の発達障害者とその家族への支援についての研究
	中野　知世	発達障害児を持つ母親の心理と保健師の行う支援に関する文献検討
	中邑　瞳子	看護学生における効果的な授業方法 ―上級生との関わりの有効性―
	名山　京花	医療スタッフに対する自殺予防研修または教育に関する文献検討
	堀尾　樹里	精神障害者の地域生活を支えるための外来看護師の役割とは ―症状安定のために行っている看護について―
	前多　秋穂	AD/HDの子どもをもつ母親が抱える育児上の困難と必要な支援
	牧野　聖奈	統合失調症患者家族のニーズを満たすための支援についての検討 ―精神科医療専門職への面接調査から―
	芳野紗衣里	精神疾患を有する母親を持つ子どもへの支援について ―看護的視点から―
看護キャリア 支援センター （2名）	小原美帆子	退院支援看護師が行う患者・家族の意向の不一致に対する支援
	喜田穂乃香	患者からの拒否的な態度に戸惑った体験をした看護学生の意識変化

5. 大学院・看護学研究科

5.1　理念・目標

5.1.1　博士前期課程（修士）

5.1.1.1　教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中にあって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2　教育目標

1. 看護教育を支える教育・研究職の育成

　本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化･発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育･研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

　実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与する高度専門職業人を育成する。

3. 女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康を推進できる助産師の育成

　時代の流れや社会情勢に高い関心と洞察力を持ち、多様化する女性の生き方や家族のニーズ、専門化・複雑化する助産に対応できる人材や、保健・医療・福祉に携わる多職種と積極的に連携・協働し、継続的に援助を推進できる人材の養成が求められている。そうした要請に応える助産師の養成を図るとともに、助産学の発展に寄与する専門職業人を育成する。

4. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

　日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

本学の看護学研究科では、入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
5. 助産実践コース志願者は、助産師の免許取得を志す人

5.1.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、より卓越した看護実践能力と高い研究能力を有し、看護学の研究や教育、看護実践・管理に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成する。研究コースに加え、専門看護師コースと助産実践コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」、科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を育成するための「共通科目B」、各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
2. 国際的な視野を持ち、より効果的な看護を探究し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。
3. 論文作成にあたっては、研究計画の中間報告や複数教員による、組織的で計画的な研究指導体制をとっている。
4. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
5. 助産実践コースでは、助産師免許取得に必要な科目のみならず、多職種と連携してハイリスクに対応でき、多様な年代の性と生殖に関わる健康課題に応えられる専門的知識・技術や倫理的態度を育成する科目を置いている。

5.1.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。
3. 助産実践コースでは、1に加えて専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を修得している。さらに、女性のライフサイクル全般の性と生殖に関わる健康課題に応える能力を身につけている。

5.1.2　博士後期課程（博士）

5.1.2.1　教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中にあって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2　教育目標

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

　看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を発展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

　地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

　効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護学の学的基盤を見据え、看護実践のもととなる原理を解明する能力や人々の健康ニーズに役立てる能力を身につけるために、研究計画の中間報告や複数教員による組織的、かつ計画的な研究指導体制をとっている。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士（看護学）の学位を授与する。

5.2　大学院生の入学・在学・修了の状況

1．入学の状況

1）入学定員・収容定員

単位（人）

課　　程	入学定員	収容定員
博士前期課程	15	25
博士後期課程	3	9

2）試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験（学内選抜）	平成30年 5月12日（土）
博士前期課程入学試験	平成30年 9月22日（土）
博士前期課程入学試験（第2次募集）	平成31年 1月26日（土）
博士後期課程入学試験	平成30年 9月22日（土）

3）受験状況等

単位（人、倍）

	募集定員 A	志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数 C	受験倍率 C/A	合格者数 D	実質倍率 C/D	入学者数
博士前期課程	10	6	0.6	6	0.6	6	1.0	6(6)
博士前期課程(2次)	若干名	2	－	2	－	2	1.0	2(2)
博士前期課程助産	5	9	1.8	8	1.6	5	1.6	4(4)
博士前期課程助産(2次)	若干名	1	－	1	－	1	1.0	1(1)
博士後期課程	3	4	－	4	1.0	4	1.0	4(4)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す
博士前期課程には学内選抜を含む

2．在学の状況（平成31年3月1日現在）

単位（人）

課　　程	1年次	2年次	計
博士前期課程	11(11)	14(13)	25(24)

課　　程	1年次	2年次	3年次	計
博士後期課程	2(2)	4(4)	6(6)	12(12)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

3．修了の状況

1）修了者数と修了後の進路状況　（平成31年3月31日現在）

単位（人）

課　　程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程第14期生	10(10)	医療機関、教育機関
博士後期課程第11期生	2(2)	教育機関

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2）修了後の進路状況（平成31年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第14期生）

単位（人）

区　　分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
就　職	医療機関	5	3	8(8)
	研究機関	0	0	0(0)
	教育機関	1	0	1(1)
	保健・福祉機関	1	0	1(1)
合　計		7	3	10(10)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区　　分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
進　学	大学院博士後期課程	0	0	0(0)
	その他	0	0	0(0)
合　計		0	0	0(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第11期生）

単位（人）

区　　分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
就　職	医療機関	0	0	0(0)
	研究機関	0	0	0(0)
	教育機関	1	1	2(2)
	保健・福祉機関	0	0	0(0)
未　定		0	0	0(0)
合　計		1	1	2(2)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3　大学院教務学生委員会

委 員 長：川島 和代　教授（研究科長）
委　　員：長谷川教授、丸岡教授、亀田教授、林教授
事 務 局：寺訳教務学生課長、納橋専門員
活動内容：

1. 委員会の開催について

大学院教務に関する以下の事項について審議・実施し、必要事項は研究科委員会で審議・報告し、大学院運営を行った。

1）年度初めに新入生並びに在学生へのガイダンスを実施した。
2）助産実践コース開設初年度でもあり、助産学担当教員からの別枠のオリエンテーションを企画した。時間割･授業がうまく運用できるかモニタリングしながら委員会をすすめた。
3）既修得単位、14条学生、長期履修生、科目等履修生、休学・復学の認定を行った。
4）前期・後期成績判定、学位授与・修了判定を行った。
5）非常勤講師、院内講義担当者、実習施設に関する事項の申請を受けて検討した。
6）時間割の作成、大学院便覧2019の作成を実施した。

2. 修士論文・博士論文に関する検討・審議について

1）中間評価委員、予備審査・本審査委員の案の検討
平成30年度は修士論文（12件:2019年4月実施）の中間評価委員、博士論文（2件:11月実施）の予備審査委員の案を研究科委員会に提出した。
2）中間報告会（前期・後期）、修論・博論発表会の運営
4月に修士中間報告会（7名発表、参加者67名）、7月に博士後期課程の中間報告会（4名発表、参加者66名）を実施した。
3）修士論文・博士論文発表会の運営
2月に修士論文発表会（10名発表、参加者90名、うち内部83名、外部7名）を実施し、研究科委員会にて合否の判定を行った。
博士後期課程の学生2名とも予備審査・本審査に合格し、2月に博士論文を発表した（参加者65名、うち内部65名）。研究科委員会にて審議の結果2名が合格となった。

3. 助産看護学分野の開設初年度の運営について

1）助産看護学分野開設に伴い、院生の入学後の学習環境整備（実習室、院生室）を行った。さらに、研究コースやCNSコースの学生との間で授業の進行や履修状況に差異が生じないか継続的な検討を行った。
2）次年度の修士論文作成や審査体制などスケジュールに関して検討し、研究科委員会にて審議依頼を行ったところ、研究コースやCNSコースの院生よりもひと月前倒しで修論審査を実施することとなった。
3）助産学担当教員からの別枠のガイダンスを企画した。時間割・授業がうまく運用できるか通年で意見聴取・モニタリングしながら委員会をすすめた。

4. 大学院生の学修環境の改善について

1）7月に委員2名が「大学院生との懇談会」をもった。院生からの要望をとりまとめ研究科委員会で報告を行った。また、パソコンプロジェクターの購入（研究科長預り金）、土曜日の演習室の解錠、3階会議室の教室仕様（スクリーン設置）、各院生室に清掃用具の配置等を行った。

2）修士論文作成時期に院生室が冷えるとの要望があり、暖房器具を貸与することとした。

3）大学院の授業開催を失念する事態が数件生じ、委員会並びに研究科委員会で事実確認と再発防止策の検討を図り、研究科委員会にて承認された改善策を院生に文書と口頭で報告した。

5. 大学院教育懇談会の開催について

大学院生の受験生確保および、実習場所拡大を目的に、昨年に続き7回目の「大学院教育懇談会（旧北陸3県看護部長懇談会）」を実施し、18名の看護部長等、本学教員18名の参加を得て、意見交換をした。

新たな施設からの参加者もあり、本学で多様な修学支援を行っていることと病院管理者も支援の必要性について認識を高めていただく機会となった。

6. 学部生の大学院進学に関する支援について

1）2月に学部3年次学生向けの大学院説明会を開催した。助産学のみならず、健康科学領域や実践看護学領域の分野紹介も行った。

2）大学院の修士論文・博士論文の発表会に学部生の参加を促し、2名の参加が得られた。

5.4　大学改革委員会　大学院・専攻科検討班

4.4.2.1.2　大学院・専攻科検討班（44頁）を参照のこと。

5.5　平成30年度　修士論文題目一覧

分　　野	氏　　名	修　士　論　文　題　目	担当教員
子どもと家族の看護学	音　美千子	小児がんの子どもの退院後の療養生活を支える母親の困難とそれを軽減する経験－「普通の子どもに近づけたい」にこだわらず「今の子どもの力」に気づく経験の重要性－	西村真実子
女性看護学	大村五輪美	更年期のホルモン補充療法を受ける女性の体験と婦人科外来看護の役割	濵　　耕子
地域精神保健学	室野奈緒子	メンタルヘルス不調者の職場復帰支援における産業看護職の人事労務担当者との連絡・調整に関する　質的研究	石垣　和子
成人看護学	渋谷美保子	かけがえのない人を亡くした看護師が喪失体験を終末期看護につなげるプロセス	牧野　智恵
看護管理学	岡山　容美	看護師長への役割移行時における経験のプロセス	丸岡　直子
看護管理学	倉下　陽子	退院支援看護師が役割を果たしていると自覚するまでのプロセス	丸岡　直子
成人看護学	樋口麻衣子	AYA世代の子宮がん経験者の困難 －治療から1年以上経過後のインタビューから－	牧野　智恵
女性看護学	山本　智世	子育て中の母親との交流による初産婦の母親となる心理	濵　　耕子
女性看護学	土肥　優子	他職種連携が必要な妊産婦への継続支援における医療施設の助産師の役割	濵　　耕子
看護管理学	瀬戸　清華	在宅ALS療養者が意思疎通を図り続けるためにとった主介護者の行動とその背景要因	丸岡　直子

5.6　平成30年度　博士論文題目一覧

氏　　名	学　位　論　文　論　題　目	担当教員
米澤　洋美	地方農村部シルバー人材センター会員による主体的健康づくり活動のプロセスと支援の検討	石垣　和子
寺井梨恵子	転倒リスク場面における看護師の臨床判断能力と眼球運動との関連	丸岡　直子

6. 教員の業績

6.1 書　　籍

6.1.1 書 籍（著 書）

浅見洋, 中島優太, 山名田沙智子 （共編著）： 西田幾多郎未公開ノート研究資料化 報告Ⅱ．前田印刷株式会社出版部，金沢，2019.3

浅見洋 （分担執筆）： 第2章1 死生観を基盤としたエンド・オブ・ライフ・ケア構築のために．長江弘子編集：看護実践にいかす エンド・オブ・ライフ・ケア．日本看護協会出版会，東京，2018.6

浅見洋 （分担執筆）： 序．丸山久美子：双頭の鷲 ： 北條時敬の生涯．工作舎，東京，2018.4

阿部智恵子 （分担執筆）： 第6章アイダ・ジーン・オーランド．城ヶ端初子（編著）：実践に生かす看護理論．サイオ出版，東京，2018．11

石垣和子 （分担執筆）： 高齢化の進行と高齢者の捉え方，日本の医療事情と入院・入所者の推移．（編集）石垣和子・上野まり：看護学テキストNice「在宅看護論」．南江堂，東京，2019.3

大木秀一 （単著）：基本からわかる 看護疫学入門 第3版．医歯薬出版社，東京，2017.12

大木秀一 （分担執筆）： 疫学研究, 研究の実施と分析, 主な論文の種類と特徴．横山美江(編著)：よくわかる看護研究の進め方・まとめ方，第3版．医歯薬出版社，東京，2017.8

大木秀一 （分担執筆）： 疫学と衛生統計．長谷川友紀，長谷川敏彦，松本邦愛(編著)：医療職のための 公衆衛生・社会医学，第6版．医学評論社，東京，2018.2

垣花渉 （分担執筆）： Ⅲ部 看護学生が卒業までに身につけたい社会人基礎力 5章 社会人基礎力を意識的に育む授業とは，6章 フィールド実習を通じた社会人基礎力の育成，7章 学生が自身の健康・生活を管理する力の育成．箕浦とき子，高橋恵：看護職としての社会人基礎力の育て方[第2版]．日本看護協会出版会，東京，2018.6

垣花渉 （分担翻訳）： 第2部 臨床応用 13章 筋膜に指向したピラティス・トレーニング．竹内京子：スポーツと運動の筋膜.，東京，2019.2

加藤穣 （単著）： English Fundamentals for Nursing Students(Fifth Edition)．三恵社, 愛知, 2019.3

川島和代 他 （監修）： 医療的ケア第3版 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養．一般財団法人 長寿社会開発センター，東京，2019.3.

三部倫子 （分担執筆）： 研究コラム セクシュアル・マイノリティ研究．小林多寿子・浅野智彦（編著）：自己語りの社会学――ライフヒストリー・問題経験・当事者経験．新曜社，東京，2018.8

多久和典子, 多久和陽 （分担執筆）： 第1章 生体の一般生理学．本間研一，大森治紀（監修）：標準生理学（第9版）．医学書院，東京，2018.3

中道淳子 （分担執筆）： 第7章E1-c, G1・4．水野敏子, 高山茂子, 三重野英子, 曾田信子（編集）：最新老年看護学第3版2019年版．日本看護協会出版会，東京，2019.2

注1） 本学の教員の氏名の下にはアンダーライン
注2） 本学の学生・院生（卒業・修了生含む）の氏名の下にはアンダーラインかつ氏名の前にアスタリスク（*）

青峰正裕，清末達人，長谷川昇，大澤得二，河手久弥，大和孝子，熊井まどか，長谷川幹治，日野真一郎，竹嶋美夏子，平野可奈，川端龍史，市原俊　(共著)：イラスト解剖生理学実験　第12章感覚，第14章基礎代謝，第15章生殖・発生．東京教学社，東京，2019.3

丸岡直子　(分担執筆)：　研究編　認知症高齢者の転倒予防アクションリサーチ　3)認知症高齢者の転倒予防における看護師のワザやテクニックを引き出すインタビュー法と質的分析．鈴木みずえ（編集）：パーソン・センタードな視点から進める認知症高齢者の転倒予防とせん妄・排泄障害ケア．日本看護協会出版会，東京，2019.3

米田昌代，桶作梢　(分担執筆)：　第12章エンドオブライフケアの事例　6　出産予定日直前の子宮内胎児死亡．小笠原　知枝：エンドオブライフケア看護学　―基礎と実践―．ヌーヴェルヒロカワ，東京，2018.12

6.2　学術論文

6.2.1　査 読 有

浅見洋：　現代看護と西田幾多郎の接点．西田哲学研究，15，43489，2018.7

阿部智恵子，阿部芳江，谷口泰司：　「敬老の日」の社説から読みとく高齢者の特徴―平成30年間の分析から―．The JournalKansaiUniversity of Social Welfare, Vol.22, 143- 149, 2019.3

岩淵直美，法橋尚宏，本田順子，西元康世，石垣和子：　慢性疾患児の退院の意思決定に影響する家族／家族員ビリーフ．家族看護学研究，24(1)，109-122，2018.9

石川倫子，竹村美和，嶋田由美子，西原寿代，中川かつ枝，丸岡直子：　感染管理認定看護師が活動の拡大を目指して行った働きかけと支援ニーズ－所属する病院および教育を受けた教育機関に対して－．石川看護雑誌，16，49-58，2019.3

今井美和，吉田和枝，*大門真里那，*中西愛海，*山越杏奈：　子宮頸がんとその予防に関する女子大学生の知識と態度の状況について．石川看護雑誌，16，13-24，2019.3

大木秀一：　生理人類学におけるふたご研究．日本生理人類学会誌，22(2)，97-105，2017.5

大木秀一，彦聖美：　多胎サークルの実態に関する全国調査　－主催者による特徴の違いと保健行政機関からの支援に関して－．石川看護雑誌，16，1-12，2019.3

Ooki S,：　Zygosity misclassification of recent young twins by maternal reports in Japan. Journal of Pregnancy and Child Health, 4, doi:10.4172/2376-127X.1000318, 2017.5

Ooki S,：　The theoretical formulae of maternal and child health indicators of twin births per mother. Journal of Pregnancy and Reproduction, 2(6), doi: 10.15761/JPR.1000156, 2018.12

金子紀子，石垣和子，*阿川啓子：　おさがり文化と子育て中の母親のソーシャルキャピタルとの関連．文化看護学会誌，10(1)，25-33，2018.5

川島和代，丸岡直子，石垣和子，林一美，田村幸恵：　石川県における看護職員の離職・再就業の実態把握と背景要因　～在宅療養を支える診療所・介護保険施設に勤務する看護職員を中心に～．石川看護雑誌，16，83-90，2019.3.

Kawamura M., Kitaoka K.： Framework of subjective cognition in community-dwelling individuals with schizophrenia who experienced long-term hospitalization. Journal of Wellness and Health Care, 42 (1) , 29-40, 2018.8

Kimori K., Konya C., Matsumoto M.,： Venipuncture-Induced Hematomas Alter Skin Barrier Function in the Elderly Patients. SAGE Open Nursing, 4, 2018.6

Dai M, Shogenji M, Matsui K, Kimori K, Sato A, Maeda H, Okuwa M, Koyano C, Sugama J, Sanada H: Validity of pocket ultrasound device to measure thickness of subcutaneous tissue for improving upper limb lymphoedema assessment.. Lymphoedema Resaerch and Practice, 6, 11から20, 2018.12

小林宏光： ケリーパッドの由来と歴史. 石川看護雑誌, 16, 101-107, 2019.3

Kobayashi H, Song C, Harumi Ikei H, Park BJ, Kagawa T, Miyazaki Y.： Forest walking affects autonomic nervous activity: A population-based study. Frontiers in Public Health, 6, 278, 2018.1

河野由美子, 桜井志保美： 認知症グループホームの管理者の介護職への人材育成に対する認識. 日本在宅ケア学会, 22(1), 105-113, 2018.9

Pham HQ, Yoshioka K, Mohri H, Nakata H, Aki S, Ishimaru K, Takuwa N, Takuwa Y. MTMR4, a phosphoinositide-specific 3'-phosphatase, regulates TFEB activity and the endocytic and autophagic pathways. Genes Cells. doi:10.1111/gtc.12609, 2018.7

Zhao J, Okamoto Y, Asano Y, Ishimaru K, Aki S, Yoshioka K, Takuwa N, Wada T, Inagaki Y, Takahashi C, Nishiuchi T, Takuwa Y. PLoS One. 21;13(5):e0197604. doi:10.1371/journal.pone.0197604.eCollection 2018.5

Sarker MAK, Aki S, Yoshioka K, Kuno K, Okamoto Y, Ishimaru K, Takuwa N, Takuwa Y.： Class II PI3K α and βare required for Rho-dependent uterine smooth muscle contraction and parturition in mice. https://doi.org/10.1210/en.2018-00756. Endocrinology, 160(1), 235-248, 2019.1

Aung KT, Yoshioka K, Aki S, Ishimaru K, Takuwa N, Takuwa Y.： The class II phosphoinositide 3-kinases PI3K-C2α and PI3K-C2β differentially regulate clathrin-dependent pinocytosis in human vascular endothelial cells. https://doi.org/10.1007/s12576-018-0644-2. J Physiol Sci, 69(2), 263-280, 2019.3

谷本千恵： イタリアの精神保健システムの発展過程とその現状 ～日本におけるイタリアの先進的な地域精神保健システムの導入の検討～. 石川看護雑誌, 16, 91-99, 2019.3

Kitamura T, Tanimoto C, Oe S, Kitamura M, Hino S: Familial caregiver's experiences with home-visit nursing for persons with dementia who live alone. Psychogeriatrics, 19(1), 3-9, 2019.1

田村幸恵, 丸岡直子, 川島和代, 石垣和子： 石川県で就労する看護師の離職・再就業に関する実態調査. 石川看護雑誌, 16, 75-82, 2019.3

石井和美, 中田弘子, 川島和代, 小林宏光：ディスポーザブルタオルを用いた部分清拭が高齢者の皮膚に与える影響. 日本看護技術学会誌

子吉知恵美： 子育て期にあるがん終末期在宅療養者への訪問看護師とケアマネジャーによる支援, 訪問看護と介護. 訪問看護と介護, 23 (4), 276-280, 2018.4

子吉知恵美： へき地の地域特性に応じた発達障害児の早期支援のための方法．保健師ジャーナル，74(7)，610-614，2018.7

Chiemi Neyoshi: Public Health Nurses' Support for Children with Autism Spectrum Disorder (ASD) and Their Parents, Tailored to the Level of Parental Acceptance and Local Characteristics. Journal of Community & Public Health Nursing, 4(3), DOI: 10.4172/2471-9846.1000221, 2018. 12

Hasegawa N., Mochizuki M., Kato M., Shimizu N., Yamada T.: Vitmin D3 supplementation improved physical performance in healthy older adults in Japan; a pilot study.. Health, 10, 1200-1209, 2018. 9

瀧本千紗，濵耕子： 1歳6か月児を養育する父親の育児家事行動の特徴と夫婦関係満足度との関連．母性衛生，60(1)，7-1 - 7-9，2019.4

林一美，石川倫子，塚田久恵，大江真吾，松本智里： 過疎地域の訪問看護師が看護実践で感じる判断上の困難．石川看護雑誌，16，59-65，2019.3

林静子，石川倫子，寺井梨恵子，丸岡直子: 新人看護職員研修の教育方法の実態．石川看護雑誌，16，67-74，2019.3

松井康一，丸岡直子： 医療安全に関連する職員研修の企画・実施・評価に対する医療安全管理者の負担感とその影響要因．看護実践学会誌，31(2)，10-20，2019.3

渋谷美保子，牧野智恵： かけがえのない人を亡くした看護師の終末看護実践時の体験とその支援．第49回日本看護学会論文集 看護管理，49，23-26，2019.2.19

丸岡直子，鈴木みずえ，水谷信子，谷口好美，岡本恵理，小林小百合： 認知症看護のエキスパートによる転倒予防ケアの臨床判断の構造とプロセス．日本転倒予防学会誌，5(1)，65-79，2018

丸岡直子，川島和代，田村幸恵，石垣和子，田甫久美子： 新たな看護を求めて離職した看護師の背景要因．石川看護雑誌，16，25-36，2019.3

藤田恵子，丸岡直子： 中堅看護師の看護実践の向上に繋がる自己学習の仕組み．看護実践学会誌，31(1)，12―23，2018.9

辻清美，丸岡直子： 終末期がん患者の退院支援に対する緩和ケア病棟の看護師の姿勢と行動．看護実践学会誌，31(1)，44 ― 54，2018.9

南堀直之，村井嘉子： 安静降圧療法を受ける急性大動脈解離患者に対する看護実践の構造．日本クリティカルケア看護学会誌，14，77-85，2018.8

中野泰規，村井嘉子： クリティカルケア看護師のICU/CCUに緊急入室した患者の家族に対するアプローチの方法．石川看護雑誌，16，37-48，2018

山﨑智可： 日本の訪問看護師が捉える医師との連携に関する文献レビューー連携の実践と課題に焦点を当ててー．文化看護学会誌，10(1)，61-70，2018.5

山﨑智可，林一美： 身近に精神科医師がいない精神科看護未経験の訪問看護師が捉える精神科医師との連携実践．日本在宅看護学会誌，7 (2)，1-10，2019.3

米澤洋美，石垣和子，大木秀一：シルバー人材センター会員の自主的健康づくり活動の意義．福井大学医学部研究雑誌，16，11-22，2019.3

6.2.2 査 読 無

石垣和子： 文化看護学会の10年とこれから 学会設立の経緯．文化看護学会誌，11(1)，2019.3

彦聖美，大木秀一： 福祉の現場から 地域における男性介護者支援の推進 〜ソーシャル・キャピタルに着目して〜．別冊 地域ケアリング，19(9)，43-46，2017.7

大木秀一： エピジェネティクスとふたご研究 ーDOHaDを中心に．Medical Science Digest，43(12)，5-7，2017.11

大木秀一： エピジェネティクスとふたご研究 ーDOHaDを中心に．別冊BIO Clinica，6(4)，130-132，2017.11

彦聖美，大木秀一： 福祉の現場から 地域における男性介護者支援の推進 ソーシャル・キャピタルに着目して．別冊 地域ケアリング，20(1)，73-76，2018.1

Shizuko Hayashi.，*Asumi Sugaike.，*Akino Ienaka.，Rieko Terai.，Naoko Maruoka.：Characteristics of Eye Movement and Clinical Judgment in Nurses and Nursing Students During the Sterile Glove Application. Digital Human Modeling. Applications in Health, Safety, Ergonomics, and Risk Management.，9th International Conference, DHM 2018, Held as Part of HCI International 2018, Las Vegas, NV, USA, July 15-20, 2018, Proceedings,Lecture Notes in Computer Science, vol 10917. Springer, Cham, 410-418, 2018.5

6.3 その他の原稿

浅見洋： 安藤礼二『大拙』「禅者大拙に連なる思想史の雄大なパノラマ―大きな視野で、平明に描く」(書評)．週刊読書人，3272，4，2019.1

浅見洋： ふるさと交流．北国新聞（舞台），1，2018.11

石川倫子： 書評 『病気の成り立ちを知る』(基本を学ぶ 看護シリーズ3)
人の病気がわかる「症状マネジメント」看護学生には必読．看護教育，59(12)，1075，2018.12

今方裕子： ライフステージ事例検討会に参加して．30年度北信がんプロ養成基盤形成プラン事業報告書，11，2019.3

大木秀一： ふたごの健康課題は「家庭単位で」考えることも重要．JAMBA Web活動報告，2017.6

大木秀一： 卵性診断に関する調査報告2017 産科医療機関で告げられる双生児の卵性は必ずしも正しいとは限らない．JAMBA Web活動報告，2017.6

大木秀一： 第31回日本双生児研究学会シンポジウム「当事者が参加する学会の強みを生かして」．日本双生児研究学会ニュースレター，62，4-8，2017.7

大木秀一： ツインマザースクラブ創立50年によせて．ツインマザースクラブ会報 50周年記念号，248，5-9，2018.1

大木秀一： 第1章 多胎育児家庭の現状と虐待防止のための支援．多胎育児家庭の虐待リスクと家庭訪問型支援の効果等に関する調査研究 厚生労働省 平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究事業，1-21，2018.3

大木秀一：　東大附属での双生児研究との関わり　卵性診断特別検査を中心に．創立70周年記念双生児研究論文集－東大附属論集編集版－，双生児研究委員会（編），東京大学教育学部附属中等教育学校，8-10，2018.3

垣花渉，*泉屋昂平，*橋浦理子，*堀田優，*川上結惟，*河淵紗也香，*河渕理乃，*小林千恵，*徳沢聖那，*砺波亜結，*中坂百花，*松原美歩，*菅野裕美
：　看護大プロデュース「食育弁当」．平成30年度地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告集，2019.2

大北全俊，遠矢和希，加藤穣，中村フランツィスカ，花井十伍，横田恵子：　感染症における倫理的課題に関する研究.厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究　平成29年度研究報告書，124-128，2018.6

多久和典子：　実感できる生理学を．日本生理学雑誌80，40-42，2018.2

多久和典子：　石川県立看護大学　年報　編集後記．石川県立看護大学年報，18，121-122，2018.9

多久和典子：「半場道子先生、おめでとうございます！」．生理学女性研究者の会 NEWSLETTER　，44，7-8，2018.7

多久和典子：　平成30年度入学式．石川県立看護大学IPNUキャンパスネット，34，2，2018.10

多久和典子：　平成30年度開学記念行事．石川県立看護大学IPNUキャンパスネット，34，3，2018.10

武山雅志，曽根志穂，金谷雅代：　災害ボランティアサークルによる子ども向け防災教育．看護，71（4），2019.3

武山雅志：　第7章　支援者の自己理解．被害者支援テキスト　～支援に携わる人たちのために～（知識編），知7-1-1～7-1-7，2018.8

西村真実子，千原裕香：　親子交流授業の効果における学校差を構成する要因の量的調査．公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団受託研究完了報告書，2018.9

瀧本千紗，濵耕子，室津史子：　子育て中の夫の精神援助行動の特徴からみた夫婦関係満足度に関する検討．小児保健研究

瀧本千紗，室津史子，濵耕子：　夫婦の育児観と夫の家事育児行動からみた「育児」の捉え方の特徴．日本助産学会誌

牧野智恵：「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」（北信がんプロ）の概要と本学におけるがん看護専門看護師養成．平成30年度　　北信がんプロ事業実施報告書，7-8，2019.3

牧野智恵：　本学におけるインテンシブコースの成果．平成30年度北信がんプロ事業実施報告書，9-10，2019.3

牧野智恵：　おわりに．平成30年度北信がんプロ事業実施報告書，59，2019.3

牧野智恵：　はじめに.，1，2019.3

丸岡直子：　在宅療養生活をデザインする．第12回看護実践学会学術集会講演集，17，2018.9

6.4　学会発表

浅見美千江,彦聖美,浅見洋：看取りにいたる介護を支えたもの，日本エンドオブライフケア学会学術集会，東京，2018.9.15，日本エンドオブライフケア学会第2回学術集会抄録集，89，2018

浅見洋,中嶋優太,満原健,吉野斉志,秋富克哉：（パネル）西田幾多郎未公開ノートの研究資料化―「宗教学講義ノート」を中心に―，日本宗教学会，京都，2018.9.8，日本宗教学会第77学術大会HP、パネル要旨，5 2018

阿部智恵子： 平成の時代における子ども、社会、親の変容， 日本都市学会65回大会，福岡，2018.10，日本都市学会65回大会要旨集，2018

米澤洋美，石垣和子： 地方農村部Xシルバー人材センター会員の抱える現在と将来の心配ごと，日本地域看護学会第21回学術集会，岐阜，2018.8，日本地域看護学会第21回学術集会講演集 ，119，2018

*K. Agawa, K. Ishigaki, A. Ohwan, N. Kaneko, : An insight into Japanese medical culture of end-of-life care in rural areas lacking adequate medical care services, 44thAnnualConference of transcultural Nursing Society, San Antonio USA, 2018.10, TCNS Book of Abstracts2018, 39, 2018

木村一絵，石垣和子，重松由佳子： CAREプログラムの子どもの問題行動軽減に関する効果―ランダム化比較試験―，第38回日本看護科学学会，松山市，2018.12，第38回日本看護科学学会プログラム集，112，2018

石川倫子： 新人看護師の1年及び2年目の看護技術の到達レベルに関する実態調査，第22回日本看護管理学会学術集会，神戸，2018.8，第22回日本看護管理学会学術集会抄録集，353，2018.7

菊山裕美，遊佐真由美，石川倫子： 看護技術「点滴静脈内注射」の判断力に対するパフォーマンス評価の効果，日本看護学教育学会第26回学術集会，横浜，2018.8，日本看護学教育学会誌，28，128，2018.8

N Ishikawa, M Takemura, Y Shimada, S Nishihara, K Nakagawa, N Maruoka: Support Needed for the Activities of Certified Nurses in Infection Control, The5th China Japan Korea Nursing Conference, tokyo, September 2018, Abstract Book of The5th China Japan Korea Nursing Conference, 87,2018.9″

嶋田由美子,石川倫子,竹村美和,西原寿代,中川かつ代: 感染管理認定看護師が活動に向けて行った働きかけ， 第34回日本環境感染学会総会・学術集会，神戸，2019.2，第34回日本環境感染学会総会・学術集会プログラム集，136，2019.2

西原寿代，石川倫子，竹村美和，嶋田由美子，中川かつ代： 感染管理認定看護師が認識した、活動に向けて得られた支援， 第34回日本環境感染学会総会・学術集会，神戸，2019.2，第34回日本環境感染学会総会・学術集会プログラム集，136，2019.2

彦聖美，大木秀一： 8都道府県を対象とした調査に基づく男性介護者の地域特性と支援， 第76回日本公衆衛生学会，鹿児島，2017.11，第76回日本公衆衛生学会総会抄録集，64(10)，675，2017

布施晴美，服部律子，佐藤喜美子，志村恵，松葉敬文，大髙恵美，落合世津子，大木秀一，大岸弘子： 多胎育児家庭が体験する困難感，第77回日本公衆衛生学会，福島，2018.10，第77回日本公衆衛生学会総会抄録集，65(10)，2018

大髙恵美，田中輝子，糸井川誠子，佐藤喜美子，志村恵，布施晴美，松葉敬文，服部律子，落合世津子，天羽千恵子，村井麻木，大木秀一，大岸弘子，玄田朋恵： 多胎育児家庭の家庭　訪問型支援ニーズ　～訪問支援者・訪問支援の場所・訪問支援者に求める能力～， 日本双生児研究学会第33回学術講演会，大阪，2019.1，日本双生児研究学会第33回学術講演会　プログラム・

抄録，17，2019

松葉敬文，田中輝子，糸井川誠子，佐藤喜美子，志村恵，布施晴美，大髙恵美，服部律子，落合世津子，天羽千恵子，村井麻木，大木秀一，大岸弘子，玄田朋恵： 育児ステージ別にみた多胎育児家庭を取り巻く環境　～データマイニングによる共起ネットワーク図を用いた分析～，日本双生児研究学会第33回学術講演会，大阪，2019.1，日本双生児研究学会第33回学術講演会プログラム・抄録，18，2019

松葉敬文，金森聖子，山岸和美，糸井川誠子，髙山ゆき子，天羽千恵子，中村由美子，彦聖美，大木秀一： 多胎児用母子健康手帳のニーズと有用性に関する質問紙調査の結果，日本双生児研究学会第33回学術講演会，大阪，2019.1，日本双生児研究学会第33回学術講演会　プログラム・抄録，19，2019

大西陽子，村井嘉子： クリティカルケア領域における浅い鎮静深度で管理されている人工呼吸器装着患者に対する看護実践の特徴， 第14回日本クリティカルケア看護学会学術集会， 東京，2018.6，第14回日本クリティカルケア看護学会学術集会抄録集，101，2018

桶作梢： 乳がんサバイバーが子どもに母乳を与える体験， 第35回石川県母性衛生学会学術集会・第33回北陸母性衛生学会学術集会，石川，2018.6，第35回石川県母性衛生学会学術集会・第33回北陸母性衛生学会学術集会抄録集，6，2018

垣花渉，北山幸枝： フィールド実習，初年次教育学会第11回大会，札幌，2018.9，初年次教育学会第11回大会発表要旨集，184，2018

Kato,Y: Enhancing the English proficiency of nursing faculty : One institution's experience, JANET2018 Conference, 2018.6, JANET2018 Conference, 2018

Kato,Y: Traditional medicine practiced by Mongolian race, Ⅷ French-Japanese International Bioethics Conference, 2018.8, Ⅷ French-Japanese International Bioethics Conference Abstract Book, 18,218

Yu, L and Kato,Y: Complementary but not alternative:grounds for rejecting conventional medicine based on literature search, Ⅷ French-Japanese International Bioethics Conference, 2018.8, Ⅷ French-Japanese International Bioethics Conference Abstract Book, 20, 2018″

*河合良枝，金子紀子，石垣和子： 女性の有職率が高い地域の働く母親が抱く祖父母教室への期待， 日本地域看護学会第21回学術集会，岐阜，2018.8，日本地域看護学会第21回学術集会講演集，125，2018

Kaneko N, Ishigaki K, *Agawa K : Social Capital of Childrearing Mothers in Japan: Discussion from a Cultural Perspective: , 44th Annual Conference of the Transcultural Nursing Society, San Antonio, Texas, 2018.10, TCNS Book of Abstracts 2018, , 38, 2018

蘭直美，柴田由加，川島和代，長谷川昇： A定期巡回訪問介護利用者における摂食嚥下機能に関する実態調査，日本老年看護学会第23回学術集会，福岡県久留米市，2018.6，日本老年看護学会第23回学術集会　抄録集，114，2018

川島和代，市野由香，羽左間成美，渡辺達也： 配食事業者によるICTを活用した在宅高齢者の見守りシステム構築に関する予備調査―家族の視点からの効果の検証―， 日本老年看護学会第23回学術集会，福岡県久留米市，2018.6，日本老年看護学会第23回学術集会　抄録集，197，

2018

川島和代，石垣和子，丸岡直子，林一美，田村幸恵： 看護職員の離職・再就業の実態把握と支援方略―診療所」・介護保険施設に勤務する看護職員を中心に―，日本看護科学学会，松山，2018.12，第38回日本看護科学学会学術集会プログラム集，129，2018

芳原由衣，川島和代，長谷川昇，中道淳子： 地域包括ケア病棟・病床への移行支援における看護師の判断，第38回日本看護科学学会学術集会，愛媛県松山市，2018.12，第38回日本看護科学学会学術集会　オンライン抄録，2018

鶴見薫，竹中真佐枝，村中悦子，川村みどり： 地域連携手帳の効果と外来看護師の役割―手帳を利用して通院している患者の事例を通して―，石川県立高松病院こころの臨床学会，石川，2019.3，第31回石川県立高松病院こころの臨床学会，2019

小林宏光： k近傍法による心拍間隔データのエラー検出，日本生理人類学会78回大会，東京，2017.6，日本生理人類学会78回大会概要集，47，2018

桜井志保美，河野由美子： ショートステイ利用による睡眠支援を目的としてレスパイトの効果，第23回日本在宅ケア学会学術集会，大阪，2018.7

河野由美子，桜井志保美： 認知症グループホームにおける介護職の自己決定支援とストレスの関連，第38回日本看護科学学会学術集会，愛媛，2018.12

荒木晃子，二宮周平，金成恩，中塚幹也，梅澤彩，南貴子，三部倫子，藤田圭似子： 家族形成支援における生殖医療に関する国内法整備を視野に入れた取り組み――医学／文化人類学／社会学／ジェンダー学／心理学と法学の協同，日本生殖医学会63回大会（北海道胆振東部地震により中止。その後、Web開催に形式変更），旭川，2018年，日本生殖医学会雑誌，63(3)，205，2018

Hiroko Nakada，Yukie Tamura：Effects of Nostalgic Music on the Cerebral Activity, From the Perspective of Oxy-Hemoglobin Concentration in the Prefrontal Cortex, The 5th China Japan Korea Nursing Conference, 101, 2018.

中西清晃,鬼束和樹,西森節代,中村由美,酢野貢,竹中克之,日野昌力,清水暢子：「精神科患者の服薬アドヒアランスに影響する支援の調査 ―入院時から退院後3カ月の調査―」，第26回日本精神科救急学会 沖縄県浦添市，岡山，2018.10，第26回日本精神科救急学会，2018

曽根志穂，石垣和子： 地域住民の防災対策の認識と災害に備えた保健行動，第77回日本公衆衛生学会総会，郡山，2018.10，第77回日本公衆衛生学会総会抄録集，65(10)，509，2018

Shiho Sone，Masayo Kanaya，Masashi Takeyama，Kazuko Ishigaki：Practice and Awareness of Disaster Prevention Measures among Local Residents in Japan, 5thResearch Conference of World Society of Disaster Nursing, Bremen, Germany, 2018.10, 5thResearch Conference of World Society of Disaster Nursing Bremen, Germany 2018, 113, 2018

中村佳穂，曽山小織，濵耕子： 産後の乳房緊満に応じたケアとケアに対する評価についての文献検討，第35回石川県母性衛生学会学術集会 第33回北陸母性衛生学会学術集会，金沢，2018.6，第35回石川県母性衛生学会学術集会 第33回北陸母性衛生学会学術集会抄録集，8，2018

瀧澤理穂,牧野智恵： 乳がん患者が子どもに真実を伝える苦悩を乗り越える体験―M. ニューマン理論に基づく対話から―，第33回日本がん看護学会学術集会，福岡，2019.2，第33回日本がん看護学会学術集会抄録集，33，230，2019

Sarker MAK, S Aki , K Yoshioka, K Kuno, K Ishimaru , N Takuwa, Y Takuwa : Novel indispensable role of and isoforms of class II PI3K for uterine smooth muscle contraction and labor., 第54回北陸生殖医学会学術講演会, 金沢, 2018.6.3, 第54回北陸生殖医学会学術講演会抄録集, 14, 12, 2018

多久和典子, 岡本安雄, 石丸和宏, 多久和陽 : S1P2によるブレオマイシン誘発肺線維症の増悪機構の検討 : 肺胞マクロファージの細胞老化制御の関与, 第28回日本病態生理学会, 横浜, 2018.8.5, 日本病態生理学会雑誌, 27, 56, 2018

Yoshioka K, Aung KT, Sarker MAK, Aki S, K Yoshioka, Biswas K, N Takuwa, Y Takuwa : Essential roles of class II PI3K isoforms in endocytosis and endosomal signaling., 9th Congress of the Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies, Kobe, 2019.3, J. Physiol. Sci. 69(Suppl.1), S27, 2019

Aki S, Yoshioka K, Takuwa N Takuwa Y. : Sequential phosphoinositide conversion is required for transforming growth factor β-induced receptor endocytosis and Smad2/3 activation in endothelial cells., 9th Congress of the Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies, Kobe, 2019.3, J. Physiol. Sci. 69(Suppl.1), S179, 2019

Okamoto Y, Zhao J-J, Yoshioka K, Aki S, Ishimaru K, Takuwa N, Takuwa Y. S1P2 aggravates lung fibrosis through altering alveolar macrophage polarization in mice. The Journal of Physiological Sciences Vol.69(Suppl.1), S204

武山雅志, 曽根志穂, 金谷雅代 : 地域における子どもへの防災教育の取組ー公立看護系大学災害ボランティアサークル活動を通してー, 日本災害看護学会第20回大会, 神戸, 2018.8.10, 日本災害看護学会誌, 20 (1), 129, 2018

立田恵梨子, 玉川千夏子, 中嶋咲也子, 田村幸恵, 木森佳子 : 看護学生によるポケット型エコーを使用した下大静脈径測定の教育プログラム評価, 第15回日本循環器看護学会学術集会, 大阪, 2018.10, 第15回日本循環器看護学会学術集会プログラム・抄録集, 126, 2018

Yukie Tamura, Hiroko Nakada : Effects of Nostalgic Music on Cerebral Activity: A Qualitative analysis of free remarks, The 5th china Japan Korea Nursing Conference, Tokyo, 2018.9, The 5th china Japan Korea Nursing Conference Abstract Book, 100, 2018

Yuka Chihara, Mamiko Nishimura, Masayo Kanaya, Yoko Sakamoto, *Yuri Hombu, Takahiro Terai, *Satsuki Dateoka, *Migiwa Narita : The Effects of the “Becoming a Parent Program ” on High School Students who have Strained Relationships with their Parents , the ISPCAN XXII International Congress on Child Abuse and Neglect, プラハ, 2018.9, XXII Congress of InternationalSociety for Prevention of Child Abuse and Neglect (Final Program), 145, 2018

中道淳子,*芳原由衣,長谷川昇,川島和代 : 地域包括ケア病棟・病床への移行支援の判断材料に関する実態調査, 第38回日本看護科学学会, 愛媛, 2018.12, 日本看護科学学会抄録集, 2018

M. Nishimura, M. Kanaya, M. Yoneda, C. Yuka, S. Soyama, *Satsuki Dateoka : Evaluation of group meetings on parenting for mothers of infant experiencing anxiety and difficulty with childcare, the ISPCAN XXII International Congress on Child Abuse and Neglect, プラハ, 2018.9, XXII Congress of International Society for Prevention of Child Abuse

and Neglect (Final Program), 144, 2018

Chiemi Neyoshi : Public health nurses' support for parents of children with autism spectrum disorder (ASD), tailored to the level of parental acceptance and support systems available in the area , 40th Annual Conference of the International School Psychology Association, Tokyo, 2018.7, ISPA 2018, 42, 2018

Chiemi Neyoshi : Public health nurses' roles of educating, making use of, and connecting other professionals in building support systems for children with autism spectrum disorder (ASD) suited to local characteristics, All Together Better Health IX (ATBH IX) 2018, Auckland , 2018.9, ALL TOGETHER BETTER HEALTH IX, 24, 2018

Mochizuki M., Hasegawa N., Kato M., Yamada T., Shimizu N., Torii A. : The salivary 11 β-HSDS activities is benefical for continuous strength exercise in elderly people., 9th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies, Kobe, Japan, 2019.3

望月美也子，長谷川昇，山田恭子，加藤真弓，清水暢子： ビタミンDサプリメントの摂取が運動機能及び認知機能に及ぼす影響，日本薬学会第139年会，千葉，2019.3

木村紗也夏，濵耕子： 不妊治療終結過程における女性の心理と必要な支援，第35回石川県母性衛生学会総会・学術講演会第33回北陸母性衛生学会総会・学術講演会，金沢，2018.6，第35回石川県母性衛生学会総会・学術講演会第33回北陸母性衛生学会総会・学術講演会　プログラム抄録集，10，2018

新谷里沙子，濵耕子： 精神疾患合併妊産婦の育児に関わる継続支援についての文献検討，第35回石川県母性衛生学会総会・学術講演会，第33回北陸母性衛生学会総会・学術講演会，金沢，2018.6，第35回石川県母性衛生学会総会・学術講演会，第33回北陸母性衛生学会総会・学術講演会　プログラム　抄録集，16，2018

瀧本千紗，濵耕子，室津史子： 夫婦の精神援助行動からみた夫婦関係満足度の夫婦間得点差に関する検討，第59回日本母性衛生学会総会・学術集会，新潟，2018.10，母性衛生，59(3)，254，2018

瀧本千紗，室津史子，濵耕子： 夫婦の育児観からみた夫の家事育児行動の特徴，第38回日本看護科学学会学術集会，松山，2018.12，第38回日本看護科学会学術集会予稿集，P1-3-31，2018

林一美，山﨑智可： 診療所看護の質指標作成に向けた項目の明確化に関する調査，第8回日本在宅看護学会学術集会，静岡，2018.12，日本在宅看護学会誌，7 (1)，147，2018

Shizuko Hayashi.,*Hiina Nishino.,*Niho Kobayashi.,*Miho Yamada : Physiological and psychological effects of the differences in wheelchair speed on elderly individuals, The 5th China Japan Korea Nursing Conferrence, Tokyo,Japan, 2018.9, The 5th China Japan Korea Nursing Conferrence Abstract Book, 41, 2018

渋谷美保子，牧野智恵：かけがえのない人を亡くした看護師の終末看護実践時の体験とその支援，第49回日本看護学会　看護管理　学術集会，仙台，2018.8，第49回日本看護学会看護管理　学術集会抄録集，49，86，2018

牧野智恵，瀧澤理穂，松本智里，長谷川昇，我妻孝則，籔下佳子，内村恵里子，藤川直美： 外来化学療法を受ける乳がん患者の唾液からのシクロホスファミド排泄の実態調査，第39回日本がん看護学会　学術集会，福岡，2019.2，第39回日本がん看護学会　学術集会　講演集，33（特

別号)，52，2019

Tomoe Makino,Noboru Hasegawa ,Keiko Yabushita： PROTECTIVE MEASURES TO MINIMIZE CYCLOPHOSPHAMIDE-INDUCED EXPOSURE RISK AFTER URINATION IN BREAST CANCER PATIENTS, International Conference on Cancer Nursing(ICCN 2018)，New Zealand，2018.9，International Conference on Cancer Nursing(ICCN 2018)，2019

松本智里，加藤真由美，兼氏歩，市堰徹，福井清数，髙橋詠二，平松知子，谷口好美： 術前の女性人工股関節全置換術患者の歩容の自己評価に対する影響モデル，第38回日本看護科学学会学術集会，愛媛，2018.12，第38回日本看護科学学会学術集会 プログラム集，34，2018

江藤真由美，丸岡直子，石川倫子，林静子： 認定看護師資格をもつ看護師のキャリア発達のプロセス，日本看護管理学会，神戸，2018.8，第22回日本看護管理学会学術集会抄録集，306，2018

山田良子，丸岡直子，武山雅志，池田富三香，石川倫子，林静子： 看護学実習指導における看護師の調整行動指標の開発，日本看護管理学会，神戸，2018.8，第22回日本看護管理学会学術集会抄録集，308，2018

Naoko Maruoka，Noriko Ishikawa，Shizuko Hayashi，Yukie Tamura，Tomoyo tabuchi，Masashi Takeyama，Kazumi Hayashi，Chihumi Yoshida，Kieko Higuchi： A sctual duties and issues of transitional care of patients by outpatient nurses，The 5th China Japan Korea Nursing Conferens，Tokyo，2018.9，The 5th China Japan Korea Nursing Conferens Abstract Book，39，2018

谷口好美，平松知子，加藤真由美，丸岡直子，能登智重，前田直大，鈴木みずえ： 認知症高齢者の転倒予防ケア質評価指標によるケア介入プログラムの効果―北陸のケアスタッフの転倒予防に対する意識変化の比較―，日本転倒予防学会，浜松，2018.10，日本転倒予防学会第5回学術集会プログラム・抄録集，88，2018

丸岡直子，谷口好美，加藤真由美，平松知子，鈴木みずえ： 認知症高齢者の転倒予防ケア質評価指標にによるケア介入プログラムからの学びと活用―北陸地区ケアスタッフのインタビューから―，日本転倒予防学会，浜松，2018.10，日本転倒予防学会第5回学術集会プログラム・抄録集，89，2018

金森雅夫，鈴木みずえ，平松知子，加藤真由美，谷口好美，丸岡直子，六角僚子，小林小百合，島田裕之，泉キヨ子： 認知症高齢者の転倒予防ケア質評価指標によるケア介入プログラムの効果－3地区おける1日あたりの転倒の発生率に関する分析－，日本転倒予防学会，浜松，2018.10，日本転倒予防学会第5回学術集会プログラム・抄録集，90，2018

山﨑智可： 産業看護職による20代30代独身メンタルヘルス不調休職者の親と連携する際の着眼点，第7回日本産業看護学会学術集会，愛知，2018.11，第7回学術集会日本産業看護学会抄録集，78，2018

川之上莉央・米田昌代： 緊急母体搬送時の妊産婦の心理と看護についての文献検討，第35回石川県母性衛生学会　第33回北陸母性衛生学会，金沢，2018.7，第35回石川県母性衛生学会総会・学術集会　第33回北陸母性衛生学会総会・学術集会　プログラム　抄録集，18，2018

羽左間成美，市野由香，渡辺達也，川島和代： 配食事業者によるICTを活用した在宅高齢者の見守りシステム構築に関する予備調査―配食事スタッフの視点からの効果の検証―，第13回日本ルーラルナーシング学会学術集会，香川県高松市，2018.11.，第13回日本ルーラルナーシング

学会学術集会　抄録集，2018

6.5　社会活動・地域貢献

浅見洋：日本エンドオブライフケア学会理事、市民と専門職が協働するための実践・教育・研究員会委員長、学会活動推進員委員会委員、査読委員

浅見洋：第2回日本エンドオブライフケア学会特別講演3・座長，一橋大学一橋講堂，2018.9.16

浅見洋：比較思想学会理事、庶務委員、北陸支部会長

浅見洋：第43回比較思想学会個人研究発表・司会，日本大学文理学部百周年記念講堂，2018.6.17

浅見洋：西田哲学会理事

浅見洋：日本宗教学会理事

浅見洋：北陸宗教学会理事、監事

浅見洋：北陸宗教学会第25回学術大会基調講演・司会，金沢偉人館，2018.10.27

浅見洋：日本医学哲学・倫理学会評議員、学会運営委員

浅見洋：石川県博物館協議会監事

浅見洋：鈴木大拙-西田幾多郎記念金沢大学国際賞選考委員

浅見洋：バウハウス100周年いしかわ代表

浅見洋：公益信託能登町エンデバーファンド21　審査委員

浅見洋：北国新聞「新聞を読んで」感想文コンクール審査員

浅見洋：（講演）平成30年度西田幾多郎哲学講座，後期西田哲学とキリスト教，石川県西田幾多郎記念哲学館，2018.4.28

浅見洋：（講師）金沢検定対策講座中級・上級クラス，思想／教育，北国文化センター，2018.5.12

浅見洋：（講演）特別展示企画イベント，ヨーロッパにおける西田哲学の現在，石川県西田幾多郎記念哲学館，2018.5.27

浅見洋：（講義）認知症認定看護師教育課「看護倫理」，石川県立看護大学研修室，2018.7.9，23.

浅見洋：（講演）野々市寿大学，心の在り方―今を生きるということ，野々市市立図書館市民学習センター，2018.7.27

浅見洋：（講演）平成30年度大阪府社会福祉協議会医療部会幹部職員研修会，エンドオブライフケアと現代日本人の死生観，大阪社会福祉指導センター（大阪市），2018.9.13

浅見洋：（講演）かほく市退職校長会,西田幾多郎から学ぶ　心の在り方，石川県西田幾多郎記念哲学館，2018.9.19

浅見洋：（授業）ゲストティーチャー（4年生）,高橋ふみの生涯，七塚小学校，2018.11.15

浅見洋：（講演）真宗能登地区第一組、親鸞聖人と西田幾多郎，願正寺（宝達志水），2018.11.20

浅見洋：（講義）看護実習指導者講習会、看護倫理，富山県看護協会，2018.11.14

浅見洋：（講義）高砂大学、鈴木大拙に触れる，金沢市中央（彦三）公民館，2018.11.10，12，14

浅見洋：（講義）国立長寿医療研究センター高齢者・在宅医療総合研修，高齢者のEOLと日本人

の死生観，国立長寿医療センター（愛知県大府），2018.12.19

浅見洋：（講演）丸山久美子『双頭の鷲　北条時敬の生涯』出版記念会，金沢東急ホテル，2018.12.19

浅見洋:（講義）認定看護管理者教育課程（サードレベル）「看護倫理」,石川県立看護大学研修室，2018.11.20，12.10

浅見洋：（司会）在宅医療・介護連携推進のための市民参加型研修会,「生きる」を支える看取りについて考える，高松産業文化センター，2019.2.24.

浅見洋：（講演）鶴来病院倫理研修会，エンドオブライフケアと日本人の死生観，鶴来病院，2019.3.1

浅見洋：（講演）親鸞上人と西田幾多郎，応現寺（かほく市木津），2019.3.15

阿部智恵子：石川県准看護師試験委員

阿部智恵子：宝達志水町健康づくり推進協議会委員

阿部智恵子：JICA青年研修講師

石川倫子：日本看護管理学会　評議員

石川倫子：看護実践学会　専任査読委員

石川倫子：第12回　看護実践学会学術集会　査読担当

石川倫子：石川県看護協会認定看護管理者教育課程運営委員

石川倫子：在宅支援研修　講師「入院する患者の在宅療養移行支援」，石川県看護研修センター，2018.6.11

石川倫子：認定看護管理者教育課程セカンドレベル　講師，石川県看護研修センター，2018.8.2

石川倫子：中国四国グループ看護教員研修会　講師「学校経営とマネジメント」，国立病院機構中国四国グループ，2018.8.14

石川倫子：教務主任養成講習会講師（看護学教育評価），東京慈恵医科大学，2018.9

石川倫子：看護管理者会議　講師「新病院建設に向けての看護部における組織運営と人材育成について」，二ツ屋病院，2018.10.29

石川倫子：石川県看護協会能登北部地区研修講師「仕事経験を振り返り、これからの働き方を創造する」，輪島市，2019.3.21

石川倫子：厚生労働省看護教員養成事業　看護教員養成ｅラーニング講師「看護学教育評価」，2018.3～2019.3

磯光江：河北中央病院　看護研究指導・講評，河北中央病院，2018.5～2018.12.20

磯光江，中道淳子，渡辺達也，川島和代：高齢者ケア研究・事例検討会，石川県立看護大学，2018.7～2019.3

磯光江：石川腎不全看護研究会　世話人，2018.11～

市丸徹：病理学　非常勤講師，金城大学，2018.10～2019.2

市丸徹：いまさら聞けない生理学の基礎，しいのき迎賓館・大学コンソーシアム石川，2018.4～2018.6

市丸徹：認知症基礎病態論，石川県立看護大学・看護キャリア支援センター，2018.7.11，7.17，7.25

市丸徹：能登・祭りの環，矢波諏訪祭引率，2018.8.15-16

今井美和：日本病理学会学術評議員

今井美和：石川県立看護大学　衛生委員会　衛生管理者
今井美和：2018年春 LOVE49 全国街頭予防･啓発アクション『子宮頸がんを予防する日』集中キャンペーン，金沢駅東もてなしドーム，2018.4.8
大江真吾：看護研究指導，国立病院機構　金沢医療センター，2018.4～2018.12
大江真吾：あおカフェ，かほく市障害者相談支援センター，2018.11～2019.3
大江真吾,生野圭,長山豊：看護研究指導，日本精神科看護協会石川県支部，2018.4～2019.3
大木秀一：日本公衆衛生学会　査読委員
大木秀一：日本小児保健学会　査読委員
大木秀一：日本民族衛生学会　査読委員・評議員
大木秀一：日本双生児研究学会　幹事　事務局
大木秀一：The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, Reviewer
大木秀一：Journal of Epidemiology, Reviewer
大木秀一：日本衛生学会　双生児医学連携研究会　世話人
大木秀一：日本看護科学学会　和文誌統計担当査読委員
大木秀一：NPO法人　日本多胎支援協会　理事
大木秀一：NPO法人　いしかわ多胎ネット　副理事
大木秀一：東京大学教育学部附属中等教育学校　双生児特別検査委員
織田初江：津幡町健康作り推進協議会　委員，津幡町　町民福祉部，2018.4～2019.3
織田初江，山﨑智可，金子紀子：宝達志水町限界集落支援活動，宝達志水町走入集会所，2018.6.23
桶作梢，米田昌代,曽山小織,河合美佳：ペリネイタル･グリーフケア検討会，石川県立中央病院，2019.2.17
桶作梢：母乳育児支援を学ぶ北陸教室　企画・実行委員，金沢大学十全講堂，2018.5.20
垣花渉：日本体力医学会　学会評議員
垣花渉：石川県大学健康教育研究会　委員
垣花渉：かほく市観光物産協会　理事
垣花渉：初年次教育実践交流会 in 北陸　実行委員長
垣花渉：シンポジウムコーディネーター　平成30年度北陸地区スポーツ推進委員研修会　，鶴来総合文化会館クレイン，2018. 6
垣花渉：講義　石川県地域スポーツ指導者養成講習会「中高齢者の体力とスポーツ指導」，いしかわ総合スポーツセンター，2018.6
垣花渉：シティーカレッジ授業「石川の市町、かほく市」 授業コーディネーター，石川県政記念しいのき迎賓館，2018.7
垣花渉：講義　かほく市立高松小学校6年生「食育授業」，体育館ミーティングルーム，2018.11
垣花渉：招待講演　平成30年度中能登地区スポーツ推進委員会合同研修会 「3Sエクササイズ、なぜ大切か」，宝達志水町総合体育館，2018. 7
垣花渉：「ワクワク健康サークル」活動，看護大学，2018.4～2019.3
垣花渉：棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり，津幡町興津地区，2018.4～2019.3
垣花渉：「健康講座」，津幡町刈安地区公民館，2019.2
垣花渉：「健康カフェ」事業，津幡町中条地区公民館，2017.8～2019.3

加藤穣：Reviewer, The Social Science Journal
加藤穣：丸善出版『生命倫理百科事典（第２版)』翻訳刊行　編集委員
加藤穣：第8回日仏国際生命倫理会議　大会長
加藤穣：全国看護英語教育学会　プログラム委員長
加藤穣：生命科学と倫理（S)，立命館大学産業社会学部，2018.9.26-2019.3.31
加藤穣：生命科学と倫理（L)，立命館大学文学部，2018.9.26-2019.3.31
金谷雅代：「小児保健コンサルテーション」講義，石川県立保育専門学園，2018.4～8
金谷雅代：看護研究指導・講評，浅ノ川総合病院，2018.5.19，6.16，10.6，12.22
金谷雅代：第15回医療的ケア研修セミナー講師，金沢商工会議所会館ホール，2018.11.4
金谷雅代：かほく市いきいきシニア活動推進事業「生涯現役」フォーラム2018　講師，かほく市七塚健康福祉センター１階　多目的ホール，2018.11.27
金谷雅代，山﨑智可，今方裕子，濱鍛冶青水：臨床で行うリンパ浮腫のケアーアドバンス編ー，石川県立看護大学，2018.9.8
金子紀子：かほく市介護認定審査会委員
金子紀子：第39回日本看護科学学会学術集会企画委員
金子紀子：か歩く健康ウォーキング事業　健康レッスン講師，イオンモールかほく，2018.7.27
金子紀子：JICA青年研修　講師，2018.11.30
金子紀子：看護研究指導・講評，珠洲市総合病院，2018.6～2018.3.2
金子紀子,山﨑智可：地域ケア総合センター人材育成事業「新しい包括ケア時代のまちづくり」企画運営，ガーデンホテル金沢，2018.9.21
亀田幸枝：平成30年度　第74回日本助産師学会　ポスター発表　座長，石川県文教会館，2018.5.26
亀田幸枝：第29回～第32回　金沢がん哲学外来，金沢がん哲学外来事務局，2018.6.3、9.30、11.24、2019.2.24
亀田幸枝：がん哲学外来市民学会　第７回大会「明日の光りをみつけて」，富山県民会館，2018.7.8
亀田幸枝：第39回日本看護科学学会学術集会　企画委員，2018.6.1～
川島和代：大学コンソーシアム石川「グローカル人材育成・共創インターンシップ専門部会」委員
川島和代：かほく市地域ケア推進会議　委員
川島和代：石川県後期高齢者医療懇話会　副座長
川島和代：石川県介護保険審査会　委員
川島和代：看護科学研究学会 理事
川島和代：看護実践学会　理事・査読委員
川島和代：日本看護科学学会　代議員
川島和代：日本未病システム学会　評議員・査読委員
川島和代：日本老年看護学会　評議員・査読委員
川島和代：日本看護研究学会　評議員
川島和代：日本ルーラルナーシング学会　評議員
川島和代：日本看護研究学会近畿・北陸地方会世話人

川島和代： 社会福祉法人「清湖の杜」理事
川島和代： NPOまちかど倶楽部たかまつ　理事
川島和代： 石川県介護支援専門員協会　河北支部　運営支援
川島和代： 公益財団法人 金沢心の電話　総会　基調講演講師「認知症になっても暮らしやすい社会とは・・・あなたの心の声に耳を傾けたい」，石川県社会福祉センター，2018.4
川島和代： 院内研修講師「看護過程展開能力を高める１」，春日井市民病院，2018.5
川島和代： 院内研修講師「看護過程展開能力を高める２」，春日井市民病院，2018.11
川島和代： 日本老年看護学会第23回学術集会　一般演題ポスター発表　座長，久留米シティプラザ，2018.6
川島和代： JICA日系研修講師「老年期の理解」，石川県立看護大学演習室１，2018.7
川島和代他： 平成30年度喀痰吸引等研修事業　指導者フォローアップ研修，石川県立看護大学基礎看護学実習室，2018.8
川島和代: 第12回看護実践学会　実行委員、ランチョンセミナー座長，石川県地場産業センター，2018.9
川島和代： 石川県立盲学校介護実習講師，石川県立看護大学スキルラボ，2018.9
川島和代，竹田昌代： かほく市における介護従事者研修　講師，石川県立看護大学成人老年看護学実習室，2018.9
川島和代： 内灘町はまなす大学　講師 「人生の最終段階を自分らしく生きるために考えておきたいこと」，内灘町文化会館，2018.9
川島和代： 平成30年度ファーストステップ研修講師 「介護職員のストレス対策」，石川県社会福祉会館別館，2018.11
川島和代： 第38回日本看護科学学会　一般演題座長，ひめぎんホール，2018.12
川島和代： 石川県における喀痰吸引等研修事業　全体コーデイネーター前期，石川県立看護大学地域ケア総合センター研修室，2018.5 ～ 7
川島和代： 石川県における喀痰吸引等研修事業　全体コーデイネーター後期，七尾サンライフプラザ，2018.9 ～ 11
川島和代他： 平成30年度看護キャリア支援センター　認知症看護認定看護師教育課程講師「認知症者へのコミュニケーション」，石川県立看護大学小講義室，2018.8
川島和代： ジェネラリストのための事例検討　運営並びにチューター，地域ケア総合センター研修室，2018.7,11
川村みどり： 看護実践学会誌査読委員
川村みどり： 看護研究指導，石川県立高松病院，2018.6 ～ 2019.3
川村みどり： 第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員,2019.3 ～
北山幸枝： 日本褥瘡学会　評議員
北山幸枝： 2018年度初年次教育学会実践交流会　企画・実行委員
北山幸枝，村井嘉子，今井美和，川村みどり，中道淳子，曽山小織，寺井梨恵子，南堀直之： 実践報告 3 大学生としての学び入門～情報リテラシー教育を通して～，しいのき迎賓館（金沢市），2018.5.26
木森佳子： かほく市ケーブルテレビ放送番組審議会委員
木森佳子： 看護理工学会査読委員

木森佳子： 大学コンソーシアム情報発信専門部会委員
木森佳子： 看護研究指導・講評，公立能登総合病院，2018.6，2019.2
木森佳子： 石川看護協会実習指導者講習会講師「論文の書き方」,石川県看護協会，2018. 6
木森佳子： 石川看護協会訪問看護研修ステップ１講師 「フィジカルアセスメント」，石川県看護協会，2018.7
木森佳子： 認定看護管理者教育課程サードレベル講師「アカデミックリテラシー」，石川県立看護大学研修室，2018.10
小林宏光： 日本生理人類学会理事
小林宏光： Journal Physiological Anthropology. Associate editor
小林宏光： 千葉大学健康環境フィールド科学センター倫理審査委員会外部委員
小林宏光： Journal Physiological Anthropology. Reviewer
小林宏光： 日本生理人類学会誌　査読担当
小林宏光： Int J Environmental research and Public Health 査読
小林宏光：「人間工学」講義，高岡看護専門学校，2018.4-9
小林宏光： 認定看護管理者教育課程（サードレベル）保健医療福祉組織論「組織デザイン　療養環境のデザイン」 講義，石川県立看護大学，2018.10
小林宏光：「睡眠とサーディアンリズム」講義，名古屋大学・大幸キャンパス，2018.7
小林宏光： シンポジウム講演「人間工学・生理人類学の現在・過去・未来」，学士会館，2019.3
桜井志保美：「国際看護」講義（シティカレッジ），しいのき迎賓館、四高記念館，2018.9.29～11.24
桜井志保美：「熱中症対策」健康講話，石川県立看護大学，2018.8.17
三部倫子： 石川県立看護大学『石川看護雑誌』査読委員
三部倫子： 関東社会学会『年報社会学論集』第32号査読委員
三部倫子:「子どもからのカミングアウト――親子関係からLGBTを学ぶ」,白山市民交流センター，2018.8
三部倫子:「性的マイノリティ（LGBT）の人々のニーズに応じたケアと学校教育」サポートスタッフ，石川県地場産業振興センター本館，2018.8
三部倫子： 第2回LGBTと教育フォーラムin 金沢――SDGs「誰も置き去りにしない」から考える、地域コミュニティにできること」運営スタッフ，石川県政記念しいのき迎賓館，2018.12
三部倫子： 女子大学で研究者になった私のとある調査経験「女性研究者フォーラム――女性社会学者として『女性』の研究をするということ」，金沢大学角間キャンパス，2019.2
三部倫子： 思い込みに気づき良き支援者になるためには――性の多様性を踏まえた相談業務に向けて，白山市役所，2019.3
清水暢子： 羽咋市国民健康保険運営協議会委員
清水暢子： 地域包括支援センター主催　生活・介護支援サポーター養成講座（8期生）講師
清水暢子： 長野県佐久群御代田町地域包括支援センター主催　介護支援教室講師（招待講演）
清水暢子： 永平寺町まちづくり講演会（招待講演）
清水暢子： 羽咋市社会福祉協議会　介護者交流サロン「疑似体験を通して認知症を理解しよう」講師，石川県羽咋市社会福祉協議会，2018.7.13
清水暢子,日本ALS協会福井支部: 日本ALS協会福井支部総会＆講演会･事務局,敦賀市立看護大学,

2018.6.27

清水暢子，山﨑智可： 農副連携いしかわ型ヒツジ飼育体験教室，日本海倶楽部（能登町），2018.9.11，9.18

清水暢子： 公立宇出津病院　看護研究指導「外来」「4階病棟」「5階病棟」，公立宇出津病院，2018.4-

瀬戸清華： 石川県難病拠点病院打合せの会　助言者

曽根志穂： かほく市介護保険認定審査会委員

曽根志穂： 宝達志水町在宅医療・介護連携推進協議会委員

曽根志穂： かほく市地域包括支援センター運営協議会委員

曽根志穂： かほく市自殺対策計画策定委員会副委員長

曽根志穂： 看護研究指導・講評，町立宝達志水病院，2018.6 ～ 2018.10

曽根志穂： 薬物乱用防止教室，かほく市立大海小学校，2018.11

武山雅志,曽根志穂,金谷雅代： 災害につよい街づくりフォーラム，石川県立看護大学，2018.11

曽根志穂：「看護の統合と実践Ⅰ（看護研究）」講義，金沢医療技術専門学校，2018.8-2018.9

曽根志穂： 防災研修「災害時の健康管理について」，かほく市内日角区公民館，2018.11

曽根志穂： 防災訓練「健康からみた災害への備え」，かほく市七窪公民館，2019.2

曽根志穂： 北國健康生きがい支援事業2018年度石川県立看護大学プログラム「私たちが考える今後の防災のあり方-被災地と地元防災訓練で学んだたくさんのこと-」パネリスト，北國会館，2018.9

曽根志穂： 石川県新任保健師研修会研修担当，石川県庁，2018.11

曽根志穂： 宮城県亘理町学生ボランティア活動，宮城県亘理町，2019.3

多久和典子： 石川県立看護大学地域ケア総合センター人材育成事業「ベッドサイドで役立つ臨床推論 ー症状・フィジカルから検査までー」 講師，石川県立看護大学附属図書館，2018.9.29

多久和典子： 日本学術会議会員（第24-25期）基礎医学委員会、健康・生活委員会、広報委員会各委員

多久和典子： 自然科学研究機構生理学研究所運営会議委員

多久和典子： 日本生理学会理事・評議員・FAOPS2019拡大広報委員

多久和典子： 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科協力研究員・非常勤講師

多久和典子： 国家試験対策セミナー，石川県立看護大学，2018.8

多久和典子， 中田弘子，濵耕子，谷本千恵，田村幸恵，松本智里： 平成30年度石川県看護教育機関連絡協議会総会・意見交換会，石川県庁，2018.8.6

多久和典子： 石川県公害審査会委員

多久和典子： 第39回日本看護科学学会学術集会企画委員

武山雅志： 石川県精神保健福祉協会副会長

武山雅志： 石川県精神保健福祉協会会報編集委員

武山雅志： 石川県いじめ対応アドバイザー

武山雅志：（財）いしかわ女性基金運営委員

武山雅志：（公）金沢こころの電話相談役

武山雅志：（公）石川被害者サポートセンター副理事長

武山雅志： 金沢市保健審議会委員

武山雅志： 金沢市いじめ防止等対策委員会委員
武山雅志： 羽咋郡市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査会委員
武山雅志： 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会委員
武山雅志： 第39回日本看護科学学会学術集会企画委員
武山雅志： 日本心理臨床学会査読委員
武山雅志： 日本心理臨床学会代議員
武山雅志： 訪問看護研修ステップⅠ「基礎研修」，石川県庁行政庁舎1105会議室，2018.6.12
武山雅志： 主任介護支援専門員第１期スーパーバイザー養成研修，天然温泉デイサービス海青クラブ/かほく市七塚健康福祉センター，2018.7.8,7.29
武山雅志： 看護管理者教育課程セカンドレベル，石川県看護協会研修センター，2018.8.23
武山雅志： 能登町自殺対策人材育成研修会，能登町役場能都庁舎，2018.8.29
武山雅志： 輪島市推進員総合育成講座，輪島市門前保健センター，2018.9.4
武山雅志： 石川県警察学校教養講義，石川県警察学校，2018.9.11
武山雅志： 新人看護職員研修事業教育担当者研修会，石川県地場産業振興センター，2018.10.16
武山雅志： 公共交通事故被害者支援フォーラム講演，石川県地場産業振興センター，2018.11.14
谷本千恵： かほく市自立支援協議会　運営委員、会長
谷本千恵： 社会福祉法人　のぞみ　理事
谷本千恵： 大学コンソーシアム石川　出張オープンキャンパス　講義「心の健康について」，金沢伏見高校，2018.9.18
田村幸恵： 看護研究指導・講評，JCHO 金沢病院，2018.5.24,6.28,10.19,2.8
塚田久恵： 日本公衆衛生看護学会査読委員
塚田久恵： 北陸公衆衛生学会査読委員
塚田久恵： かほく市健康づくり推進協議会委員（会長）
塚田久恵： 小松市健康づくり推進協議会委員
塚田久恵： 第39回日本看護科学学会学術集会企画委員
塚田久恵，石垣和子，阿部智恵子，曽根志穂，金子紀子，： 平成30年度新任保健師研修会(集合研修２）講師，石川県庁，2018.11.13 ～ 14
塚田久恵，石垣和子： 平成30年度新任保健師研修会（集合研修3）講師，石川県庁，2019.2.26
塚田久恵，石垣和子： 平成30年度新任保健師研修会（集合研修3）講師，石川県能登中部保健福祉センター，2019.2.28
塚田久恵： 保健師人材育成に関する研修会講師，石川県能登中部保健福祉センター，2019.2.1
竹田昌代，塚田久恵： 新任保健師卒後スキルアップ研修会―保健指導のホーアドバイザー，石川県立看護大学，2019.8.10,8.24,9.7
塚田久恵： 平成30年度百歳体操自主運動グループ代表者意見交換会講師，かほく市役所，2018.8.28
塚田久恵： 平成30年度「食育ポスターコンクール」選考結果並びに表彰式祝辞，かほく市宇ノ気保健福祉センター，2018.12.20
塚田久恵： かほく市食育推進計画に係る提言（かほく市健康づくり推進協議会会長より市長への提言），かほく市役所市長室，2019.2.8
塚田久恵： JICA青年研修地域保健医療実施管理コース講師，石川県立看護大学，2018.11.30

塚田久恵： イオンモールウォーキング事業　モール・健康レッスン講師，かほくイオンモール，2018.7.27

武山雅志，垣花渉，長谷川昇，川島和代，塚田久恵，中田弘子，金子紀子，渡辺達也：イオンモールウォーキング事業　健康チェック，かほくイオンモールかほく市ほのぼの健康館，2018. 8，2019.3

塚田久恵，曽根志穂，金子紀子，石垣和子： 高齢者と看護学生との交流事業企画・実施，石川県立看護大学，かほく市内住民宅，2018.5.21,11.7

塚田久恵：「フィンランドのネウボラの現状と子育て支援について」講義，石川県立看護大学，2019.3.6

中田弘子： 公益社団法人日本看護科学学会社会貢献委員

中田弘子： 第39回日本看護科学学会学術集会企画委員

中田弘子： かほく市食育推進検討会委員

中田弘子： 公益社団法人大学コンソーシアム教務学生専門部会委員

中田弘子： かほく市食育推進委員

中田弘子： 第3次かほく市食育推進計画検討会，ほのぼの健康館，2018.9.25,10.19,11.16

中田弘子： 平成30年度公益社団法人大学コンソーシアム石川運営委員会，石川県政記念しいのき迎賓館，2018.5.24

中田弘子： 石川県看護教育連絡協議会意見交換会，石川県庁，2018.8.6

中田弘子： 石川県腎不全看護研究会　事例検討　講師，独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院，2018.6.10

中田弘子： 金沢学習会　事例検討　チューター，独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院，2018.6.16,2019.2.2

中田弘子： 第38回日本看護科学学会学術集会市民フォーラム，松山市　ひめぎんホール，2018.12.1

中田弘子： 地域ケア総合センター事業　いしかわ学習会　ジェネラリストのための事例検討　チューター，石川県立看護大学，2018.7.22,12.1

中田弘子： かほく市イオンモール健康教室 ，ほのぼの健康館，2018.8.20

中田弘子： 公立羽咋病院看護部研修 講師，公立羽咋病院，2018.10.30,2019.3.19

中道淳子： 日本認知症予防学会　評議委員

中道淳子： 宝達志水町　介護認定審査委員

中道淳子： 石川県介護支援専門員実務研修企画委員

中道淳子： JICA日系研修　コーディネーター・講師，石川県立看護大学，2018.6 ～ 7

中道淳子： JICA青年研修　講師，石川県立看護大学，2018.11 ～ 12

中道淳子：「認知症認定看護師教育課程」講義，石川県立看護大学，2018.9

中道淳子： 津幡町介護予防メイト養成講座「高齢者の身体的特徴」講師，津幡町役場，2018.7.27

中道淳子： 津幡町介護予防メイト養成講座「回想法」講師，津幡町役場，2018.9.11

中道淳子： ケアマネ実務研修「ケアマネジメントの展開／内臓の機能不全に関する事例」講師・ファシリテーター，地場産業センター，2019.2.20

中道淳子，渡辺達也： 回想法とフルートの調べ，すろーらいふ四十万，2019.2.21

中道淳子： かほく市認知症サポーターフォローアップ研修・講師，かほく市役所，2019.2.26
西村真実子： 日本小児保健学会 代議員
西村真実子： 石川県小児保健協会 役員
西村真実子： 日本小児看護学会誌 査読委員
西村真実子： 日本看護科学学会和文誌 査読委員
西村真実子： 看護実践学会 理事
西村真実子： 科学研究費委員会専門委員
西村真実子： 石川県要保護児童対策協議会専門家チーム 委員
西村真実子： 石川県奨学生選考審査会 委員
西村真実子： 親子交流授業プログラム検討委員(公益財団法人いしかわ子育て支援財団)
西村真実子： かほく市子ども・子育て会議 委員・会長
西村真実子： 北陸小児糖尿病サマーキャンプ運営委員会 委員
西村真実子： NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク石川 理事(副代表)
西村真実子，米田昌代，金谷雅代，曽山小織，千原裕香，山田ちづる： 子育てどろっぷ・イン・さろん(全5回)，富樫教育プラザ（金沢市)，2018.6～10
西村真実子，金谷雅代，千原裕香，山田ちづる： 子育て支援・虐待予防に関する勉強会(事例検討等)，石川県立看護大学，2018.9～12
西村真実子： 平成29年度児童福祉司養成研修「児童虐待援助論」講師，石川県庁行政庁舎，2018.8
西村真実子，米田昌代： 乳児の母親対象の「Nobody's Perfect完璧な親なんかいない(NP)」親支援プログラム(全4回) のファシリテーター，かほく市子ども子育てセンター「おひさま」，2018.7～8
西村真実子,米田昌代:「Nobody's Perfect完璧な親なんかいない(NP)」親支援プログラム(全6回)のファシリテーター，かほく市子ども子育てセンター「おひさま」，2018.9～10
長谷川昇： 石川県食品技術者ネットワーク　幹事
長谷川昇： 第39回日本看護科学学会学術集会　企画委員
長谷川昇： Journal of Ethnopharmacology, Phytotherapy Research (Elsevier) Reviewer
長谷川昇： International Journal of Nursing & Clinical Practices (Graphy Publications), Editorial Board
長谷川昇： かほく健康ポイント事業　健康レッスン5「よい睡眠とれてますか？」，イオンモールかほく，2019.10.12
長谷川昇： 認知症認定看護師教育課程講師「臨床薬理学」，石川県立看護大学，2018.7.12，7.17
長谷川昇： JICA青年研修講師「医薬分業と薬剤師の役割」，石川県立看護大学，2018.12.30
長谷川昇： 来人来人里創りプロジェクト事業，能登町、かほく市，2018.4～2019.3
長谷川昇： 出張講義「メタボリックシンドロームを知ろう！」，石川県立鹿西高等学校，2018.10.17
長谷川昇： 出張講義「食生活と健康」，石川県立輪島高等学校，2018.10.18
長谷川昇： 進学相談会，金沢駅もてなしドーム，2018.9.12
長谷川昇： 愛知医療学院短期大学　講師（病態運動生理学)，愛地医療学院短期大学，2018.7.32
長谷川昇： 聖泉大学　講師　(臨床栄養学)，聖泉大学，2018.12.8,12.15,12.22

長谷川昇： 金城大学　講師　（健康科学、生理学ⅠⅡ），金城大学，2018.4 ～ 2019.1
長谷川昇，西本壮吾，市丸徹： 生理学実習　非常勤講師，金城大学，2018.10 ～ 2019.2
濵耕子： 日本看護学教育学会　機関誌「日本看護学教育学会誌」専任査読者
濵耕子： 日本公衆衛生学会認定専門家
濵耕子： 第74回日本助産師学会　ポスター発表【活動報告】第Ⅲ群　座長
濵耕子： 第39回日本看護科学学会学術集会企画委員，2018.6.1 ～
東浩司，新保健斗，前田健太郎，濵耕子： 石川県「次代を担う大学生向けライフプラン・キャリアデザイン事業」ライフプラン・キャリアデザインセミナー～次代を担うみなさんへ～「『イクメン』といわれる新しい時代の男の生き方」開催：東浩司氏講演，石川県立看護大学，2018.11.7
林一美： 日本災害看護学会査読委員
林一美： 津幡町介護認定審査会委員
林一美： かほく市地域密着型サービス運営協議会委員長
林一美： 高松訪問看護ステーション運営委員
林一美： 石川県国民県境保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会委員
林一美： 石川県防災会議震災対策専門委員
林一美： かほく市介護保険運営協議会委員
林一美： JANS学術集会企画デザイン委員
林一美： 平成29年介護職員等による喀痰吸引等の実施のための研修，石川県立看護大学，2018.6.23
林一美： 能登の在宅看護現場で活かせるフィジカルアセスメント，能登空港，2018.9.5
林静子: イクメン推進事業　親子ふれあい遊び、ボランティア活動支援，七塚健康福祉センター，2018.6.24
林静子： かほく市イクメンプロジェクト2018　PAPATOフェスティバル、ボランティア活動支援，イオンモールかほく，2018.10.14
林静子： かほく市ボランティア交流広場　学生発表引率，七塚健康福祉センター，2018.12.2
林静子： 出張オープンキャンパス　模擬授業講師，富山県立上市高等学校，2018.12.6
林静子： 出張オープンキャンパス　模擬授業講師，富山県立高岡南高等学校，2019.1.29
林静子： 日本生理人類学会　査読委員
牧野智恵： 日本がん看護学会誌投稿論文査読委員
牧野智恵： 日本がん看護学会代議員
牧野智恵： 日本看護科学学会代議員
牧野智恵： 第24回石川緩和医療研究会世話人
牧野智恵： 日本IPR研究会幹部・運営委員
牧野智恵： 第6回ロゴセラピー講演会　講師「病の中で生きる意味を呼び覚ます関わりーロゴセラピーを手がかりにー」，ほっぷの森（仙台市），2018.5.19
牧野智恵： 第1回「医療現象学」研究会・北陸編　講演「がん告知の現象学的研究」，金沢勤労者プラザ，2018.5.27
牧野智恵：「がん患者の心のケア」講師，金沢大学付属病院，2018.7.28
牧野智恵，瀧澤理穂： 医療現場での対人関係を考えようー他者との違いを知りケアするとはー

企画・講師，石川県立看護大学，2018.7.29

牧野智恵：「考えよう！臨床現場の倫理」（中堅看護職編）講師，石川県地場産業振興センター，2018.8.11

牧野智恵： 第7回「人間関係学」学習会　講師 「ケアの本質」から、他者の自己実現を助ける関係性を考える，TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター，2018.8.18

牧野智恵: メンタルケア･スペシャリスト養成講座 「ターミナルケア」講師，金沢勤労者プラザ，2018.8.25

牧野智恵： 公開講座「がんゲノム医療を理解し現場に活かそう」「ゲノム医療における遺伝子カウンセリングと看護」座長，石川県立看護大学，2018.9.29

牧野智恵：「考えよう！臨床現場の倫理」（新人看護職編）講師，石川県地場産業振興センター，2018.10.8

牧野智恵，瀧澤理穂： オルゴール療法で体も心もリフレッシュ，ハーブの森・響きの森ミントレイノ，2018.10.29

牧野智恵： 人生最終段階の生をどう支えるかー人生からの治療の意味を考えるー　座長・コメンテーター，ホテル金沢，2019.3.2

牧野智恵： がんライフケアステージ事例検討会（8回/年）コーディネーター，テレビ会議，

牧野智恵： 海外FD研究報告会，テレビ会議，2018.5

牧野智恵： FD研修「CNS関係者によるがん看護事例検討会」コメンテーター，石川県立看護大学，2018.7.13　2018.9.10

松本智里： 公立能登総合病院　研究指導・講評

松本智里： 日本運動器看護学会認定運動器看護師育成講座　コースⅣ実践事例報告　評価委員

松本智里： 第39回日本看護科学学会学術集会企画委員

丸岡直子： 石川県看護協会認定看護管理者教育制度運営委員

丸岡直子： 日本看護学教育学会　専任査読委員

丸岡直子： 日本看護研究学会　評議員・査読委員

丸岡直子： 日本老年看護学会　代議員・査読委員　査読担当

丸岡直子： 日本看護管理学会　評議員

丸岡直子： 日本看護科学学会　代議員

丸岡直子： 第39回日本看護科学学会学術集会　企画委員

丸岡直子： 看護実践学会　専任査読委員

丸岡直子： 石川県認知症医療体制推進委員会　委員

丸岡直子： 石川県医療計画推進委員会在宅療養対策部会　委員

丸岡直子： 石川県立中央病院地域医療支援委員会　委員

丸岡直子： かほく市創生総合戦略推進計画策定に係る外部評価委員会　委員長

丸岡直子： かほく市空家等対策審議会　会長

丸岡直子： 日本看護学校協議会共済会　代議員

丸岡直子： 富山県厚生連研修会　講師「地域包括ケアシステム構築における看護管理者の役割」，富山県厚生連高岡病院，2018.5.26

丸岡直子： 認知症看護認定看護師教育課程　講師（医療安全学：看護管理），石川県立看護大学，2018.7.6，7.24，7.26

丸岡直子： 金沢医科大学大学院看護学研究科　非常勤講師（看護管理特論），金沢医科大学，2018.8.20

丸岡直子： 石川県看護協会認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程　講師（クオリティマネジメント），石川県看護研修センター，2018.8.16

丸岡直子： シンポジウム「在宅療養生活をデザインする」 コーディネーター，石川県地場産業振興センター，2018.9.1

丸岡直子： 金沢大学大学院医薬保健学　講師（看護管理特論），金沢大学つるまキャンパス，2018.12.20

丸岡直子： 認定看護管理者教育課程サードレベル講師（看護経営者論），石川県立看護大学，2018.11.27

村井嘉子： 日本救急看護学会評議委員

村井嘉子： 日本救急看護学会査読員

村井嘉子： 日本クリティカルケア看護学会査読員

村井嘉子： 日本循環器看護学会評議委員

村井嘉子： 看護研究指導・講評，能美市立病院　2018.7.21，10.13，3.2

村井嘉子： 杏林大学大学院　看護教育特論講義　2018.6.1

村井嘉子： 杏林大学大学院　博士課程論文審査学外審査委員　2018.12.14

山﨑智可： かほく市介護認定審査委員

山﨑智可，磯光江，濱鍛冶青水： 北信がんプロ　超少子高齢化地域での先進的医療人養成
平成30年度事業報告書，石川県立看護大学，2018.4 ～ 2019.3

山﨑智可： 精神認定看護師の会，金沢大学，公立小松大学，石川県立看護大学，2018.4.14,7.21,9.22,12.1,2019.1.26

米田昌代： 第74回日本助産学会，実行委員，ポスター発表座長，石川県文教会館，2018.5.25，26

米田昌代： 公益社団法人石川県看護協会主催　平成27年度石川県実習指導者講習会講師　母性看護学　2018.7.2，7.3

米田昌代： 第12回看護実践学会学術集会　研究発表　講評　2018.9.1

新田妃佐子,米田昌代： 金沢市港中学校　平成30年度石川県看護協会　助産師が行ういのちの出前授業　2018.12.7

米田昌代： 石川県看護協会　助産師職能委員

米田昌代： 日本看護研究学会　査読委員

米田昌代： 第12回看護実践学会学術集会　運営委員

米田昌代，曽山小織，桶作梢，河合美佳：ペリネイタル･グリーフケア検討会，石川県立中央病院，2018.7.22，2019.2.17

米田昌代： あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動，石川県立看護大学，通年

米田昌代： 浅野町校下女性会講演会　大切な存在を失ったときの哀しみとのつきあい方　～哀しみを打ち明けやすい社会を目指して～，浅野町公民館，2018.8.20

米田昌代： SIDS家族の会　医学アドバイザー

米田昌代： NPO法人ワークライフバランス北陸　副理事長

米田昌代：第13回東アジアグリーフの集い　実行委員長
米田昌代：第1回流産・死産ケア研究会　実行委員

6.6　その他（受賞等）

加藤穣：その他，Arizon State University TESOL program（英語教授法）修了，2019.1
三部倫子：テレビ出演，白山市男女共同参画センターでの講演の様子がMRO放送で放映，2018.8
三部倫子：新聞掲載，白山市男女共同参画センターでの講演が「性の多様性　理解を」として『毎日新聞』掲載，2018.8
三部倫子：日本社会学会奨励著書賞　受賞，三部倫子『カムアウトする親子――同性愛と家族の社会学』御茶ノ水書房（2014年6月），2018.9
寺井梨恵子：学位論文，石川県立看護大学　博士学位論文　転倒リスク場面における看護師の臨床判断と眼球運動との関連，2019.3

6.7　研究助成金

6.7.1　科学研究費助成事業（日本学術振興会）

6.7.1.1　科学研究費補助金

1.　本学教員が研究代表者のもの

浅見洋，林晋，森雅秀，上原麻有子，秋富克哉，美濃部仁：　西田幾多郎のノート類資料の研究資料化と哲学形成過程の研究，H29～H32，科学研究費補助金基盤研究（B）
大木秀一，彦聖美：　双生児家系世代間データによるライフコース疫学モデルでの不妊治療の長期影響の検証，H27～H30，科学研究費補助金基盤研究（B）
三部倫子：　医療機関における家族―性的指向と性自認を軸とする患者・看護師の相互行為，H29～H30，科学研究費補助金研究活動スタート支援

2.　他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

該当なし

6.7.1.2　学術研究助成基金助成金

1.　本学教員が研究代表者のもの

石垣和子，大湾明美，宮崎美砂子，塚田久恵，曽根志穂，金子紀子，米澤洋美，他2名：住民の社会文化的背景に基づく保健師による個別支援方法の開発，H29～H31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

大江真吾：　ASD患者の語りから検討する看護師のケアに関する研究，H29～H30，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

大西陽子：　浅い鎮静深度で管理中の人工呼吸器装着患者の同意的行為を引き出すアプローチの解明，H30～H32，学術研究助成基金助成金若手研究

加藤穣，：　医療における良心的拒否を通じた権利擁護の射程と限界に関する日米比較調査，H29～H31，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

木森佳子，丸岡直子，中山和也：　目視困難な末梢深層静脈可視化近赤外光反射システムの改良と臨床応用，H29～H32，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

桜井志保美：　小児訪問看護における医療的ケアが必要な乳幼児の育児支援ハンドブック作成，H30～H32，学術研究助成基金助成金若手研究

清水暢子，梅村朋弘，松永昌宏，望月美也子，長谷川昇，加藤真弓，山田恭子：「認知症者の少ないタイ北部に学ぶ認知症予防対策」～脳血流量と生活習慣の関係を基に～，H29～H32，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

多久和典子：　マクロファージ機能極性を制御するスフィンゴ脂質シグナリング，H29～H31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

中田弘子，田淵知世，田村幸恵，林静子：　高齢者への懐古的で嗜好性のある音楽聴取が脳活動に及ぼす影響，H29～H31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

中道淳子，磯光江：　ストレス軽減及び認知機能の維持向上を意図した笑いヨガプログラムの開発，H27～H30，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

西村真実子，金谷雅代，千原裕香，米田昌代，曽山小織：　子どもの虐待予防の段階的支援システムの研究：虐待リスクをもつ乳児の母が集う場の評価，H27～H30，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

子吉知恵美，田村須賀子：　地域特性や保護者の受容状況に応じた発達障害児の早期療育に向けた保健師による支援，H29年～H31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

長谷川昇，山田恭子，清水暢子，久米真代，望月美也子，加藤真弓：　高齢者サロンを利用したプレフレイル状態の可塑性の検討，H30～H32，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

林一美，山﨑智可：　地域包括ケアシステムにおける診療所看護のプライマリケアに関する質指標の開発，H28～H30，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

林静子：　眼球運動計測を用いた看護師の観察時における非注意による見落とし現象の解明，H30～H32，学術研究助成基金助成金若手研究

松本智里：　女性人工股関節全置換術患者の歩容の自己評価と心理社会的側面の相互の影響，H27～H30，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

牧野智恵，長谷川昇：　外来化学療法における患者への暴露防止対策に関する研究，H28～H30，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

丸岡直子，林一美，武山雅志，石川倫子，林静子，田村幸恵，田淵知世，吉田千文，樋口キエ子：外来-病棟一元化による看護師の患者・家族包括的在宅移行支援力育成プログラムの開発，H26～H30，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

丸岡直子，林一美，武山雅志，石川倫子，林静子，田村幸恵，田淵知世，吉田千文，樋口キエ子：当事者視点と当事者との対話を基盤とする在宅療養移行支援システムの開発，H30～H32，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

2.　他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

伊藤隆子，吉田千文，石垣和子，辻村真由子，他3名：　在宅療養の場における倫理的ビリーフの解明とケアマネジメント能力育成プログラム開発，H27～H30，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

辻村真由子，石垣和子：　訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針の開発，H28～H30，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

大湾明美，野口美和子，石垣和子，田場由紀，山口初代，佐久川政吉，砂川ゆかり：　地域の生活文化を基盤にした高齢者ケアの創出のプロセス評価，H29～31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

伊藤隆子，雨宮有子，石垣和子，吉田千文，島村敦子：　在宅療養の場における倫理的課題への対処方法の解明と支援プログラムの開発，H30～H32，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

阿川啓子，金子紀子，石垣和子：　地域で暮らす子どもの母親支援；先天性心疾患を持つ子どもへの看護連携の構築，H29～H31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

橋本智江，川島和代，平松知子：　介護老人福祉施設における援助者の負担軽減に向けた入浴ケア体制の開発，H29～H31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

河野由美子，桜井志保美，小泉由美：　介護職の虐待予防を目指したストレス緩和を図るストレッチプログラムの開発，H29～H31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

望月美也子，長谷川昇：　脂溶性ビタミンと運動に着目したアンドロゲン低下に伴う肥満とうつ状態の改善，H28～H30，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

永谷幸子，林久恵，尾方寿好，林静子，上坂真弓：　入院する高齢者の認知機能低下を予防するための看護介入－足関節運動を用いて－，H30～H33，学術研究助成基金助成基盤研究（C）

6.7.2　学内研究助成費

本学専任教員が行う「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を発展させることを目的とする

市丸徹：　重点課題「少子高齢化に伴う課題」生殖機能の中枢制御機構の解明に関する研究

金谷雅代，西村真実子，千原裕香，山田ちづる：　石川県における在宅育児家庭『通園保育』利用の子どもへの効果評価方法の検討

清水暢子，梅村朋弘，松永昌宏，望月美也子，長谷川昇，加藤真弓，山田恭子，中村こと美，廣瀬美香，Hunsa Sethabouppha，Chalinee Suvanayos：　こころ豊かな社会に学ぶ認知症予防対策～タイ北部と日本の農村部との国際比較研究～

瀬戸清華，丸岡直子：　在宅ALS療養者が意思疎通を図り続けるためにとった訪問看護師と訪問セラピストによる支援の実態

曽根志穂，武山雅志，金谷雅代，石垣和子：　地域住民の防災意識に関する研究

曽山小織，濵耕子，亀田幸枝，米田昌代，桶作梢，河合美佳：　葉酸摂取に関する妊婦と助産師の認識の研究

瀧澤理穂，牧野智恵：　がん体験者が病名を周囲に伝える上での悩み

多久和典子，石丸和宏，安藝翔，吉岡和晃：　心血管疾患におけるスフィンゴ脂質代謝酵素スフィンゴシン・キナーゼの病態生理学的役割の研究

田村幸恵，木森佳子：　看護師によるポケットエコーを使用した心不全患者の体内水分量評価の実現可能性

千原裕香，西村真実子，金谷雅代，山田ちづる，寺井孝弘，成田みぎわ，伊達岡五月：　親子交流授業プログラムの効果に関連する要因の検討

子吉知恵美：　発達障害児の早期支援に向けた保護者の支援受け入れまでの保健師による支援の可視化に関する研究

長谷川昇，清水暢子，福本泰明，山田恭子，岩田美智子，望月美也子：　血清ビタミンD濃度の維持が高齢者糖尿病患者の認知機能低下予防に及ぼす影響

牧野智恵，長谷川昇，松本智里，瀧澤理穂，籔下佳子，我妻孝則，久保博子，高野智早：　化学療法を受ける乳がん患者・家族への曝露防止支援の検討

6.7.3　その他助成金等

1. 本学教員が研究代表者のもの

浅見洋：自分らしい人生の旅立ち・看取りを考える集い，H29～H31，公益財団法人　在宅助成勇美財団

垣花渉，北山幸枝，石川倫子，澤田忠幸，小椋賢治：「主体的に学ぶ力」を育てる授業法の開発，H29～H30 ，石川県立看護大学と石川県立大学との共同研究助成

垣花渉，*泉屋昂平，*橋浦理子，*堀田優，他9名：　看護大プロデュース「食育弁当」，H30，平成30年度地域課題研究ゼミナール支援事業

清水暢子，山﨑智可，浅野圭吾，石田元彦：「石川県型農福連携（石川ラム）畜産型事業の開発と評価」～農福連携いしかわ型ヒヅジ飼育事業の検討～，H30，三谷研究開発支援財団

西村真実子，千原裕香：親子交流授業効果測定尺度の信頼性・妥当性の検討，H30，公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団受託研究

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

該当なし

7. 国際交流

7.1　国際交流委員会

委 員 長：米田 昌代　准教授
委　　員：加藤准教授、木森准教授、北山准教授、清水講師、金子助教
事 務 局：宮川主任主事
活動内容：

1. 学生の夏期アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」）（7.2参照）

本学では、国際的に活躍できる人材の育成をめざし、夏期アメリカ看護研修(国際看護演習、1単位・30時間)が行われている。参加経費は学生の自費によることから、より多くの学生が参加できるように、研修プランの策定にあたっては、平成30年度も業者にプロポーザル方式でプランを提案させ、経費負担の抑制を図った。その結果、参加経費が388,000円(諸経費含む)となり、11名の学生が参加した。また、事前学習として、2015年度から研修内容に応じて日本とアメリカの保健医療制度や実情を自己学習させ、自己紹介の英会話を取り入れてきた。また、今年度はワシントン大学の招聘教授による英会話レッスンも企画し、英会話に対する準備を強化した。

今後の課題として、1.引き続き、学生が現地で積極的にコミュニケーションがはかれるよう英語力向上のための取り組みを行う。2.日本学生支援機構(JASSO)の留学生支援資金取得により、研修機会を広げていく。3.研修終了後、振り返りミーティングを定期的に実施し、ホストファミリーとの交流の継続、海外情勢の国際医療等についての学習状況、今後の海外研修・留学等の進路計画等について確認する機会をもうける等フォローアップ体制の充実をはかる。の3点が挙げられる。

2. 学生のタイ国立チェンマイ大学看護研修（7.3参照）

2016年度に文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」として、『学都いしかわ・課題解決型グローカル人材育成システムの構築』の一つ、「ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト」事業の一環として、タイ国立チェンマイ大学看護学部での研修が実施され、それをきっかけとして、今回は本学独自のプログラムとしての開催となった。この研修の目的は、政治や文化、社会経済の異なる国での保健医療システムを知り、地域における住民の暮らしや健康課題への対処方法について学ぶことにより視野を広げ、学生の将来の活動において様々な地域住民への健康づくりにアプローチできる、グローカルな人材を育成することである。このプログラムに参加することにより期待される成果としてアジア諸外国における保健医療システムを学び、わが国の少子高齢化等様々な課題に対して新たな視野で解決策を考える力が育成されることである。このプログラムはチェンマイ大学看護学部の教員と本学教員とで協議の上考案したプログラムであり、参加経費は約170,000円となり、10名の学生が参加した。

事前学習として、タイ国についてや研修内容に応じて、日本における保健・医療・福祉、感染症、訪問看護、高齢者看護、NICU看護、創傷ケア等についてグループで学習し、英語でのプレゼンテーションスライドを作成した。また、アメリカ同様、ワシントン大学の招聘教

授による英会話レッスンにも参加し、英語での自己紹介準備を行った。

今後の課題として、1.アメリカ看護研修同様、英語力向上のための取り組みを行う。2.タイの学生との交流がより一層もて、低学年でも理解しやすい内容でのプログラムの調整をはかる。3.タイ語の研修を入れるとともに、日常におけるタイ語、日本語間の通訳の充実をはかる。の3点が挙げられる。

3. 韓国看護研修、タイ看護研修の単位化

「大学間連携共同教育推進事業」をスタートアップとした韓国・タイ研修を継続開催するために、新カリキュラム導入を契機に、本学既存の「国際看護演習」30時間1単位のアメリカ看護研修と同様に、それぞれの単位を取得できるように以下のように科目立てし、シラバスを作成した。【国際看護演習Ⅰ(アメリカ看護研修)、国際看護演習Ⅱ(韓国看護研修)、国際看護演習Ⅲ(タイ看護研修)】

韓国研修が現行では7泊8日と短期であること、3月の研修であると成績判定、単位認定までのスケジュールが難しいことから、来年度はアメリカ看護研修と同時期の夏での2週間開催で調整中である。

また、韓国・タイ看護研修の単位認定は新カリキュラム対象の学生だけではなく、旧カリキュラムの2〜4年生にも適応できるように手続きを行った。グローカルヤングリーダーを取得するためにも、単位化は学生にとって研修に参加するメリットとなると考えられる。

4. JASSO(日本学生支援機構)海外留学支援制度(協定派遣)・短期研修・研究型　申請

グローカル人材育成アクションプラン作成ワーキンググループが作成したアクションプランに基づいて、来年度実施のアメリカ看護研修と韓国看護研修において、申請書を作成した。採択とはならなかったが、アメリカ看護研修においては、最上位2割のA判定であり、例年よりは追加採択の可能性が高まっている。

グローカル人材育成アクションプランを以下に示す。大学情報の公表として、ホームページに掲載している。

【グローカル人材育成アクションプラン】

1. グローカル人材とは、地球規模の視野をもち、草の根の地域の視点で足元の様々な問題を捉え、膠着しているように見える課題を革新的に解決しようとする人材を指します。
2. グローカル人材は、多様な価値観や立場の人たちと対話しながら、社会の課題の解決に対して糸口となるアイディアや新しい価値を共に創り上げていく「共創力」豊かな人材です。
3. 本学では看護基礎教育において、このような学びの機会を提供します。
4. グローカル人材育成アクションプランの目標は以下の通りです。
   1)歴史や文化の違う海外の国に身をおき、文化的能力(Cultural Competency)とAssertiveなコミュニケーション能力を高め、その国の文化や人々の暮らし、健康課題、保健・医療・福祉制度を理解する。
   2)翻って自文化の世界観に気づき、自己や自国・地域への関心を高めることを促す。
   3)海外におけるさまざまな経験を基に、日本の健康を巡る事象を考え調べようとする動機や、現状を突破しようとする思考を刺激し、以って自国・地域の健康の維持増進や健康課題の解決に向けて、革新的に考える能力を育てる。

4) 1)、2)、3)を通して、多様な価値観や立場の人たちと対話しながら、社会の課題の解決に対して糸口となるアイディアや新しい価値を共に創り上げていく「共創力」の素地を醸成する。

5.海外の国に身を置く学習プランは以下の通りです。

1)アメリカ、韓国、タイに希望する学生を募って派遣します。

2)海外研修出発前の綿密な準備と事後フォローを行い、学びの定着を図ります。

3)アメリカ研修は原則毎年実施し、期間は10日から2週間程度です。

4)韓国、タイ研修はおおむね隔年実施とし、1週間から10日程度です。

5. タイ国立チェンマイ大学とのMOU締結に向けて

看護研修を実施しているタイ国立チェンマイ大学とのMOU締結のために、チェンマイ大学を訪問、今後の学生・教員の相互交流の在り方についても話合い、現在進行中である。

6. 国際交流意識の向上をめざした取り組み

学生および教職員の国際交流意識の向上をめざし、以下について取り組んだ。

1) 教員の英語能力向上に対する取り組み

海外からの留学生増加への対応や、世界で活躍することのできる人材育成が求められる今、大学の教職員が求められるスキルも多様化してきている。英語で履修できる授業やコースの拡大は、国際的に評価される大学になるために不可欠であり、大学教員や職員のスキルアップが求められている。今年度は本学の行事として、人間科学領域国際・情報科学系群加藤穣准教授による大学教員向け英語セミナーを2回企画した。

第1回　日時：2018年9月19日(水)　16時20分～18時　場所：中講義室4

内容　第1部 英語学習の最前線：最新の研究から外国語学習に関する一般的な内容

第2部 英語を用いて研究する：ツールの紹介

第3部 英語入試問題の作成：問題の種類、採点に対する2つの考え方

参加者　41名

第2回　日時：2019年2月27日(水)　14時40分～15時40分　場所：中講義室4

内容　アメリカ研修を実現するための戦略＋英語の作問教室

参加者　34名

セミナー後のアンケートでは、様々な英語へのアプローチ方法が知れてよかった、英語論文を読むとき、作成するときに役立つ、英語の作問に活かせる、英語に親しみがもてた、時間をかけて頑張ろうと思った等満足度も高く、今後に活かせる内容であった。時間が短い、もっと聞きたい、定期的開催を望む等の声もあり、今後も年2回定期的に開催したいと考えている。

2) ワシントン大学ドーレンボス教授招聘に際して

2018年8月20日～28日にわたり、ワシントン大学のドーレンボス教授が来日され、国際交流委員会としては歓迎会、公開講演会、学部生の英会話レッスンについて担当した。公開講演会は2018年8月25日（土）13:30～16:00に大講義室で実施され、内容はは病む人々

の安楽や安寧をもたらす疼痛マネジメントのエビデンスを確立するために活用された混合研究法（Mixed Methods Approaches in Nursing Research）の基本的知識と実践例について紹介していただいた。

ドーレンボス教授のご厚意もあり、教職員・学生共々有意義な交流ができた。

3）国際交流の掲示板の内容の更新

本学の国際交流活動を広く周知するために設けられた学内2か所に国際交流の掲示板の内容を平成30年度版に更新した。更新した内容は、夏期アメリカ看護研修、タイ国立チェンマイ大学看護研修、JICAからの委託研修（日系:パラグアイ、青年:カンボジア）、ワシントン大学（アメリカ）のドーレンボス教授招聘である。

なお、ワシントン大学との提携に関する覚書の更新、同大学クリスマン教授への感謝状贈呈、中国の南京中医薬大学（江蘇省）および吉林大学看護学部（吉林省）との提携に関する覚書の締結の写真は継続して掲示している。

4）国際交流の集いの来年度開催に向けた準備

本学学生が留学生等の講演や対話を通して、異文化のなかの多様な価値観を知ること、また、国際的視野を広げるとともに、海外で学ぶことの動機付けの機会とすることを目的に毎年開催されている。前年度、2月開催であり、大雪で延期したこと、参加学生が少ないことから、時期の見直しをはかることとし、今年度は開催を見送り、企画を固める年とした。

海外研修の募集の時期である年度始めの4月開催とし、留学生の選定も研修に関係する国の方に依頼し、研修参加の意欲を高めたいと考えており、現在準備中である。

7.2　夏期アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」）

2018年8月31日～9月13日の2週間にわたり、夏期アメリカ看護研修がワシントン州シアトルで行われ、学生11名（3年10名、2年1名）が参加した。

研修内容

1. 講義

1）テーマ：「U.S.Health Care System and Adovanced Practice Nursing」
講　師：上月頼子先生（ワシントン大学看護学部准教授）
内　容：
①アメリカの保健医療システム
②アメリカのNSが働いている場（病院・クリニックやそれ以外の場）
③看護教育制度（NPの紹介、ライセンスを得るための教育、権限・責務など）

2）テーマ：「現場から見た日米の医療と看護の違いについて」
講　師：Yuko Hansen先生（Children’s Hospital）
内　容：日米の医療システム、医療現場、看護師の働き方の違い
メディカルスタッフの中での役割分担（Dr、SW、PT、OT、ST、NSのそれぞれの役割）
についてご自身の体験を交えた講義

2. 語学研修

日常英会話、看護英語など

3. 保健医療・福祉施設の見学

1）University of Washington
2）Harborview Medical Center
3）Keiro Northwest
4）Nikkei Manor
5）University of Washington School of Nursing　Simulation Center
6）Carolyn Downs Family Medical Center
7）Seattle Central College

4. 日程

	月 日 (曜)	都 市 名	発 着	交通機関	時 刻	日 程
1	8/31 (金)	小松空港 羽田空港 成田空港	発 着 発	全日空 3118 〃 全日空 178	14：40 15：55 18：05	着後、リムジンバスにて成田空港へ 一路、シアトルへ ≪日 付 変 更 線≫
		シアトル	着	Ling Light Rail ホストファミリー	11：25 午 後 夕	入国審査後、Ling Light Rail でワシントン大学へ スーツケースを預け、歩いてキャンパスへ ワシントン大学生によるキャンパスツアー オリエンテーション ホストファミリーと対面。ホームステイ宅へ
2	9/1 (土)	シアトル		市バス	午前 午後	ワシントン大学への行き方を学ぶ ワシントン大学 Ling Light Rail Station 集合 シアトルダウンタウン観光 パイププレイスマーケットやウォーターフロントなど
3	9/2 (日)	シアトル		市バス	終 日	**エクスカーション** **フェリーで Bain Bridge Island へ：**初期の日系移民の歴史が始まった日本人ゆかりの島
4	9/3 (月)	シアトル		市バス	終日	フリータイム(Labor Day のため休日)
5	9/4 (火)	シアトル		市バス	09:30 13:00	English Lesson（日常英語） **ワシントン大学看護学部准教授** **上月先生による講義** 「アメリカのナース（NS）の役割・教育・保健医療システムについて」
6	9/5 (水)	シアトル		市バス	09:30 午 後	English Lesson（日常英語） **Harborview Medical Center へ**　（通訳付き） ※第 1 級外傷センターとして高い評価を得ている病院の病棟やリハビリセンター、Medic 1 などを視察
7	9/6 (木)	シアトル		市バス	09:30 14:15	**Keiro Northwest へ** 軽介護施設での高齢者との触れ合いと看護ケアについて学ぶ。 **Nikkei Manor へ** ボランティアスタッフとして入居者と触れ合い、ケアだけでなくアメリカの日系人の歴史について学ぶ
8	9/7 (金)	シアトル		市バス	09:30 午 後	English Lesson（日常英語と視察事前学習） **日本人ナースによる看護セミナー**：日米の医療の様々な違いについて
9	9/8 (土)	シアトル		市バス	終日	終日フリータイム
10	9/9 (日)	シアトル		市バス	午前 13:10	ワシントン大学 Ling Light Rail Station 集合 **メジャーリーグ観戦** **（マリナーズ　vs　ニューヨークヤンキース ）**
11	9/10 (月)	シアトル		市バス		ワシントン大学 **ワシントン大学看護学部 Simulation Center　視察** English Lesson（日常英語） **Carolyn Down Family Medical Center 訪問** （通訳付き） ※低所得者へ医療を提供するプライマリーケアクリニックで地域での看護師の役割を学ぶ
12	9/11 (火)	シアトル		市バス	 9:30 12:00	Seattle Central College へ **現地学生との交流　＊現地学生や留学生との交流会（Seattle Central College）** ワシントン大学へ Presentation / Closing ceremony
13	9/12 (水)	シアトル		ホストファミリー Ling Light Rail 全日空 177	09：30 13：20	ワシントン大学 Ling Light Rail Station 集合 一路シアトル空港へ 帰国の途へ
14	9/13 (木)	成田空港 成田空港 小松空港	着 発 着	〃 全日空 3119 〃	15：40 18：45 19：55	 成田空港から小松空港へ 到着後、解散

7.3　平成30年度タイ国立チェンマイ大学看護研修

2018（平成30）年8月25日～9月9日の16日間にわたり、タイ国立チェンマイ大学看護研修が同大学看護学部で行われ、学生11名（4年1名、3年4名、2年6名）が参加した。

今回で第2回目となるチェンマイ大学看護学部オリジナルの研修プログラムは、平日の午前は毎日講義 → 午後からは午前の講義内容を踏まえた見学演習や視察訪問という形式を踏襲しつつ、2年前よりさらにグレードUPされ、タイ看護教育の歴史から、伝統的補完代替医療、タイの地域包括ケアシステムやヘルスボランティアの育成、性教育プログラムの作成と親への介入研究の報告や、同性愛者へのHIV予防啓発、健康教育機関の視察など、日本の看護教育現場では得ることのできない講義や訪問視察を豊富に盛り込まれた内容であった。

本プログラムは、本学の学生向け海外研修の中で最も日程が長期にわたるものであり、国際交流に重きをおいて参加する学生には負担を感じることも懸念された。しかし、学習者にとっては学んだ記憶が新鮮なうちに実践されている場面に触れられるという優れた構成と内容から、基礎看護学実習レベルの2年生、領域別実習に臨む3,4年生にとっても、興味深く能動的に学ぶ様子が多くみられた。

全日程のうち、3日程（各日、午後からの半日）

・8/30(木)　Saraphi Hospital

・9/ 3(月)　HangDong Thai Massage School

・9/ 6(木)　Mplus Foundation（MSM：男性同性愛者のHIV予防対策施設，NGO法人）

において上記3箇所への見学施設変更があったが、研修内容は目的に適合した予定通りの内容で実施された。

初日より帰国日まで、学生11名においては健康問題や安全上大きなトラブルもなく、引率教員は毎日、大学への報告メールを送信した。

研修内容

1. 目的

　政治や文化、社会経済の異なる国での保健医療システムを知り、地域における住民の暮らしや健康課題への対処方法について学ぶことにより視野を広げ、学生の将来の活動において様々な地域住民への健康づくりにアプローチできる、グローカルな視点をもった人材を育成する。

2. 目標

1）タイにおける健康課題と対策について理解する。

2）チェンマイの町中心部および周辺地域での看護職の活動を理解する。

3）タイの保健・医療・福祉システムを理解する。

4）チェンマイ大学学生等との交流を通してコミュニケーション能力を高める。

5）タイでの研修を通してわが国の健康課題等も理解し、新たな視野で解決策を考える。

3. 講義

1）テーマ：Nursing Education in Thailand

　講　師：Assist.Prof.Dr.Jutarat Mesukko

2）テーマ：Prevention of Infectious Deseases

講　師：Assoc.Prof.Dr.Wanchai Lertwatthanawilat

3）テーマ：Home Care Visit

講　師：Assist.Prof.Dr.Decha Tamdee

4）テーマ：Health Care System and Role of Public Health Nurses in Thailand

講　師：Dr.Rangsiya Narin

5）テーマ：Elderly Care in Thailand

講　師：Assist.Prof.Dr.Totsaporn Khampolsiri

6）テーマ：Wisdom and Thai Traditional Medicine

講　師：Assist.Prof.Dr.Sumalee Lirtmunlikaporn

7）テーマ：Pain Management in Neonate

講　師：Assoc.Prof.Dr.Patcharee Woragidpoonpol

8）テーマ：Trauma Care

講　師：Ms.Phatsawan Sairai, The Head Nurse of ER

9）テーマ：Prevention of HIV among Children and Adolescents

講　師：Prof.Dr.Warunee Fongkaew and PHD Students

4. 保健医療・福祉施設等の見学

1）Chiang Mai University Faculty of Nursing

2）Thai Traditional Complementary Medicine Center (TTCM)

3）Saraphi Health Center

4）Saraphi Hospital

5）Elderly Club, Faculty of Nursing, Chiang Mai University

6）HangDong Thai Massage School

7）Maharaj Nakorn, ChiangMai Hospital (Chiang Mai University Hospital)

8）Trauma Center , ChiangMai University Hospital

9）Mplus Foundation

5. 事前学習と研修最終日プレゼンテーション（学びのまとめ）内容

事前学習（日本の現状）	タイ研修最終日プレゼンテーション（学びのまとめ）	担当
外傷、創傷のケア	タイにおける看護教育	2年生
	外傷のケア	2年生
感染症予防、HIV(エイズ)等の現状と対策（保健制度）	タイにおける感染症予防	2年生
	小児期、青年期におけるHIV(エイズ)予防	2年生
高齢者の特徴、高齢者看護	老人クラブの見学：国立チェンマイ大学内の高齢者サロン	2年生
	タイにおける高齢者看護	2年生
地域における訪問看護	チェンマイにおける地域の訪問看護	3年生
	タイの伝統的医療	3年生
新生児の看護	新生児への疼痛ケア	3年生
	新生児集中治療室の見学：国立チェンマイ大学病院	3年生
医療・保健・福祉制度（保健師の役割）	タイにおけるヘルスケアシステムと保健師の役割	4年生

6. 研修旅程

月 日（曜日）	時 刻	日　　程	宿泊地
8月25日(土)	18:45 20:00	小松空港発　NH758 羽田空港着	機内
8月26日(日)	0:20 4:50 7:55 9:15	羽田空港発　TG661　(※ 所要時間6時間30分) バンコク着（日本時間6:50、時差－2時間） バンコク発　TG102（以降 現地時間） チェンマイ着、チェンマイ大学看護学部からバス送迎→ホテルへ	チェンマイ・ オーキッド ホテル
8月27日(月)	9:00- 10:30- 12:00- 13:30-	挨拶、プログラムのオリエンテーション 【講義１】タイにおける看護教育 看護学部主催の昼食会 国立チェンマイ大学　看護学部　→メインキャンパスの見学	(同上)
8月28日(火)	9:00- 13:30-	【講義２】タイランドにおける感染症予防 【見学】タイの伝統的な補完医療に関する施設訪問 Thai Traditional Complementary Medicine Center (TTCM)	(同上)
8月29日(水)	9:00- 13:30-	【講義３】チェンマイにおける地域の訪問看護 【見学】地域での訪問看護の実際　Home Visit in the Community	(同上)
8月30日(木)	9:00- 13:30-	【講義４】タイランドにおけるヘルスケアシステムと保健師の役割について 【見学】地域の病院を見学訪問　Saraphi Hospital	(同上)
8月31日(金)	9:00- 13:30-	【見学】老人クラブの見学：国立チェンマイ大学内の高齢者サロン Elderly Club, Faculty of Nursing, Chiang Mai University 【講義５】タイにおける高齢者看護	(同上)
9月1日(土)	終日	チェンマイの町と周辺視察 ①（チェンマイ大学の学生による案内） Chiang Mai Zoo, Doi Suthep temple, Zira Spa (Thai massage)	(同上)
9月2日(日)	終日	チェンマイの町と周辺視察 ②（チェンマイ大学の学生による案内） Mae Sa Elephant Camp, Tiger Kingdom, Sunday Walking Street で買い物	(同上)
9月3日(月)	9:00- 13:30-	【講義６】タイランドの伝統的医療とその知恵 【見学】伝統的タイマッサージ研修センター　HangDong Thai Massage School	(同上)
9月4日(火)	9:00- 13:30-	【講義７】新生児への疼痛ケア 【見学】新生児集中治療室 Maharaj Nakorn, ChiangMai Hospital (Chiang Mai University Hospital)	(同上)
9月5日(水)	9:00- 13:30-	【講義８】外傷のケア 【見学】大学病院 外傷センターを見学訪問 Trauma Center , ChiangMai University Hospital	(同上)
9月6日(木)	9:00- 13:30-	【講義９】小児期、青年期におけるHIV(エイズ)予防 【見学訪問】MSM：男性同性愛者のHIV予防対策施設（NGO法人） Mplus Foundation	(同上)
9月7日(金)	9:00- 11:00- 12:00-	学生によるプレゼンテーション、プログラムのまとめ 修了証書授与、写真撮影 昼食→自由時間	(同上)
9月8日(土)	19:20 20:30 22:45	自由時間→国立チェンマイ大学のバスで空港へ チェンマイ発　TG117 バンコク着 バンコク発　TG682　(※ 所要時間6時間10分)	機内
9月9日(日)	6:55 9:30 10:30	羽田空港着 羽田空港発　JL185 小松空港着	

以上

8. 地域創生

8.1　地域創生委員会

委 員 長：川島 和代　教授
委　　員：浅見教授（特任教授兼アドバイザー）、垣花准教授、谷本准教授、出村事務局長
事 務 局：宮川主任主事
活動内容：

1. 地域創生にかかわる活動について

平成28年度の本学委員会組織の改変により本学の地域創生事業を所掌する委員会として「地域創生委員会」が新設された。次の2つの班（部会）との連携を図りながら各事業を統括している。次年度よ事業班を統合して「地域創生委員会」として活動することとなった。

1）地域創生委員会の活動

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成システムの構築」は、石川県における高等教育機関 19の大学・短期大学・高専（大学コンソーシアム石川加盟校）統括本部をもって構成され、事業推進責任は金沢大学が所掌している。

平成28年度にて文部科学省補助金事業の「大学間連携共同教育推進事業」は終了したが、大学コンソーシアム石川内に「グローカル人材育成・共創インターンシップ専門部会」が設置され、事業は継続となった。次年度より本学内でも名称変更が必要である。

本学では、学内授業を『学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成プログアム』のスタンダードリストに搭載すること、民泊型フィールド実習の継続、海外研修（タイ　チェンマイ大学看護学部、韓国全北大学看護学部等へ隔年で研修）等の実施、その他地域ボランテイア等に取り組んだ学生活動をHHC科目で認定するなどの活動を継続している。平成30年度はグローカル・ヤングリーダー 4名を輩出した。

2）能登キャンパス構想推進協議会事業班（8.2と重複あり）

能登キャンパス構想推進協議会（石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町で構成、事務局は輪島市）を組織し、高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して8年目である。今年度は「能登・祭りの環」事業において能登町矢波地区の希望を受けて本学がコーディネートを担当した。1年次の授業でPRするなど担当者の工夫により参加総数21名に上った。また、大学祭に能登地区の病院紹介ブースを設ける活動に取り組んだ。

3）COCプラス事業班（8.3と重複あり）

本事業は平成27年度文部科学省が募集した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+）に金沢大学が中心となって応募した「金沢･加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材育成」が採択され、本学も参加校として予算措置を受けた。

平成30年度、「グローカル人材育成・共創インターンシップ専門部会」の委員として事業に参加し、他大学の共創インターンシップの成果報告やプログラムの採択に加わった。

8.2　能登キャンパス構想推進事業

実施団体名

能登キャンパス構想推進協議会：

石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町

概要

高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して7年目である。本協議会は、石川県(能登半島地震復興基金)、上記4大学、奥能登2市2町が出資して運営している。事務局は珠洲市である。本事業の運営のために本学は年間300千円の運営費を負担している。

8.2.1　能登キャンパス構想事業班

班　　長：谷本 千恵　准教授

班　　員：牧野教授、垣花准教授、市丸講師、出村事務局長

事 務 局：宮川主任主事

活動内容：

1. 協議会・幹事会の出席

協議会2回、幹事会4回開催があり参加した。

2. 事業班の活動内容

1）平成29年に設置した教育研究棟2階の能登地区紹介コーナーは、平成30年度にはさらに拡充して充実を図った。また大学祭に能登地区の1病院の看護部紹介ブースを設ける活動も継続したが、参加病院が減り、今後の課題である。

2)「能登･祭りの環」インターンシップ事業（当日･短期)「能登町･矢波諏訪祭り」について、インターンシップの準備･広報及び引率をおこない学生9名の参加があった。「能登･祭りの環」全体としては、本学の参加者は21名（3年6名、2年6名、1年9名）であった。1年次の授業で紹介するなどの工夫の効果がみられたと考える。引率教員の固定化を避けるため公募することとなった。

3. 今後の事業班の活動について

次年度以降の当該事業班は、上部委員会「地域創生委員会」に統合され、共に活動することとなった。

外部報告

該当なし

外部資金

該当なし

8.3　地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

実施団体名

（参加大学）金沢大学、金沢工業大学、石川県立看護大学、石川県立大学、金沢星稜大学、北陸大学、金沢学院大学、金城大学、（協力大学）7校

（自治体）石川県はじめ県内すべての自治体20

（企業・団体）企業・団体18

概要

本事業は文部科学省が募集した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に金沢大学が中心となって応募した「金沢･加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材育成」が採択された。本事業の目的は、地方創生の鍵となる若者の定着と産業と地域の活性化をめざし、グローバルな視点で地域を思考できる学生を育成し、地方創生を担う次世代の人材の輩出、また､地域関係機関（企業･自治体等）と連携した雇用創出を含む地域定着モデルの構築である。平成31年度までに石川県内の学生の就職率10%向上、うち10%は起業等による雇用創出をめざす数値目標を掲げている。

8.3.1　COCプラス事業班

班　　長：垣花 渉　准教授

班　　員：田村助教、金子助教

事 務 局：宮川主任主事

活動内容：

1. 事業班の活動

平成30年度、石川県立看護大学は特に積極的な活動には至らなかった。大学コンソーシアム石川内の専門部会「グローカル人材育成･共創インターンシップ専門部会」の委員（川島）が、他大学の共創インターンシップの成果報告やプログラムの採択に加わった。

2. 今後の事業班の活動について

次年度以降の当該事業班は、上部委員会「地域創生委員会」に統合され、共に活動することとなった。

外部報告

該当なし

外部資金

該当なし

9. 附属図書館

9.1　図書館運営委員会

委 員 長：西村 真実子　教授（附属図書館長）
委　　員：多久和教授、織田准教授、加藤准教授、石川准教授、林（静）准教授
事 務 局：田畠総務課長、山本嘱託(2018年8月まで)
活動内容：

1　図書館による学習支援：文献検索セミナー（実践編）

学生への図書館活用に関する調査の結果を基に、文献検索の仕方(医中誌の使い方等)に関するセミナーを開催した。

・1年生：担任の協力のもと、8〜9月にミニ研修会(4〜5名/回)を実施
・2年生：担任の協力のもと、ミニ研修会実施(2019年1月14日、1月31日)
・3年生：科目「看護研究」の中で実施(12月20日)
・4年生：昨年度に実施済
・院生：大学院科目「看護研究」で実施、随時のミニ研修会(6月〜)に参加を促した。

次年度以降は、新入生ガイダンス時の実施と、科目内での学習、随時のミニ研修会でまなんでもらうことにする。

2　学生の要望把握方法の工夫

学生の図書館に対する要望・意見を把握するために、2つの取り組みを昨年に引き続き行った。

・図書館内随所に要望等を記載する小さなメモ(つぶやき用紙)と投函ボックスを設置
・学生の希望図書等の用紙の作成

2018年度から、クラス委員に学生の図書館への要望を集約してもらう役割をしてもらうことになったが要望はほとんどなかったため、記録用紙を作成し、クラスアワー等でPRした。

3　学習環境の整備

データベースのより効率的な利用をめざして、新しいデータベースを含めて検討を行い、看護と周辺領域の幅広い学術論文等を所蔵し、かつ全文に簡便にアクセス可能なデータベース・文献検索サービスを導入することになった。次年度、試用期間を経て導入される予定である。

4　シラバス記載内容の整理・修正

シラバスの「第Ⅴ章　付属図書館利用案内」を現状に即したものに、また新入生ガイダンスの説明用資料として使用することを想定して整理し、大幅に修正した。

5　図書等の整備状況

図書・視聴覚教材を整備すべく、例年通りに教職員を対象に購入推薦図書の調査を行ない、図書1,020冊を受入れ・整理し、利用に供した。また、図書316冊が寄贈された。希望が出さ

れた視聴覚教材については、次年度以降のアクションプランの中で購入することとなった。

9.2　今年度の主な活動概況

9.2.1　図書館事業の実施

1.　リユース図書の実施

図書館が複本で所蔵する図書と、学生、教員から寄贈を受けた、リユース用図書を6月から常時提供を開始した。

2.　わく・ワーク（work）体験事業

かほく市立高松中学校2年生2名が、7月24日（火）～ 25日（水）の2日間「わく・ワーク（work）体験事業」に参加、図書の移動、配架、図書装備、カウンター業務等、図書館業務を体験した。

3.　企画展示の実施

テーマ別に企画展示を行った。（カッコ内展示期間　冊数）

1)「あなたのスタート新生活応援！図書展」

〇学び始める編（4/5 ～ 5/15）

・「論文の書き方をマスターしよう！」（94点）

・「大学をもっと知ろう」展（21点）

・大学生になったら洋書を読もう（45冊）

〇暮らし始める編（4/5 ～ 5/15）

・生活も楽しく快適に（21冊）

4.　文献検索データベース講習会の実施

12月20日（木）　研究方法論　～文献検索 演習～　3年生（82名）

1月24日（木）文献検索セミナー　～ Hands-on（体験編）～　2年生（85名）

1月31日（木）　〃

9.3　資料整備状況

資料整備状況（平成31年3月31日現在）（　　）内平成30年度受入れ数

コレクション別		総　　数	内　訳	合　計
図　　書	和書	53,697冊（1,384冊）	購入：1,068冊 寄贈：316冊	合計59,719冊 （1,395冊）
	洋書	6,022冊（11冊）	購入：11冊	
雑　　誌	和雑誌	453誌	継続購入99誌	合計　622誌 （内購入129誌）
	洋雑誌	169誌	継続購入30誌	
新　　聞	日本紙	6紙	―	7紙
	英字紙	1紙	―	
視聴覚資料	CD-ROM	163点（0点）	購入：0点	合計　2,225点 （0点）
	ビデオ	1,376点	―	
	DVD	665点（0点）	購入：0点	
	eBOOK	21点（0点）	購入：0点	

9.3.1　分野別蔵書構成（平成31年3月31日現在）

○総冊数：59,719冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	芸術	言語	文学
冊数	4,434	2,999	685	8,448	1,654	20,154	14,615	1,191	246	1,500	1,339	2,454

9.3.2　医学分類蔵書構成（平成31年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：20,154冊

分類	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
標目	医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
冊数	1,581	3,017	1,435	6,655	2,064	936	112	119	3,998	237

9.3.3　看護系資料分類別構成（平成31年3月31日現在）

○看護学関係図書総冊数：14,615冊

分類	N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
標目	看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家族看護	状態別看護
冊数	2,519	1,002	3,933	701	482	1,893	563	409	2,038	1,075

9.4　利用統計

9.4.1　開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	24	23	26	25	23	24	26	23	22	20	22	19	277
入館者数	5,107	6,342	5,456	8,353	5,300	3,958	6,252	5,219	4,038	4,131	4,614	844	59,614
1日平均	213	276	210	334	230	165	240	227	184	207	210	44	215

9.4.2　館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	335	491	306	320	289	257	408	372	154	190	106	37	3,265
	冊数	718	1,146	643	752	615	818	996	1,082	377	512	225	61	7,945
院生	人数	42	33	33	27	24	22	32	20	25	43	28	14	343
	冊数	101	76	75	61	88	45	78	61	77	122	72	44	900
教職員	人数	42	62	48	40	44	33	63	60	44	41	46	26	549
	冊数	120	147	108	92	142	91	165	223	121	126	115	67	1,517
一般	人数	85	97	98	98	113	102	178	123	117	86	66	47	1,210
	冊数	184	216	219	168	166	148	198	214	143	178	126	118	2,078
計	人数	504	683	485	485	470	414	681	575	340	360	246	124	5,367
	冊数	1,123	1,585	1,045	1,073	1,011	1,102	1,437	1,580	718	938	538	290	12,440

9.4.3　他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	5	14	19	13	11	17	26	8	18	3	11	17	162
学生	45	46	71	23	44	33	118	8	4	49	22	33	496
一般	0	3	3	0	8	40	0	0	0	0	0	1	55
計	50	63	93	36	63	90	144	16	22	52	33	51	713

9.4.4　他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	12	7	9	2	15	5	2	8	4	14	6	7	91
学生	46	48	39	37	48	39	34	41	20	15	25	18	410
一般	4	13	8	6	7	5	6	8	4	7	1	4	73
計	62	68	56	45	70	49	42	57	28	36	32	29	574

9.4.5　館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	217	70	174	180	163	193	267	227	211	88	104	31	1,925
枚数	4,072	1,734	3,425	3,569	2,519	2,479	4,472	3,641	4,070	1,018	2,323	447	33,769

9.4.6　相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	12	7	11	7	9	6	3	7	2	3	3	6	76
大学	2	4	4	1	1	0	6	5	5	4	1	3	36
合計	14	11	15	8	10	6	9	12	7	7	4	9	112

9.4.7　相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	62	186	134	118	75	113	136	138	136	109	59	43	1,309
大学	0	4	0	0	1	2	1	2	2	1	0	0	13
合計	62	190	134	118	76	115	137	140	138	110	59	43	1,322

9.4.8　データベースアクセス状況

○洋雑誌：CINAHL（EBSCO社）（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	311	251	122	119	582	337	415	273	530	544	1,107	1,258	5,849

○和雑誌：メディカルオンライン（メテオゲート社）（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	1,867	1,327	1,023	3,340	1,652	901	2,874	1,315	1,939	739	750	1,278	19,005

9.5　利用者サービス

9.5.1　学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	対象者	対象・参加人数	内容
4月2日（月）	新任教職員ガイダンス	約10名	図書館の使い方 図書館の概要説明
4月4日（水）	新入生・編入生保護者説明	約90名	図書館の概要説明
4月5日（木）	新入生・編入生ガイダンス	約85名	図書館の使い方 図書館の概要説明
4月11日（水）	新大学院生ガイダンス	約20名	図書館の使い方 図書館の概要説明
4月17日（火） ～ 4月19日（木）	新入生を対象に「図書館へ行こう！」	1回約20名 計3回実施	DVD情報の達人・説明 館内の案内

9.5.2　学外向図書館サービス

県政バス、県内の中高生等を対象に、図書館の概要説明や、図書館の利用方法とオンラインデータベース講習会等を実施した。

日　　時	名　　称	対象・参加人数	内　　容
7月14日（土）	オープンキャンパス	高校生、父兄	図書館の開放、施設説明 図書リユースコーナー設置
7月24・25日 （火・水）	かほく市立高松中学校 「わく･ワーク(work) 体験事業」	生徒2名	図書装備体験 カウンター業務体験 資料の複写業務体験
8月10日（金）	県立田鶴浜高等学校衛生看護科	生徒35名	図書館の利用方法と データベースの講習
10月16日（火）	サードレベル教育課程図書館ガイダンス	30名	図書館の利用方法と データベースの講習
10月27・28日 （土・日）	大学祭 秋のオープンキャンパス	一般、高校生	図書館の開放 リユースコーナーの設置
12月20日（木）	研究方法論　～文献検索演習～	3年生（82名）	図書館の利用方法と データベースの講習
1月24日（木） 1月31日（木）	文献検索セミナー ～ Hands-on(体験編) ～	2年生（85名）	図書館の利用方法と データベースの講習
5月15日（火） ～ 10月18日(木)	県政バス（輪島市他） 計7回	約300名	図書館の概要説明

9.5.3　学内で利用できるデータベース

	内　　容	同時使用
最新看護索引web	看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度（第42回）より、電子版を掲載。全10領域の「論文集（電子版）」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。	3
PubMed	医学分野の代表的文献情報ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ。米国NLM作成。医学・歯学・生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。	フリーアクセス
メディカルオンライン	医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅ひろく提供。	フリーアクセス
CINAHL	看護学・保健学分野の文献情報データベース。約3,000誌の専門誌が対象。データ数約42万件。（EBSCO社）	4
PsycINFO	心理学、行動科学、精神医学分野の文献情報データベース。29カ国、20以上の言語で出版されている2,400点の心理学関連資料から収録。	フリーアクセス
医学中央雑誌	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約5,000誌。収録件数約630万件。	8
JDreamⅢ	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全文DB。収録約5,200万件。	10
Nii、CiNii（国立情報学研究所）	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 （主宰：国立情報学研究所）	フリーアクセス
ELSEVIER Science Direct	購読タイトル（9誌）の2007年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research 」他9誌 ｻﾌﾞｼﾞｪｸﾄ・ｺﾚｸｼｮﾝの論文すべて 対象ｻﾌﾞｼﾞｪｸﾄ：Nursing and Health Professions	4

9.6　職員研修

9.6.1附属図書館職員の研修

日　　時	場　所	名　　称	内　　容	参加者名
4月13日（金）	金沢市	平成30年度図書館協力業務・ネットワーク担当者会議 主催：石川県公共図書館協議会	県立図書館との相互協力について	山本　晃暢
9月6日（木）	神戸市	2018年度JPCOARスキーマ説明会 主催：オープンアクセスリポジトリ推進協会	JPCOARスキーマ概要について	加藤　穣 山村　徹
10月25日（木） 10月26日（金）	東京都	2018年度機関リポジトリ新任担当者研修・JAIRO Cloud操作説明会 主催：オープンアクセスリポジトリ推進協会	オープンアクセスの推進と機関リポジトリの構築・運用に必要な基礎的な知識と技術を習得について	浅井千鶴代

10. 附属地域ケア総合センター

10.1　地域ケア総合センター運営委員会

委 員 長：武山 雅志　教授（附属地域ケア総合センター長）
委　　員：長谷川教授、石川准教授、中道講師、金谷講師、竹田特任講師
委員補佐：曽根助教、桶作助教
事 務 局：寺訳教務学生課長、宮川主任主事
開催頻度：年4回開催
活動内容：

運営委員会では人材育成、地域活動、国際貢献の3部会の報告を元に、全体のセンター事業の進捗状況を把握するとともに、提示された課題について検討した。また中期計画における年度計画に基づいて平成31年度事業の方向性について検討を行った。社会連携・社会貢献の適切性について大学コンソーシアム地域連携部会の事業評価項目を用いて、平成31年度事業案を対象として試行し、その問題点を整理した。地域や関係団体のニーズを掘り下げ、本学教員の研究テーマとのマッチングを進める参考に、山口県立大学地域共生センターを視察した。

平成30年度はかほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会を2回開催し、意見交換を行った。平成28年度から始まった「健康ブランド化事業」を継続するとともに、新たに能登枠を設け能登地域に出向く形での在宅療養移行に関する人材育成事業をを行った。

各事業について本学HPやメールマガジンを活用し積極的に情報提供するように務めた。

10.1.1　人材育成部会

部 会 長：石川 倫子　准教授
部 会 員：織田准教授、谷本准教授、竹田特任講師
開催頻度：随時
活動内容：

人材育成事業の専門職研修として3講座、本学教員主催の研究会・事例検討会として6講座を実施した。相談サービス事業としては病院、行政、職能団体、福祉・高齢者関係の任意団体より研修会講師や看護研究指導の依頼が合計38件あり、年々増えてきている。

人材育成部会では、昨年度に実施した教育・研修のニーズ調査を基に、能登北部地区の医療･介護職を対象に専門職研修「能登北部医療圏の在宅療養移行支援を考える（参加者118名）」を実施した。また「新しい地域包括ケア時代のまちづくり」の研修を有料講座として実施した。いずれも地域包括ケアを確立していく時代のニーズに即した研修であり、平成31年度も継続して研修を実施していく。

10.1.2　地域活動部会

部 会 長：金谷 雅代　講師
部 会 員：林（静）准教授、川村講師、竹田特任講師
開催頻度：随時
活動内容：

地域連携・貢献事業の地域連携事業として7事業、生涯学習講座として4事業を実施した。ワンストップサービス事業として1件の依頼があった。

かほく市子育て支援課との連携事業として、学生による託児ボランティアや絵本の読み聞かせ活動を定期的に実施しており、この活動を支援した。また、かほく市長寿介護課のいきいきシニア活動推進事業の中で実施された「生涯現役」フォーラムで講演に協力した。宝達志水町主催の宝浪漫マラソンに救護班補助としてボランティア協力を行った。今後も地域のニーズに対応した活動を検討、展開していく。

10.1.3　国際貢献部会

部 会 長：中道 淳子　講師
部 会 員：阿部准教授、曽山講師、竹田特任講師
開催頻度：随時
活動内容：

国際貢献事業のJICA日系研修において、日本人会幹部向けの2週間の視察型の研修を実施した。研修生2名（パラグアイ）は、首都アスンシオンで高齢者福祉活動を熱心に行っている方と、ピラポ移住地で日本人会の事務局長をされている方であった。これまでの研修生が行ってきた研修内容を熟知されており、今後のパラグアイでの高齢者福祉対策を組織的に推進していくことが大いに期待できるアクションプランを発表することが出来た。今後は、草の根支援事業にシフトしていくことが目標である。

JICA青年研修ではカンボジアから14名の研修生を迎え、予防医学・公衆衛生分野における実施体制の課題解決を担う青年層の知識と意識の向上を目指して、講義や施設の視察を行った。研修生の中に助産師が多かったことから、母性看護学の教員との交流会を開催した。また、茶道サークルの学生と茶道を通しての交流も行った。

国際貢献部会としては上記の研修について、JICA北陸および羽咋市社会福祉協議会と協議を重ねて円滑な運営に努めた。それぞれの研修中のカントリレポートまたはジョブレポート発表と成果発表会は、関係者に加え学生の聴講も可能として開催した。開講式・閉講式を執り行うと共に、研修生に喜んでいただけるように工夫を凝らして歓迎会・送別会を実施した。

11. 附属看護キャリア支援センター

11.1　看護キャリア支援センター運営委員会

委 員 長：林 一美　教授（附属看護キャリア支援センター長）
委　　員：川島教授（学長補佐）、丸岡教授（学長補佐）、武山教授（学長補佐）、石川准教授、出村事務局長
事 務 局：寺井嘱託
活動内容：

1．今年度の活動

1）今年の事業計画

事業内容　①2期目の認知症看護認定看護師教育課程
②3期目の認定看護管理者教育課程
③県委託事業
看護教員研修事業
看護管理経営研修
④認知症看護認定看護師フォローアップ　研修

2）認知症看護認定看護師教育機関承認後の確認審査受審

3）北陸3県の医療・福祉関係機関の看護部責任者に対し、認知症看護認定看護師教育課程の受講ニーズ、および次年度以降の認定看護師教育課程の受講ニーズ調査を実施し、次期開講教育課程を検討する。

4）平成30年度の事業報告書のホームページ掲載

2．今年度の活動に対する評価

今年度の当センターの2つの教育課程（認知症看護認定看護師と認定看護管理者）実施をした。さらに2つの県委託事業を実施した。2教育課程・2県委託事業については、事業実施計画のとおりの運営が行えた。次年度の認知症看護認定看護師教育課程の入学生確保のために、北陸3県の医療・福祉関係機関の看護部責任者に対し、受講ニーズ調査をおこなった。また、秋期に入試説明会をおこない、定員以上の入試受験生の確保ができた。認知症看護認定看護師教育課程は、石川県の医療施策の一環でもあり、当初から3年の開講を予定しており、2019年度にて認知症看護認定看護師教育課程は休講予定である。次期の認定看護師教育課程に向けて、北陸3県の医療・福祉関係機関の看護部責任者に対して受講ニーズ調査を実施し、その結果から2020年は感染管理認定看護師教育課程を開講する予定となった。

また、認定看護管理者教育課程においても、当初から3年予定であったため今年度で休講予定となった。認定看護管理者教育課程運営委員会からは、再度の開講要望があった。

3．次年度以降に向けた課題・発展

1）看護キャリア支援センターの主たる財源は受講料であるため、受講生の定員確保は重要な課題である。受講生の確保方策や開講の継続を検討するために、毎年、看護職者の資格取得に関するニーズ調査を実施する必要がある。

2）認知症看護認定看護師教育課程・感染管理認定看護師教育課程の修了生に対し、分野は異なるが、修了生の活動支援のためのフォローアップ方策は引き続き検討し、適切な内容で実施する。

3）次年度は認知症看護認定看護師教育課程実施と並行して、感染管理認定看護師教育課程開講準備期間として、教員の確保、カリキュラム構築、入学試験の実施等、開講に向けての準備を整える必要があるため、関係機関の協力を得て行う。

4）認定看護管理者教育課程が閉講し、教員2名の定員削減となる。石川県委託事業については、引き続き前任者に企画・運営を依頼し行わねばならない。また、センター事業に関する教務・入試事務等に関しても、少人数で対応しなければならなくなるため、確実な業務運営が求められる。

11.2　認知症看護認定看護師教育課程

11.2.1　受講生の受講・修了状況

	定員	入学者数	修了者数
平成29年度	30	33	33
平成30年度	30	31	31

11.2.2　入学試験・入試説明会の実施

1）入学試験の実施

平成29年5月13日（土）（平成29年度入学生）

平成30年3月 3日（土）（平成30年度入学生）

平成31年3月 2日（土）（平成31年度入学生）

	定員	応募数	合格者数
平成29年度入学生	30	86	33
平成30年度入学生	30	49	31
平成31年度入学生	30	34	29

2）入試説明会の実施

平成30年10月20日（土）　参加者：35名

11.2.3　認知症看護認定看護師教育課程入試委員会

委 員 長：林 一美　教授（附属看護キャリア支援センター長）

委　　員：中道講師、多幡講師、堅田助教

久米真代（金城大学）、松田美紀（石川県済生会金沢病院）、福井亜紀（芳珠記念病院）、和田博之（福井県立すこやかシルバー病院）

事 務 局：寺井嘱託
活動内容：1. 入学者募集要項・選抜方法の検討
2. 入学試験の実施体制の検討
3. 入学者の合否判定

11.2.4 認知症看護認定看護師教育課程教員会

委 員 長：林 一美 教授（附属看護キャリア支援センター長）
委　　員：川島教授（学長補佐）、多幡講師、堅田助教
吉野幸枝（石川県看護協会）、永田厚子（石川県立高松病院）、冨澤ゆかり（金沢赤十字病院）、林浩靖（光ヶ丘病院）
事 務 局：寺井嘱託
活動内容：1. 教育課程の内容、教育環境整備に関する検討
2. 受講生の修了判定

11.3 認定看護管理者教育課程

11.3.1 受講生の受講・修了状況

	定員	入学者数	修了者数
平成29年度	25	24	24
平成30年度	25	23	23

11.3.2 認定看護管理者教育運営委員会

委 員 長：林 一美 教授（附属看護キャリア支援センター長）
委　　員：武山教授（附属地域ケア総合センター長）、丸岡教授（学長補佐）石川准教授、出口特任講師、塩村京美（石川県看護協会）、中西容子（金沢市立病院）、野村仁美（地域医療機能推進機構金沢病院）、中瀬 美恵子（浅ノ川総合病院）
事 務 局：寺井嘱託
活動内容：1. 受講生の決定と修了判定
2. 教育課程の内容・方法、教育環境整備に関する検討

11.4 石川県委託事業の開催

11.4.1 石川県看護教員現任研修事業

〈「臨床判断」モデルの概要と基礎教育・新人教育での活用〉

1）目　　的：「臨床判断」モデルについて知り、基礎教育と新人教育での活用をさぐる。
2）開催時期：平成30年8月4日

3）受 講 生：131名

4）内　　容：「臨床判断モデル」の概要と基礎教育・新人教育での活用

〈「パフォーマンス評価」の理解を深める〉

1）目　　的：学習者の思考・判断・表現力を育成するためのパフォーマンス評価を理解し、実際の授業展開ができる。

2）開催時期：平成30年8月18日、12月8日

3）受 講 生：8月18日（65名）、12月8日（34名）

4）内　　容：パフォーマンス評価の理解、パフォーマンス評価を用いた授業づくり、看護学教育におけるパフォーマンス評価の実際

11.4.2　管理者経営研修

1）目　　的：地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

2）開催時期：平成30年9月13日～9月29日の4日間

3）受 講 者：33名（看護師長以上の職位にある者）

4）内　　容：看護と介護の連携を考える､人々の在宅療養を支援し地域に根ざす病院の役割、看護現場学から考えるナースのキャリア開発支援、看護管理者のための病院経営数字力、組織分析に基づく看護管理上の課題解決に向けた戦略　24時間

11.5　感染管理認定看護師フォローアップ研修

1）目　　的：薬剤耐性における感染対策チームと抗菌薬適性使用支援チームの活動と役割を知り、自施設における感染管理活動にいかす。

2）開催時期：平成30年9月29日

3）受 講 者：52名

4）内　　容：薬剤耐性における感染対策チームと抗菌薬適性使用支援チームの活動と薬剤師の役割、兼任感染管理認定看護師の活動と役割

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1　超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

実施団体名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学、石川県立看護大学

概要

北信がんプロの実施内容として、1）6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代･希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9)。2）テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3）スタッフ研修として海外FD研修の実施。4）他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。5）市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育における、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、インテンシブコースでの地域の医療従事者へのがんに関する知識・技術の普及である。特徴として、北陸、信州地域のがん関連病院をつないだテレビ会議システムを用いた事例検討会を実施し、がんに強い看護師の育成に努めることである。

12.1.1　がんプロ企画委員会

委 員 長：牧野 智恵　教授（学長補佐）

委　　員：石垣教授（学長)、林（静）准教授、金谷講師、磯助教、松本助教、磯助教、山﨑助教、今方助教、瀧澤助教、濱鍛冶特任助手

事 務 局：澤本主幹兼係長　納橋専門員

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

がんライフステージコースとして、がん専門看護師コースの大学院生を対象にしたコースである。本学1名、福井大学1名の計2名の申し込みがあり、北信がんプロのe-learning科目とがん看護専門看護師の科目の履修を進めている。修業年限は2年であり、今年度の修了者は1名である。

2. インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の2つのコースへの募集および成績判定を行った。

1)「がん看護インテンシブAコース」

平成19年度から実施しているコースの一つで、北陸がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護師専門看護師の受験をめざしている看護師、または更新予定のがん看護専門看護師を対象としたコースである。今年度は1名が履修した。

2）がんライフケアコース

看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカーを対象としたコースで、今年度は、受け入れ目標5名に対して、10名が申請した。

3．がんプロ企画の実施と評価

今年度は、3つの公開講座と、2種類の事例検討会を実施した。

1）ライフステージ事例検討会およびCNS対象クローズド事例検討会企画・評価

①ライフステージ事例検討会を実施した。

今年度は、6月から翌年3月までの期間に計8回の事例検討会を企画し、計732名の看護師、医師、薬剤師、OT/PTが参加し、昨年度552名を大きく上回った。今年度は信州から2施設の参加が増え、活発な意見交換を行えた。

②CNSおよびCNS候補者を対象に、CNSクローズド事例検討会を2回実施した。7月13日には、北里大学病院のがん看護専門看護師の坂下智珠子さんをお呼びし、13名が参加した。9月10日には、石垣靖子先生をお呼びし、14名が参加した。9月は、石垣靖子先生の「緩和ケアと臨床倫理」と題する講義もあり、講義には約40名が参加した。

2）「がんゲノム医療を理解し現場に活かそう」公開講演会の実施・評価

9月29日（土）13:00〜15:30にホテル金沢にて、「がんゲノム医療を理解し現場に活かそう」を開催した。第1部は、金沢医科大学の安本和生教授の「真の個別化、がんゲノム医療の到来」、第2部は、東邦大学看護学部の村上好恵教授を講師としてお呼びし、63名の看護師、薬剤師、医師が参加し、活発な意見交換も行われた。

3）「臨床で行なうリンパ浮腫ケア」＜基礎編＞および＜アドバンス編＞の企画・評価

①石川県済生会金沢病院（がん看護専門看護師・日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト）の高地弥里さんを講師として招き、8月5日（日）に本学成人看護学実習室にて実施し、52名の看護師が参加した。演習では、一人ずつマッサージでの圧の加減について高地先生に指導していただいたこともあり、自由記載において、「今回の実演により、これからは実践していけそう」という意見も得られた。また「浮腫のアセスメントをしっかりしたうえで、施術方法も把握して対応したい」など、知識を持つことやアセスメントの重要性も学べたことが伺えた。

②基礎編の1か月後、9月8日（土）に、高地弥里さんと時山麻美さん（富山県立中央病院、がん専門看護師・日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト）を招き、これまでの基礎編に参加した人の中から　11名が参加した。基礎編に引き続き、より実践に活かせる内容の支援をした。

4）FD・SD講演会の企画・評価

平成31年3月2日（土）にホテル金沢にて、北陸CNSの会との共催にて、「人生最終段階の生をどう支えるか　〜人生から治療の意味を考える」と題した事例検討会及びシンポジウムを開催し、114名の看護師の参加があった。

第1部で、富山県立中央病院の時山麻美さんによる事例提供ご質疑応答がなされ、事例に関して，古谷和紀（京都大学医学部付属病院、老人看護専門看護師）、平優子（市立砺波総合病院、がん看護専門看護師）、松本友梨子（福井県済生会病院、がん看護専門看護師）によるレクチャーの後意見交換をおこなった。老年のがん患者が多く、意思決定支援やその人らしさへの看護を悩む中でとても参考になったとの意見があった。

4. 海外研修の報告会

平成30年3月24日（土）～3月30日（金）の期間、オーストラリアのメルボルンに、「メルボルン緩和ケア視察研修2018」を企画し、14名の看護師、医師、薬剤師が、石川県、福井県、富山県、長野県から参加した。その報告会を、2018年5月、テレビ会議システムを用いて、6大学同時に開催した。オーストラリアにおける緩和ケアの歴史は長く、1967年近代ホスピス運動がイギリスで起こり、植民地であった歴史を持つオーストラリアは早くにその影響を受けた。1980年代にかけて在宅における終末期ケアのニーズが高まり、それに沿う形で在宅緩和ケアが発展した。在宅緩和ケアの実践の歴史のあるオーストラリアの緩和ケアの現状を視察することで、北信地域における緩和ケア実践のヒントを得ることができた。

外部報告

平成30年度事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）連携大学の負担金

6,700千円

13. 大学施設の開放

実施年月日	内　　容	参加 人数（人）
30. 4〜31. 5　木曜	キャッチボール練習	2
30. 4〜31. 3　火曜	スポーツ教室	60
30. 4〜31. 3　土曜・日曜	野球練習	15
30. 6〜30. 11	介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修	40 〜 80
30. 4. 1	ピアノ発表会	150
30. 4. 14・15	吹奏楽コンサート、リハーサル	250
30. 5. 26	ピアノコンサート	25
30. 6. 5・12・19・26	キャッチボール練習	2
30. 6. 16・17	石川県紙ひこうき大会	350
30. 6. 16	石川県介護福祉士会公開セミナー	300
30. 7. 21	地域高齢者サポートを考える会　講演会	200
30. 7. 26	教育研究中間集会	200
30. 8. 9	食品衛生責任者研修会	200
30. 8. 10	バドミントン・卓球練習	4
30. 8. 22	食品衛生責任者研修会	200
30. 8. 23	教育研究総括集会	200
30. 9. 8	作品展展示準備	10
30. 9. 12〜14	専門的看護実践力研修	45
30. 9. 16・17	定期演奏会・リハーサル	400
30. 9. 21	グラウンドゴルフ練習	12
30. 10. 7	音楽発表会	13
30. 10. 7	合唱練習	40
30. 10. 13	ピアノコンサート	30
30. 10. 13・14	介護支援専門員実務研修受講試験	300
30. 10. 20	日本精神科看護協会石川県支部学術集会	100
30. 11. 25	在宅医療・介護連携推進のための講演会	200
30. 12. 16	子ども会行事	80
30. 12. 23	クリスマスコンサート	100
31. 3. 3	理容師美容師国家試験（筆記試験）	350
31. 3. 9	高松病院　院内学会	100
31. 3. 24	音楽発表会	100

編集後記

平成30年度の石川県立看護大学年報をお届けいたします。前年までの様式に倣い、1年間の本学教員の活動を記録しています。創立20周年を目前に控えて、学部カリキュラムの改定内容が確定し、委員会構成も一新するなど大学運営の見直しが行われた年でした。各委員会では校務負担の軽減をねらいとして人員がスリム化されました。世代交代を見据えて選出された若手各委員長のもと、これまでの活動を継承しつつも様々な新規取り組みが試行されてきたように見受けられます。具体的内容については本誌をご参照ください。

国際交流活動としては夏期アメリカ看護研修に加えてタイ国立チェンマイ大学看護研修も軌道に乗り、韓国看護研修とともに単位化が検討されました。夏にはワシントン大学ドーレンボス教授を招聘しましたが、大学院生を中心に丁寧な指導を受け、講演を通して科学的思考を学ぶなど、研究活動にも大きな示唆を与えられる貴重な機会となりました。

また助産師養成課程が始動したことも大きな出来事でした。研究を志向する若い大学院生の増加は本学の教育体制にも新たな変化の可能性をもたらします。開校年である平成30年度以降、学生の熱意に応えるべく担当教員が日々奮闘されていますが、より多くの教員が何らかの形で関与する機会を設けることが望まれます。

一方で公立小松大学、富山県立大学看護学部の相次ぐ開校が本学の受験志願者数にも大きく影響した年でした。厳しい現実を直視し、今後も県内外の優秀な生徒を迎えるために、本学の魅力や強み、課題について改めて捉え直すことが求められます。

この年報がお手元に届くころ、時代は令和を迎えていますが、社会情勢は平成から地続きで変化しています。消費税は10%への増税が強行されようとしています。教育界隈においては、大学入試改革の行方は予断を許さない状況が続き、競争を前提とした文教政策の成果についても疑問の声が広がりつつあります。大学、あるいは所属教員が自身で考え、意見を表し、行動することでプレゼンスを発揮する流れが来ています。このような時代の中、われわれ石川県立看護大学の教員も、本学の目指すべき姿、目標や理念について見つめなおすとともに、広く意見を交換し、多様性を認めつつも一体となって課題に取り組んでいくことが本学の発展につながるものと考えます。

本誌の編集にあたり各委員会、附属地域ケア総合センター、附属図書館、附属看護キャリア支援センターの皆様から多大なご協力を頂きましたことにお礼を申し上げます。また実質的な作業を担った平村主任主事をはじめ、松原委員、川村委員、曽根委員にその労をねぎらいたいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

2019年9月吉日　自己点検評価委員会　年報編集部会長　市丸徹

平成30年度　石川県立看護大学年報　第19巻
2019 年 9 月 30 日　発行

編集：石川県立看護大学　自己点検・評価委員会
年報編集部会

発行：石川県公立大学法人　石川県立看護大学
〒929-1210　石川県かほく市学園台 1 丁目 1 番地
tel.076-281-8300 ㈹　fax.076-281-8319

「版権は石川県公立大学法人に帰属する。」

（この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。）